

旭・小島古墳群

－ 林地区Ⅱ －

小島西土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書Ⅴ

2007

本庄市教育委員会

序

本庄市はかつて中山道一の繁栄を誇った宿場町として、また、国学者塙保己一誕生の地として広く知られているところです。そうした豊かな歴史的背景と文化的風土をもつ本庄市は、また多くの貴重な埋蔵文化財にも恵まれ、市内には旧石器時代から近代に至るまで、さまざまな遺跡が分布しています。

本書に報告の旭・小島古墳群は、埼玉県教育委員会選定の重要遺跡のひとつで、昭和63年度からはじまった小島西土地区画整理事業の進行にともなって、数多くの発掘調査が実施されてきました。その結果、旭・小島古墳群には、すでに消滅している古墳が多数存在すること、古墳群の形成期間は4世紀から7世紀にかけて400年近くの長期間に及ぶこと、古墳群の範囲が1km四方以上の広大なものであることなどが判明し、県内でも最大規模の古墳群であるとともに、学術的にも貴重な遺跡であることが明らかとなってまいりました。本書には、全国的にも希少な古墳時代前期の小型方墳群の調査成果を取ることができました。

貴重な文化遺産を長く後世に伝えていくことは、現代に生きるわたくしたちに与えられた責務であり、歴史を明らかにすることはよりよい未来を築くための手掛かりとなるものです。こののちは、本書が学術研究の発展に資するとともに、一般にも広く活用されることによって郷土史への関心や埋蔵文化財への理解が一層深められることを願ってやみません。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、ご指導、ご教示を賜りました方々、現地調査にご協力いただいた関係諸機関、直接調査の労にあたられた皆様に心よりの御礼を申し上げます。

平成19年3月

本庄市教育委員会

教育長 茂木孝彦

例 言

1. 本書は埼玉県本庄市小島2丁目、3丁目、小島、下野堂ほかに所在する旭・小島古墳群発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、本庄市小島西土地地区画整理事業に伴い、事前の記録保存を目的として、本庄市教育委員会が実施したものである。
3. 発掘調査地点ごとの調査期間、調査面積、調査原因および調査担当者は、それぞれ各節の冒頭に記したとおりである。
4. 整理調査期間は以下のとおりである。
自 平成18年4月1日
至 平成19年2月15日
5. 整理調査および本書の編集担当者は以下のとおりである。
本庄市教育委員会文化財保護課 太田博之
6. 本書の執筆担当者は以下のとおりである。
本庄市教育委員会文化財保護課 太田博之
7. 本書に掲載した発掘現場写真の撮影は各発掘調査担当者が行った。
8. 本書に掲載した出土遺物、遺構および遺物の実測図ならびに写真、その他本報告に関係する資料は本庄市教育委員会において保管している。
9. 発掘調査から整理、報告書の刊行に至るまで、以下の方々から貴重な御助言、御指導、御協力を賜った。ご芳名を記し感謝申し上げます。(順不同・敬称略)

秋元 陽光 新井 端 石橋 充 稲村 繁 犬木 努 井上 裕一 入澤 雪絵
内山 敏行 江原 昌俊 大谷 徹 賀来 孝代 加藤 一郎 風間 栄一 加部 二生
車崎 正彦 小林 修 坂本 和俊 佐々木 幹雄 島田 孝雄 志村 哲 杉山 晋作
清喜 裕二 滝沢 誠 鳥羽 政之 長井 正欣 中里 正憲 中沢 良一 日高 慎
深澤 敦仁 山崎 武 若狭 徹 外尾 常人 金子 彰男 田村 誠 丸山 修

10. 本報告の発掘調査、整理調査および報告書の編集・刊行に関係する本庄市教育委員会の組織は以下のとおりである。

教 育 長 坂本 敬信 (平成元・2年度)
塩原 暁 (平成3～10年度)
福島 巖 (平成11～17年度・平成18年2月17日まで)
茂木 孝彦 (平成17・18年度・平成18年2月18日から)

〈本庄市教育委員会事務局〉

事 務 局 長	荒井 茂 (平成元年度)	文化財保護係	長谷川 勇 (平成元年度)
	金井 善一 (平成2～5年度)		増田 一裕 (平成元～6年度)
	荒井 正夫 (平成6～8年度)		太田 博之 (平成元～17年度)
	中村 勝 (平成9年度)		赤尾 直行 (平成元～3年度)
	渡辺 正彦 (平成10・11年度)		佐藤 好司 (平成3～9年度)
	倉林 進 (平成12・13年度)		遠藤 優子 (平成4～6年度)
	揖斐 龍一 (平成14～17年度)		塩原 浩 (平成7・8年度)
	丸山 茂 (平成18年度)		関根 君江 (平成9・10年度)
参 事	宮本 清 (平成2年度)		我妻 浩子 (平成11～15年度)
社会教育課長	荒井 正夫 (平成元年度)		斉藤 みゆき (平成16・17年度)
	坂上 英夫 (平成2～5年度)		松本 完 (平成12～17年度)
	中島 正和 (平成6～9年度)		町田 奈緒子 (平成13～15年度)
	恩田 高治 (平成10年度)		逆井 洋美 (平成16年度)
	阿部 均 (平成11・12年度)		的野 善行 (平成17年度)
	田中 靖夫 (平成13・14年度)	文化財保護課長	前川 由雄 (平成17・18年度)
	吉田 敬一 (平成15～17年度)	同 課 長 補 佐	増田 一裕 (平成17・18年度)
同課長補佐	中島 正和 (平成元年度)		鈴木 徳雄 (平成17・18年度)
	吉田 敬一 (平成2～6年度)	埋蔵文化財係	
	小暮 浩一 (平成7・8年度)	係 長	鈴木 徳雄 (平成17・18年度)
	中村 文男 (平成9～11年度)	埋蔵文化財係	太田 博之 (平成17・18年度)
	福島 保雄 (平成12～14年度)		恋河内 昭彦 (平成17・18年度)
	桜場 幸男 (平成15～17年度)		松澤 浩一 (平成17・18年度)
	上野 良一 (平成16・17年度)		松本 完 (平成17・18年度)
文化財保護係			的野 善行 (平成17・18年度)
係 長	中島 正和 (平成元年度)	調 査 担 当 者	長谷川 勇 (平成元～3年度)
	長谷川 勇 (平成2～6年度)		佐藤 好司 (平成3～9年度)
	増田 一裕 (平成7～14年度)		増田 一裕 (平成10～14年度)
	吉田 稔 (平成15～17年度)		太田 博之 (平成12～18年度)
			松本 完 (平成12～18年度)
			町田 奈緒子 (平成13～15年度)
			的野 善行 (平成17・18年度)

凡 例

1. 本書所収の遺跡全体図におけるX・Y座標値は国土標準座標第IX系に基づく。
2. 各遺構における方位針は座標北を示す。
3. 本書掲載の遺構図ならびに遺物実測図の縮尺は、原則的に以下のとおりである。

[遺 構 図]

遺構平面図…1/160・1/200

土層・遺構断面図…1/40・1/80

[遺物実測図・拓影図]

埴 輪…1/4

須 恵 器…1/4

土 師 器…1/4

その他のものについては、個別にスケールを示した。

4. 本書の本文中および観察表で用いた円筒埴輪の各部名称は、突帯を下から上に向かって順に第1突帯、第2突帯、第3突帯とし、各段を基部の側から口縁部に向かって順に第1段、第2段、第3段……とした。
5. 円筒埴輪観察表の「底部・巻き」の「左・右」は、基部を成形する粘土板の巻き合わせの方向を示し、製作者側（上）からみて左端を上重ねたものを「右」、右端を上重ねたものを「左」とした。
6. 円筒埴輪観察表の「底部・圧痕」の「棒状」、「木目状」等の記載はあくまでも視覚的な分類によるものである。
7. 遺構断面図の水準数値は海拔を示す。単位はmである。
8. 遺構断面図のスクリーントーンのうちストライプは地山のローム層を示し、アミは墳丘盛土層を示す。
9. 観察表中の遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人色彩研究所色票監修の新版『標準土色帖』2000年版によった。
10. 本書で使用した地形図は、国土地理院発行数値地図1/50,000「高崎」に加筆したものをを用いた。
11. 本書で使用した位置図は、本庄市発行「本庄市都市計画図（デジタル版・1/2,500対応）」に加筆したものをを用いた。
12. 本書の引用・参考文献は巻末に一括して記載した。

目 次

序	
例言	
凡例	
目次	
I 調査に至る経過	1
II 遺跡の環境	
1 地理的環境	2
2 歴史的環境	2
3 旭・小島古墳群の概要	6
III 調査の成果	
1 御嶽塚古墳	10
2 林9号墳	20
3 林10号墳	24
4 林11号墳	30
5 林13号墳	36
6 林14号墳	40
7 林15号墳	41
8 林16号墳	44
9 林17号墳	51
10 林18号墳	52
11 林19号墳	56
12 林20号墳	59
13 林21号墳	67
14 林22号墳	75
15 林23号墳	76
16 林24号墳	79
17 林25号墳	80
18 林26号墳	86
19 林27号墳	89
20 林28号墳	90
21 林29号墳	97
22 林30号墳	97
IV 結 語	100
引用・参考文献	
写真	

插图目次

図1 周辺の遺跡……………	3	図36 林17号墳……………	49・50
図2 旭・小島古墳分布図……………	8	図37 林17号墳土層断面図……………	51
図3 調査区位置図……………	9	図38 林18号墳……………	53・54
図4 御嶽塚古墳……………	11・12	図39 林18号墳土層断面図……………	55
図5 御嶽塚古墳土層断面図……………	13	図40 林19号墳断面図……………	56
図6 御嶽塚古墳出土円筒・朝顔形埴輪実測図(1)……………	14	図41 林19号墳出土土器実測図……………	56
図7 御嶽塚古墳出土円筒・朝顔形埴輪実測図(2)……………	15	図42 林19号墳……………	57・58
図8 御嶽塚古墳出土円筒・朝顔形埴輪実測図(3)……………	16	図43 林20号墳……………	61・62
図9 御嶽塚古墳出土円筒・朝顔形埴輪実測図(4)……………	17	図44 林20号墳土層断面図……………	63
図10 御嶽塚古墳出土形象埴輪実測図……………	18	図45 林20号墳出土土器実測図……………	64
図11 御嶽塚古墳出土土器実測図……………	19	図46 林21号墳……………	65・66
図12 林9号墳……………	21・22	図47 林21号墳土層断面図……………	68
図13 林9号墳土層断面図……………	23	図48 林21号墳出土土器実測図(1)……………	69
図14 林10号墳……………	25・26	図49 林21号墳出土土器実測図(2)……………	70
図15 林10号墳土層断面図……………	27	図50 林22号墳……………	73・74
図16 林10号墳出土円筒埴輪実測図……………	29	図51 林22号墳断面図……………	75
図17 林10号墳出土形象埴輪実測図……………	29	図52 林23号墳土層断面図……………	76
図18 林11号墳……………	31・32	図53 林23号墳・24号墳……………	77・78
図19 林11号墳土層断面図……………	33	図54 林24号墳土層断面図……………	80
図20 林11号墳出土円筒・朝顔形埴輪実測図……………	34	図55 林25号墳……………	81・82
図21 林11号墳出土形象埴輪実測図……………	34	図56 林25号墳土層断面図……………	83
図22 林13号墳……………	35	図57 林25号墳出土土器実測図……………	84
図23 林13号墳土層断面図……………	36	図58 林26号墳断面図……………	86
図24 林13号墳埋葬施設平面図・土層断面図……………	37	図59 林26号墳・27号墳……………	87・88
図25 林13号墳埋葬施設墓坑平面図・断面図……………	37	図60 林27号墳土層断面図……………	89
図26 林13号墳出土土器実測図……………	38	図61 林28号墳……………	91・92
図27 林14号墳……………	39	図62 林28号墳土層断面図……………	93
図28 林14号墳土層断面図……………	40	図63 林28号墳出土円筒・朝顔形埴輪実測図……………	94
図29 林14号墳出土土器実測図……………	41	図64 林28号墳出土形象埴輪実測図……………	94
図30 林15号墳……………	42	図65 林28号墳出土土器実測図……………	95
図31 林15号墳土層断面図……………	43	図66 林29号墳……………	96
図32 林15号墳出土土器実測図……………	43	図67 林29号墳断面図……………	97
図33 林16号墳……………	45・46	図68 林30号墳……………	98
図34 林16号墳土層断面図……………	47	図69 林30号墳土層断面図……………	99
図35 林16号墳出土土器実測図……………	48		

写真目次

- 写真1 御嶽塚古墳A地点 周廻検出状況
[南西から]
御嶽塚古墳B地点 調査区全景[南東から]
御嶽塚古墳C地点 周廻検出状況[東から]
林9号墳A地点 周廻検出状況[北から]
林9号墳B地点 周廻検出状況[北西から]
林9号墳D地点 調査区全景[北東から]
林10号墳A地点 調査区全景[南東から]
林10号墳B地点 調査区全景[南東から]
写真2 林10号墳C地点 周廻検出状況[北西から]
林11号墳A地点 周廻検出状況[北東から]
林11号墳B地点 周廻検出状況[南東から]
林13号墳A地点 周廻検出状況[南西から]
林13号墳B地点 周廻検出状況[南西から]
林14号墳A地点 周廻検出状況[南東から]
林15号墳A地点 周廻検出状況[北西から]
林16号墳A地点 周廻検出状況[南東から]
写真3 林16号墳C地点 周廻検出状況[南東から]
林17号墳A地点・18号墳C地点
周廻検出状況[北東から]
林18号墳B地点 周廻検出状況[南から]
林19号墳A地点 周廻検出状況[南東から]
林19号墳A地点 周廻検出状況[南から]
林20号墳A地点 周廻検出状況[南から]
林20号墳B地点 周廻検出状況[南東から]
林20号墳C地点 周廻検出状況[南西から]
写真4 林20号墳C地点 周廻検出状況[北東から]
林20号墳C地点 周廻検出状況[北西から]
林20号墳E地点 周廻検出状況[北東から]
林21号墳A地点 周廻検出状況[北東から]
林21号墳B地点 周廻検出状況[南から]
林22号墳A地点 周廻検出状況[北西から]
林23号墳A地点 周廻検出状況[北西から]
林24号墳A地点 周廻検出状況[北西から]
写真5 林23号墳B地点・24号墳B地点
周廻検出状況[北西から]
林25号墳A地点 周廻検出状況[北東から]
林26号墳A地点・27号墳B地点
周廻検出状況[南東から]
林27号墳A地点 周廻検出状況[西から]
林28号墳A地点 周廻検出状況[北西から]
林28号墳B地点 周廻検出状況[北から]
林28号墳C地点 周廻検出状況[南西から]
林30号墳A地点 調査区全景[西から]
写真6 御嶽塚古墳出土土器
御嶽塚古墳出土円筒・朝顔形埴輪(1)
写真7 御嶽塚古墳出土円筒・朝顔形埴輪(2)
写真8 御嶽塚古墳出土円筒・朝顔形埴輪(3)
写真9 御嶽塚古墳出土円筒・朝顔形埴輪(4)
写真10 御嶽塚古墳出土形象埴輪
写真11 林10号墳出土円筒・朝顔形埴輪
林10号墳出土形象埴輪
林11号墳出土円筒・朝顔形埴輪
写真12 林11号墳出土形象埴輪
林13号墳出土土器
林14号墳出土土器
林15号墳出土土器
林16号墳出土土器
林19号墳出土土器
林20号墳出土土器
写真13 林21号墳出土土器
写真14 林25号墳出土土器
林28号墳出土土器
林28号墳出土円筒・朝顔形埴輪
林28号墳出土形象埴輪

I 調査に至る経過

昭和63年本市市長織茂良平から、市内小島地区において「小島西土地区画整理事業」の計画があり、これに関係する埋蔵文化財の所在及び取扱いについての協議の申し入れが本市教育委員会に出された。本市市長から協議のあった「小島西土地区画整理事業計画」は、本市小島、下野堂、万年寺地区におよぶ大規模なものであり、道路、下水道の整備計画域も広範であることから、当該事業地に埋蔵文化財が所在する場合、相当程度の影響が及ぶことが予測された。本市教育委員会事務局では、これを受けて、埼玉県教育委員会発行の『本市遺跡分布地図』をもとに、当該開発計画予定地における埋蔵文化財包蔵地の所在を確認した。その結果、同地には埼玉県選定重要遺跡である旭・小島古墳群（53-171）の所在することが判明した。

本市教育委員会では、このような状況を踏まえ、ただちに旭・小島古墳群の保存について本市と協議を開始した。その結果、本市教育委員会教育長と本市市長との間で、旭・小島古墳群の保存に関する「本庄都市計画事業小島西土地区画整理事業地内埋蔵文化財に関する協定書」が締結され、1) 事業施行区域は埼玉県選定重要遺跡の範囲内であることから、現在墳丘を有する古墳のみならず事業区全域協議対象とすること、2) 本市指定文化財131号古墳(万年寺八幡山古墳)、132号古墳(万年寺つつじ山古墳)、136号古墳(蛭影山古墳)、137号古墳(山の神古墳)の4古墳は保留地として公有地化を図るとともに、周堀についても可能な限り現状保存を図ること、3) 前項に掲げた古墳以外については、古墳跡その他すべての遺構についてを発掘調査の対象とし、確実な記録保存の措置を講ずること、4) 調査の結果重要な遺構が発見された場合は、保存措置について協議すること等が謳われた。

この協定書の締結を経て、本市教育委員会は、昭和63年8月25日付け本教社発第229号で、埼玉県教育委員会あてに当該開発計画にかかる埋蔵文化財の取り扱いについての協議を行った。埼玉県教育委員会からは平成63年12月28日付け教文第847号で「埋蔵文化財の取り扱いについて」の回答があり、1) 本市教育委員会教育長と本市市長が締結した「本庄都市計画事業小島西土地区画整理事業地内埋蔵文化財に関する協定書」のとおり実施すること、2) ただし、市指定文化財135号古墳(前の山古墳)の石室については調査終了後、136号古墳(蛭影山古墳)、137号古墳(山の神古墳)の存在する公有地に復元保存し、活用を図ること、3) 調査中に重要な遺構等が確認された場合には、別途協議を行うことの指導があった。

現地での発掘調査は平成元年4月から開始し、平成18年度現在もなお断続的に実施している。調査原因は、道路・下水道建設、調整池整備、個人住宅その他建造物の建設、曳家、宅地、駐車場その他の造成工事等開発行為に伴うものが主であるが、131号古墳(万年寺八幡山古墳)、132号古墳(万年寺つつじ山古墳)等公有地化の図られた区域は、公園としての土地利用が計画されており、これらについては保存整備を目的とした範囲確認調査も実施している。整理調査は発掘調査と平行しつつ平成元年度から断続的に行っている。

なお、各地点の発掘調査ならびに整理調査期間、調査担当者、調査原因・目的、調査面積等の情報は各節の冒頭に記したとおりである。

II 遺跡の環境

1 地理的環境

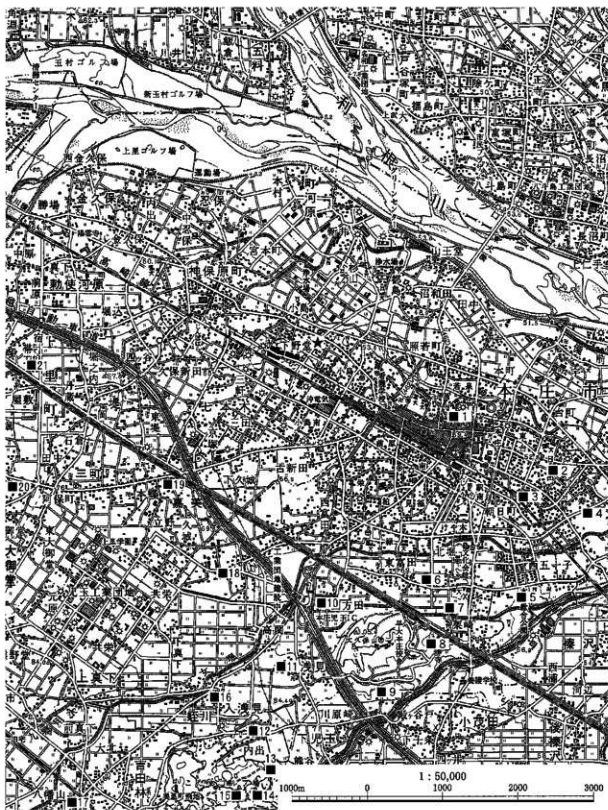
本庄市の地形は利根川右岸に広がる低地と、市街地をのせる台地、さらにその南方に連なる山地とに大別される。低地には利根川の氾濫による自然堤防が発達し、同川沿いに妻沼低地、加須低地へと連続している。台地は小山川扇状地と神流川扇状地との複合地形からなり、本庄台地と呼称され、立川期に対応するものとされる。小山川扇状地は西側を第三系の残丘である生野山、大久保山といった見玉丘陵に、東側を松久丘陵、櫛引台地によって画され、身馴川、志戸川などが北東方向へ流れている。河川の周辺は沖積化が著しく、自然堤防状の微高地が発達し、遺跡の多くはこの上に立地している。神流川扇状地は群馬県鬼石町浄方寺付近を扇頂部とし、扇端部は見玉郡上里町大字金久保から本庄市鶴森にかけて広がっている。この扇状地を開析して流れる中小河川には女堀川、男堀川などがあり、周辺には沖積地の形成が顕著である。また、山地は上武山地の北縁にあたり、奥秩父山地に比べ浸食が進み、谷が広く、起伏の少ない地形を特徴としている。本書に報告する旭・小島古墳群は、本庄市小島から上里町神保原にかけての本庄台地扇端部に立地している。台地縁部は東流する元小山川の浸食により比高差6～10mの段丘崖が発達している。

2 歴史的環境

本庄市が所在する見玉地域は、上野国に隣接し、武蔵国にありながら過去において常に隣国の影響下にあった地域である。また、古墳時代においては美里町南志戸川遺跡、同日の森遺跡などにみる畿内系、東海系土器の流入、本庄市ミカド遺跡で推定された初期須恵器窯の存在など、当該期における流通や生産の中心地としての地位を占めていたと考えられる。さらに、和泉期の竈導入に見るような先進性や格子タキ調整技法による土器・埴輪から想定される渡来系工人の移入も含め、その地域的特殊性についてはすでに多くの議論がなされている。本節ではこれらの成果をふまえて、見玉地域の古墳の変遷を概観し、旭・小島古墳群をめぐる歴史的環境の理解としたい。

本庄市鷺山古墳は、現在、見玉地域において最古とされる古墳である（坂本1986）。女堀川中流域の小丘陵上に位置し、手焙形土器の破片が採集されたことにより、以前から有力な古式古墳として注目されてきたが、その後の調査の結果、全長60mの前方後方墳となることが判明した。特異な形状を呈する前方部、出土土器などから、築造は古墳時代前期中葉以前に遡るものとされ、県内でも最古の古墳として位置づけられるようになった。しかし、出土した底部穿孔壘形土器は口縁部にも円孔を穿ち、外面調整にはハケを主体的に用いている。このことから、底部にのみ穿孔を有し、ナデ調整による壘形土器に比べ、より儀器化が進行し、かつ埴輪への傾斜を深めた段階のものとする評価も可能であろう。鷺山古墳の帰属時期は、なお検討の余地を残すといえる。

美里町長坂聖天塚古墳（径50m）は志戸川右岸の丘陵上に占地する円墳である。粘土槨と木棺直葬の計6基の埋葬施設から稜雲文方格規矩鏡、獣首鏡、滑石製模造品などが出土している。築造時期は鏡の型式、精製品を含む滑石製の刀子の形態などから、古墳時代前期後半以降と推定され、また、近隣の美里町川輪聖天塚古墳は長胴化の進行した特異な壘形埴輪を持ち、長坂聖天塚古墳に次



- ★旭・小島古墳群 1. 北原古墳群 2. 御堂坂古墳群 3. 塚合古墳群 4. 鶴森古墳群 5. 西五十子古墳群
 6. 公衛塚古墳群 7. 有勝寺裏地輪窓跡 8. 前山1・2号墳 9. 塚本山古墳群 10. 四方田古墳群
 11. 鷺山古墳 12. 金銀神社古墳 13. 生野山古墳群 14. 生野山9号墳 15. 生野山將軍塚古墳 16. 蛭川地輪窓跡
 17. 八幡山道輪窓跡 18. 今井古墳群 19. 本郷古墳群 20. 大御堂古墳群 21. 帯刀古墳群

図1 周辺の遺跡

ぐ時期の築造とされる。大久保山丘陵上に立地する本市北堀前山2号墳は従来、径28mの円墳とされてきたが本市教育委員会による2・3次調査の結果一辺30m前後の方墳となることが確認された(南毛古墳文化研究会2001・松本2002)。埋葬施設に粘土槨を有し、直刃鎌・剣・刀子等が出土しているほか周堀から土師器甕が検出されている。この北堀前山2号墳と同一尾根上の上位に位置する本市北堀前山1号墳は、その立地から築造時期は北堀前山2号墳を遡るものと推定される。現在は径30～40mの円墳とされるが、墳裾から南西方向の尾根上に若干の高まりを認めることから、全長60～70m程度の方墳となる可能性も考えられている。

古墳時代中期前半から中葉にかけては生野山丘陵に本市生野山將軍塚古墳(径60m)、同金鑽神社古墳(径68m)、女堀川流域に本市公卿塚古墳(径60m)などの大型の円墳が相次いで築造される。児玉地方で古墳がもっとも大型化するのはこの段階であり、いずれも定型化した埴輪を持ち、生野山將軍塚古墳、金鑽神社古墳では段築・葦石の存在も確認されている。また、生野山將軍塚・金鑽神社・公卿塚の3古墳では埴輪に格子タキ技法の存在することが知られている。生野山將軍塚での実態は明らかではないが、公卿塚ではヨコハケ及びナデ調整によるものと共伴し、金鑽神社古墳ではヨコハケを欠き、一次タテハケのみのものがこれに加わる。格子タキ技法による埴輪についてはこれまでも初期須恵器、半島系軟質土器などとの系譜的な関係が論じられ、製作に渡来系工人の関与があった可能性は高い。

これら3古墳に比べてやや規模の小さい志戸川流域の美里町志戸川古墳(径40m)、小山川上流域の本庄市長沖157号墳(径32m)ではⅢ式の円筒埴輪を出土し、格子タキ技法を認めない。なお、公卿塚古墳では盾、家、志戸川古墳では短甲形埴輪の草摺部分が出土している。形象埴輪群全体の組成は明らかではないが、定型化した円筒埴輪とともに形象埴輪も導入されている事実を確認できる。詳細は不明ながら志戸川左岸の水田地帯に存在する美里町道灌山古墳(径40m)、同勝丸稲荷古墳(径30m)もこの頃の築造と推定される。

古墳時代中期後半～末葉には前段階のような直径60mクラス的大型円墳の築造は認められず、首長墳は小山川上流の長沖14号墳(径34m)、生野山丘陵の生野山9号墳(径42m)など30～40m台の円墳となる。なお、生野山9号墳では人物埴輪、馬形埴輪の存在が確認され、同種の埴輪としては県内における出現期の資料である。また、古式群集墳もこの段階に形成を開始する。美里町塚本山古墳群の塚本山73号墳(径12m)、同77号墳(径14m)、本市塚合古墳群の本庄東小学校1号墳(径19m)、同2号墳(径12m)、同旭・小島古墳群の三空山2号墳(径22m)、上前原5号墳(規模未詳)、杉の根7号墳(規模未詳)などいずれも10～20m前半台の小型円墳で、Ⅳ式の2条突帯3段構成の円筒埴輪を樹立し、TK208段階並行の土器を伴う。美里町広木大町古墳群、本市西五十子古墳群、同東五十子古墳群、深谷市白山古墳群などはやや遅れて、Ⅴ式の円筒埴輪とTK23・47段階並行の土器を出土する群集墳である。さらに、古墳時代後期前半のMT15段階に造営が開始される神川町青柳古墳群では、いち早く横穴式石室を導入することが知られている。

古墳時代後期後半段階に入るとそれまで古墳の存在が知られていなかった地域にも新たに築造が開始される。とくに神流川流域の植竹・関口・元阿保・四軒在家・大御堂などの古墳群は周辺地域の開発の進展にともなってこの時期新たに出現してくる群集墳である。広木大町古墳群、塚本山古墳群、旭・小島古墳群、塚合古墳群、西五十子古墳群、東五十子古墳群などにも横穴式石室を埋葬施設とす

る小型円墳が認められ、古式群集墳中に混在もしくは隣接するように群在する。

また、古墳時代後期には首長墓として前方後円墳が採用されるようになる。小山川上流域では本庄市長沖古墳群の長沖25号墳(40m)、同31号墳(51m)、同秋山古墳群の秋山諏訪山古墳(60m)、同生野山古墳群の生野山鏡子塚古墳(58m)、生野山16号墳(58m)、小山川中流の深谷市四十塚古墳群の寅稲荷古墳(52m)、本庄市塚合古墳群中の大林二子山古墳(規模未詳)、同旭・小島古墳群の下野堂二子塚古墳(規模未詳)、神流川流域の神川町青柳古墳群の白岩鏡子塚古墳(46m)、中新里諏訪山古墳(42m)などが知られる。

古墳時代終末期には、前方後円墳に代わる首長墓として、深谷市前原受宕山古墳(辺37m)のような大型の方墳や旭・小島古墳群の上里町浅間山古墳(径38m)のような大型の円墳が採用されている。また各地の群集墳も後期後半段階からの連続的な造営が確認できる。

埴輪生産遺跡は、児玉地域で4箇所を確認している。また、未確認ながら埴輪生産遺跡の所在を想定できる地点が複数存在している。この地域では、鴻巣市生田塚窯や深谷市割山窯のような大規模な操業は見られず、狭い地域に小規模な生産遺跡が散在する点に特色がある。

美里町字佐久保埴輪窯跡は、上武山地の北東側に連なる丘陵の端部に位置し、南北を二つの小谷によって挟まれ、東方へ延びる舌状丘陵の北側裾部に占地している。埴輪窯跡は、採土により掘削された丘陵の断面で、いずれも焼土層の落ち込みとして確認されたもので、窯体の規模や構造が判明するものはない。分布調査において確認できた窯跡は12基で、掘削による丘陵断面はさらに東西方向に延長していたが、他には窯跡を認めなかったことからこの丘陵斜面に構築された窯の総数は、調査時に確認した12基を上回らないと予測される。

本庄市八幡山埴輪窯跡は、かつて県立児玉高等学校の敷地内に所在した埴輪窯跡群である。1930年、八高線敷設工事の土取り中に発見され、その際、人物埴輪、馬形埴輪などが出土した(埼玉県1982)。その後、1961に高等学校の校地拡張工事に伴い、2基の埴輪窯を調査している。窯は「半地下式有段登窯」とされ、円筒埴輪、女子人物埴輪の頭部を検出している。現在、遺物の所在が明らかではなく、窯の操業年代、埴輪の型的特徴などは不明である。

本庄市赤坂埴輪窯跡は、女堀川右岸の本庄台地北東端部に位置する。工場建設に際する整地作業中に、焼土とともに馬形埴輪が出土し、また、その後、工場内に機械を設置するため掘削を行ったところ、ふたたび焼土とともに大型の馬形埴輪と家形埴輪を出土したことなどから埴輪窯跡の存在が想定されている。本庄市教育委員会では、この際に出土したと考えられる家形埴輪片1点を保管している。

本庄市蛭川埴輪窯跡は、市立共和小学校の校庭を整地した際に、多量の埴輪と焼土が出土したとき、埴輪窯が存在した可能性が考えられている。遺跡は、女堀川中流の右岸に発達した自然堤防上に占地する。すでに一帯の耕地整理が終了しているため、地形の原状は著しく変化し、出土地点の詳細を確認することは難しく、現在では正確な出土地点も特定できなくなっている。その後、同小学校敷地内の近接地点でも発掘調査を実施しているが、埴輪や焼土の出土を確認していない。埴輪窯跡が実在した場合でも、さほど広範囲に分布するものではないことが予測される。

なお、実態は全く不明ながら、美里町から深谷市にかけての山崎山周辺にも埴輪生産遺跡の存在を指摘する意見がある。

3 旭・小島古墳群の概要

旭・小島古墳群は本庄台地北縁部に立地し、本庄市小島地区から上里町神保原地区にかけて分布する。群中央に南南西から北北東方向へ伸びる埋没谷が存在し、現在でも微低地を形成しており、古墳群はこの微低地を隔てて大きく東西二群に分れる。前方後円墳、帆立貝式古墳、円墳、方墳の混成による古墳群で、前期から終末期まで、断続的な造営を認める。以下、時期を追って古墳群の形成過程を概述する。

旭・小島古墳群の形成は西群に群在する方墳の築造をもって開始されると考えられる。現在まで20基余りが検出されている。万年寺つつじ山(辺25m)は、高さ1.7mの墳丘が残存し、確認調査時に、表土直下で、刀子、斧、直刃鎌、短冊形鉄斧などの石製模造品が出土している。出土地点は墳丘中心から北西方向に大きく外れる位置にあり、埋蔵施設その他の遺構に伴う状況とは認定できない。古墳時代中期初頭に該当すると考えられる。

下野堂10号墓(辺24m)では、周堀の立ち上り部から石剣が出土している。碧玉製とされ、埋蔵施設に伴う状況では確認されていないが、型的には古墳副葬品のうちに見られる石剣と同形の資料である。

林7号墳、同20号墳は、1辺30mを超える方墳で、群集墳を主体的に構成するような小型円墳をはるかに凌ぐ規模を有する。また、林13号墳(辺10m)では、木棺直葬と推定される埋葬施設が検出されている。

これらの方形墓は、これまで「方形周溝墓」として一括される場合が多かった(並木1976・菅谷1976 a・埼玉県1982)。しかし、最近の調査の結果、円墳とされてきた本庄市北堀前山2号墳が、最近の調査の結果、一辺25m方墳である事実が確認されたこと、万年寺つつじ山・下野堂10号墓などに見るように低墳丘方形墓の副葬遺物に古墳副葬品と同様の品目が含まれていること、さらに古墳時代前期の小型方墳群が列島各地に確認できることなどを考慮すると、旭・小島古墳群中の方形墓についても古墳とすることが適当である。

万年寺八幡山古墳(径43m)は、埋葬施設に箱式石棺を有することが知られていたが(本庄市1986)、近年の確認調査で石棺内から鉄剣2本が出土した。この箱式石棺は墳丘中心を大きくはずれる位置にあることから、同墳には未確認の中心主体部が存在すると考えらる。埴輪を伴わず、数次の周堀調査によっても遺物を検出できていないため築造時期の詳細は不明であるが、前期に遡る可能性も考えられる(南毛古墳文化研究会2001)。南東側に隣接する万年寺つつじ山古墳とは双方の周堀が重複する関係にあるが、覆土の切り合い関係は確認できていない。

古墳時代中期中葉に属する古墳は明らかではない。当該期の児玉地域の首長墓は、本庄市公卿塚古墳(径65m)、同金鑽神社古墳(径68m)、同生野山將軍塚古墳(径60m)、同長沖157号墳(径32m)、美里町志渡川古墳(径40m)などの大・中型円墳の存在が目立つが、現状において旭・小島古墳群には中期の有力古墳が認められない。また、上記の諸古墳にはすでに埴輪の樹立も認められるが、旭・小島古墳群では埴輪の導入も他に遅れるようである。

古墳時代中期後半には群集墳の築造が開始され、埴輪も導入される。三笠山2号墳(径43m)では、2次調整B種ヨコハケの円筒埴輪に和泉式後半期の土師器内斜口縁環が共存する。また、上前原5号墳(径26m)でも2次調整B種ヨコハケの円筒埴輪を備えることが判明しており、同時期には東群に

おいても確実に古墳の造営が開始されている。円筒埴輪は2条突帯3段構成の小型品で、半円形の透孔をもつ。家、人物、馬などの形象埴輪は確認できない。北浦3号墳は埴輪をもたないが、出土した直立口縁をもつ土師器坏は、典型的な坏蓋模倣坏出現以前の型式で、和泉期後半段階に該当し、築造時期は中期後葉に遡る。さらに、出土遺物がなく所属年代を確定できない小型円墳の中にも、当該期の築造と推測される事例が存在する。

古墳時代中期末葉においても群集墳の造営は継続し、三奈山8号墳（規模不詳）では円筒埴輪、朝顔形埴輪とともに家、女子人物、男子武装人物、盾持人物、馬、鳥など豊富な形象埴輪が加わっている。武装人物は埼玉稻荷山古墳出土例に酷似した眉庇付冑の表現があり注目される。この後期初頭から前半にかけては三奈山7号墳（29m）、三奈山9号墳（規模不詳）などの帆立貝式古墳を中核とし、三奈山3～6号墳、杉ノ根7号墳など低平な墳丘と竪穴系埋葬施設を有する小規模な円墳が多数築造され、前段階からの連続的な群集墳造営を認める。

古墳時代後期後半には東群に大型円墳が集中するようになる。小島御手長山古墳（径42m）はそれらの中で最大の規模を有し、角閃石安山岩を用いた横穴式石室が検出されている。副葬品に挂甲、直刀、鉄鏃、馬具、などがあり、埴輪は円筒、朝顔、家、人物、大型の馬などが出土している。隣接する坊主山古墳（径36m）、山の神古墳、蛭影山古墳、前の山古墳、堂場13号墳も、埋葬施設に横穴式石室を備え埴輪を樹立する古墳で、築造時期はいずれも後期末葉段階に降ると考えられる。坊主山古墳では直刀、刀装具、鉄鏃、玉類、前の山古墳では耳環、ガラス玉が出土し、また、山の神古墳、蛭影山古墳、前の山古墳では段築、葦石の存在が確認されている。一方、西群の上里町側にも神保原浅間山古墳（径30m）がある。埴輪を備え、横穴式石室からは直刀、鉄鏃、耳環、玉類のほか銅鏡1点が出土している。

下野堂二子山古墳は旭・小島古墳群中唯一の前方後円墳である。墳丘はすでに削平を受け、段築・葦石・埋葬施設などの状況は不明であるが、航空写真・地籍図の分析から全長60m前後の規模と推定される。試掘調査では年代を示す資料が得られていないが、埴輪が確認されないことから古墳時代後期末葉の築造が考えられている。

古墳時代終末期には、下野堂開拓1号墳（径22m）、下野堂御手長山古墳（径20m）、堂場地区に集中する堂場1～9号墳など、不整形の周堀をめぐらす直径10～20m前半台の円墳が知られる。下野堂開拓1号墳（径22m）では石室攪乱層からは鉄製の鉸具、刀子、釘が出土し、石室前庭部から大量の土師器・須恵器片のほか青銅製の巡方3点、丸柄2点が検出されている。堂場1～9号墳では7世紀前半から後半代までの土器が共伴しており長期間の追葬が想定される。終末期の有力な古墳には方墳を採用する地域もあるが、群内での所在は現状で確認できない。

なお、三奈山古墳は直径64m、高さ3.2m、周堀幅26mを測る群内最大的大型円墳であったが、全面的な発掘調査にもかかわらず埋葬施設の所在を確認できていない。調査前の墳丘高は3m強で、墳丘径と比較してきわめて低平であったことを考えると、本来の墳丘が、後代に埋葬施設とともに削平を受けたことも想定される。しかし、墳丘、周堀からの出土遺物は皆無であり、埋葬行為自体が施行されなかった可能性も否定できない。調査では、墳丘構築土中に火山噴出物と思われる灰層の堆積を検出している。

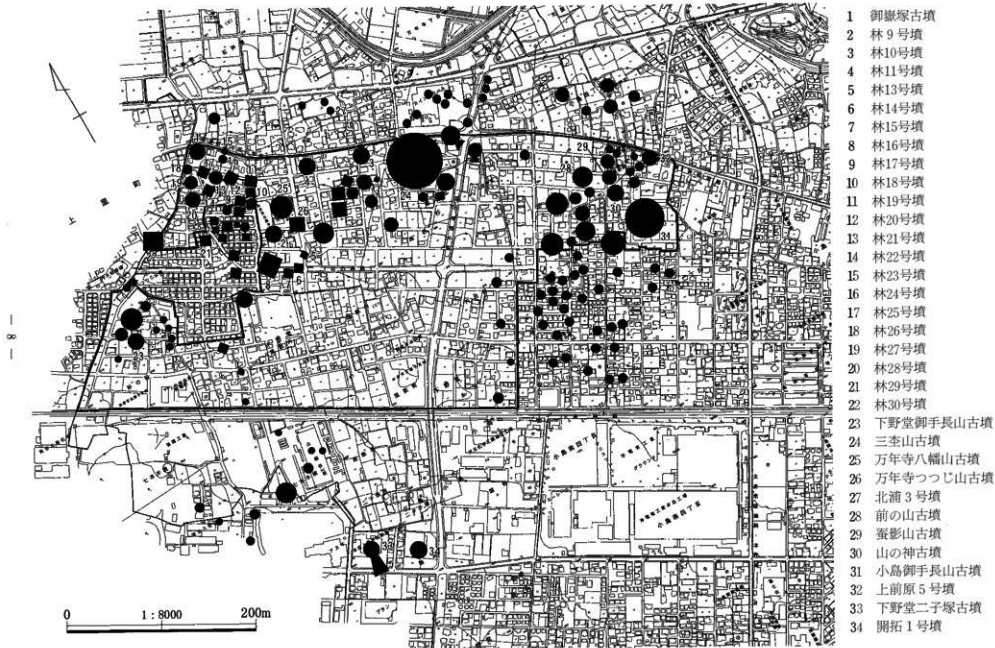


図2 旭・小島古墳分布図

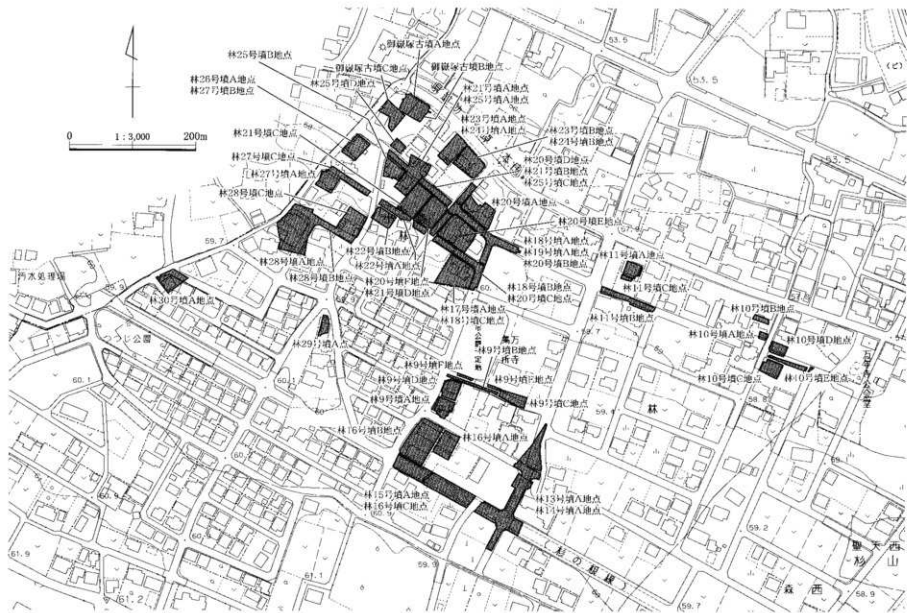


图3 調査区位置図

III 調査の成果

1 御嶽塚古墳

[A地点]

調査期間 平成2年9月7日～平成2年10月31日

調査面積 267㎡

調査原因 区画整理に伴う宅地造成

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 長谷川勇

[B地点]

調査期間 平成5年10月1日～平成5年11月6日

調査面積 240㎡

調査原因 区画整理に伴う宅地造成

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

[C地点]

調査期間 平成7年11月9日～平成7年12月21日

調査面積 240㎡

調査原因 区画整理に伴う宅地造成

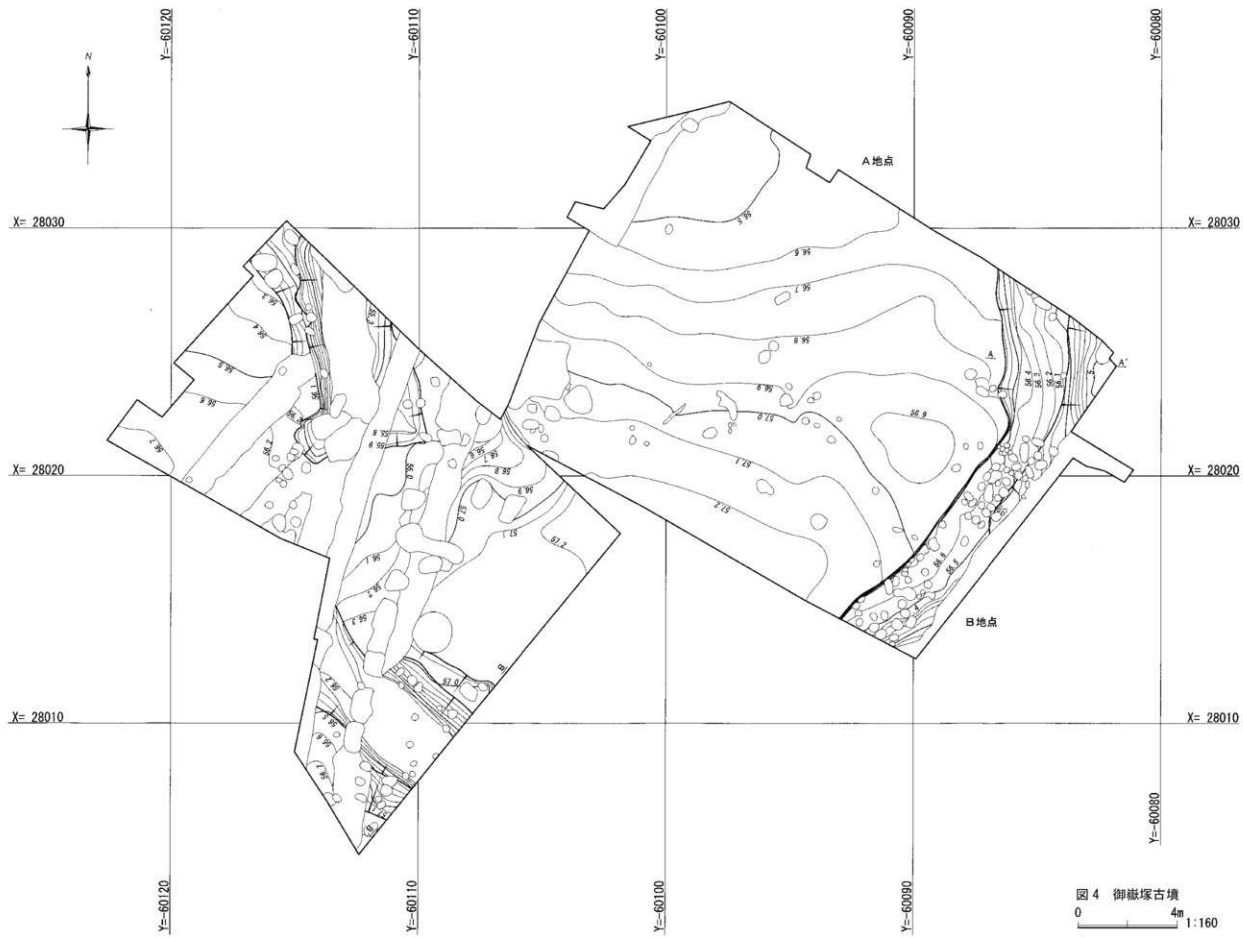
調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

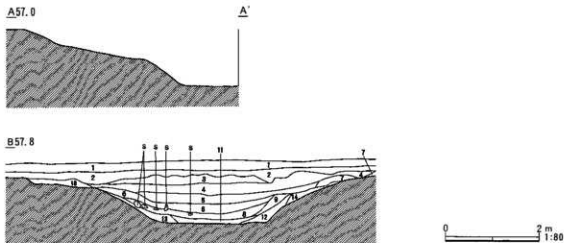
(1) 遺 構

御嶽塚古墳は本庄市小島地内において、墳丘の中心をX=28,020、Y=-60,100付近におく。台地の縁辺部近くにおいて、確認面が南から北方向へ緩やかに傾斜している。また、古墳の西側にも北方へ開口する埋没谷が存在し、C地点における確認面は西方向へも傾斜をみせている。墳形は円墳であるが、平面形は整円を描かず、南西-北東方向にやや長い。A・B地点では墳丘中心部に調査がおよんでいるが、埋葬施設の存在は確認できない。周堀幅の判明する部分はほとんどないが、地点により一定していないようである。攪乱や地山の流出により明確ではないものの、C地点では周堀の途切れる箇所が存在するようである。覆土は上下2層に大別され、下層にはロームブロックを多量に含む土層が堆積し、上層には黒褐色ないし灰褐色系の覆土が発達している。Hr-FAの堆積は確認できないが、第4層にはAs-Bの堆積が認められる。

(2) 遺 物

遺物は周堀内の各所から散発的に出土している。円筒埴輪の中には50%程度の残存率を示すものもあるが、朝顔形埴輪・形象埴輪は破片資料のみで、配列を復元できる状況にはない。土器は土師器環の破片を少量出土している。いずれも、残存率50%以下の破片資料で、御嶽塚古墳に伴う確証はない。





御嶽塚古墳C地点土層説明【B-B'】

- | | | | |
|---------|---------------------------|----------|-----------------------------|
| 1 灰褐色土 | As-Aを多量に含む。 | 8 黒灰褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |
| 2 明灰褐色土 | As-Aを多量に含む、暗褐色土ブロックを少量含む。 | 9 暗褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |
| 3 暗灰褐色土 | ロームブロック、暗褐色土ブロックを少量含む。 | 10 暗灰褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |
| 4 黒灰褐色土 | As-Bを多量に含む。 | 11 灰褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |
| 5 黒褐色土 | ロームブロックを少量含む。 | 12 褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |
| 6 黒灰褐色土 | ロームブロック、暗褐色土ブロックを少量含む。 | 13 暗黄褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |
| 7 黒褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 | 14 黄褐色土 | ロームブロックを多量に含む、黒色土ブロックを少量含む。 |

図5 御嶽塚古墳土層断面図

a. 埴輪

円筒埴輪 (図6～8、写真6～9)

全形の判明する資料はないものの、径の大きさから推して多くが2条突帯3段構成品と推測されるが、1・7など一部に大口径の破片がみられることから、3条突帯4段構成品が含まれる可能性がある。外面調整は一次タテハケのみで、二次調整が加えられる個体は含まれない。中間段に大型の円形孔が1対存在している。4には半円に近い変形の透孔がみられる。突帯は口径に比較してやや細身で、断面は崩れたM字形を呈する。刻線の存在する個体は認められない。胎土にはことごとく片岩・チャートが混入する。焼成はすべて窯窯焼成である。還元焼成の個体は存在しない。色調は橙色を呈する個体が多く、ほかに灰黄褐色・明赤褐色など多様である。

朝顔形埴輪 (図6～8、写真6～9)

33・34ともに口縁部の破片である。中に1条の突帯をめぐらせ、33は口唇部が大きく外湾している。胎土には33に片岩・チャートが、34に角閃石が混入している。焼成は窯窯焼成で、色調は33がぶい褐色、34が橙色を呈する。

形象埴輪 (図10、写真10)

家 [1・2]

1は屋根本体から脱落した堅魚木である。中実成形で調整は全面にナデを加えている。胎土には片岩・チャートを含み、色調は橙色を呈する。

2は屋根部の破片である。調整は内外面ともハケのちナデで、外面には弧状の刻線がある。胎土には片岩・チャートを含み、色調は明赤褐色を呈する。

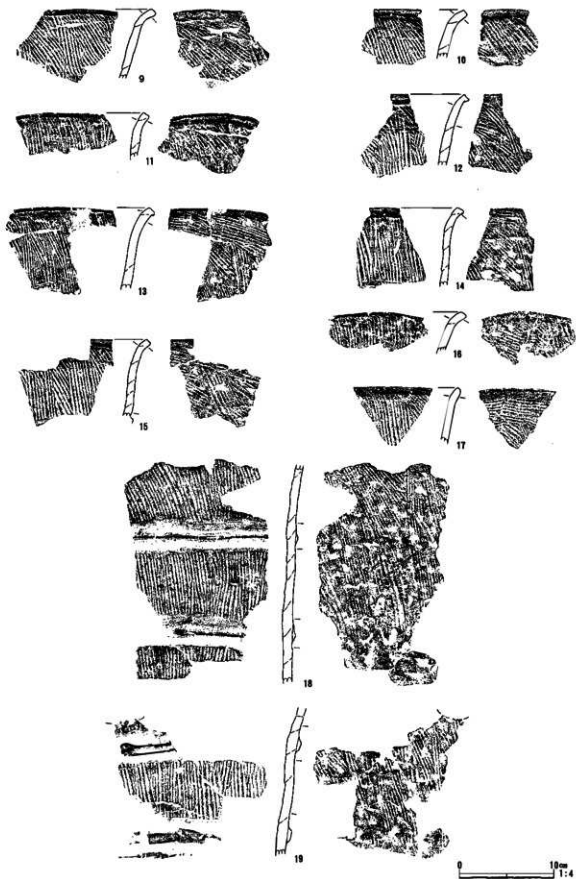


图7 御嶽塚古墳出土土円筒・朝顔形埴輪実測図(2)

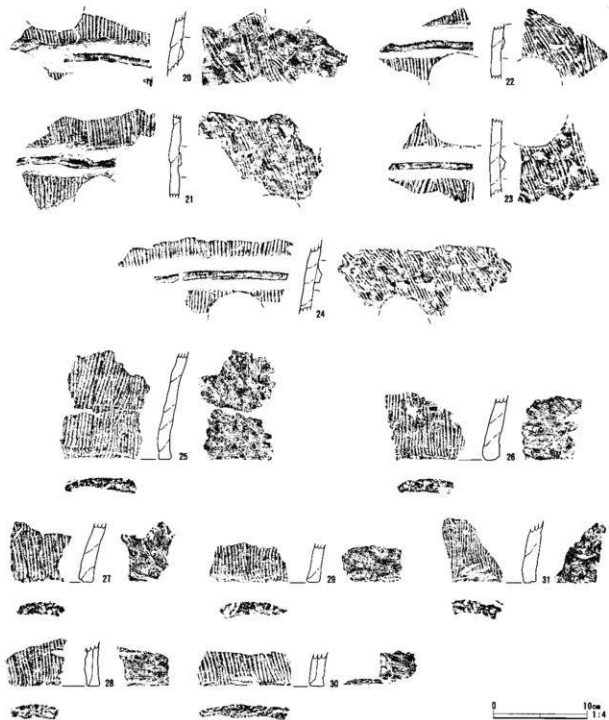


図8 御嶽塚古墳出土土円筒・朝顔形埴輪実測図③

柄 [3]

柄の上部の破片である。調整は表裏面ともハケを施し、表面には杉綾状の刻線がある。胎土には片岩・チャートを含み、色調はにぶい赤褐色を呈する。

人物 [4~10]

4~7は人物の顔面部周辺の破片である。顔面は円筒状の頭部本体を内側から押し出し、顎の周辺に若干の粘土を貼り足して成形している。4は耳を円孔により表現している。5は頸部に丸玉をつけ、

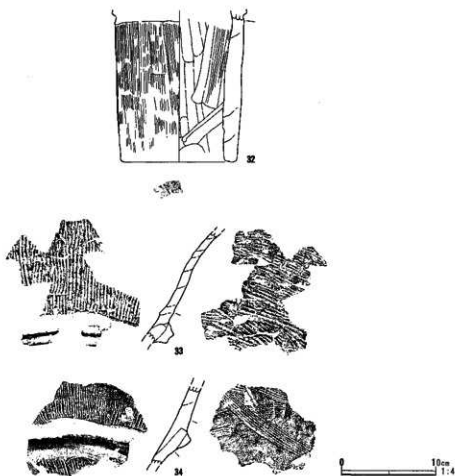


図9 御嶽塚古墳出土土円筒・朝顔形埴輪実測図(4)

6は粘土紐を貼付して太い眉を表現している。部分的に赤色顔料を塗布した痕跡が残る。4・5・7は外面調整がナデ、内面調整が粗いナデで、胎土には片岩・チャートを含み、色調は明赤褐色を呈する。6は外面調整がハケ後ナデ、内面調整が粗いナデで、胎土には石英・チャートを含み、色調は橙色を呈する。

8は腕部の破片で、成形は木芯中空技法による。調整はナデで、胎土には片岩・チャートを含み、色調は明赤褐色を呈する。

9は衣裾部の破片である。円筒状に成形した胴部本体に、断面三角形の粘土帯を貼付して衣裾部を表現している。上端に環状の剝離痕が観察される。調整は外面がハケ後ナデで、衣裾の先端部には横位のナデを加えている、内面には丁寧なナデを施している。胎土にはチャートを含み、色調は橙色を呈する。

馬 [10~12]

10は尾の破片である。中実成形で、断面は円形を呈し、先端部は「T」字状に成形している。調整はハケのちナデで、胎土には片岩・チャートを含み、色調は明赤褐色を呈する。

11は胴部本体から剝離した鞍橋の破片である。調整は内外面・端面ともナデで、外面の縁辺部には赤色顔料を塗布している。胎土には片岩・チャートを含み、色調は明赤褐色を呈する。



図10 御嶽塚古墳出土土形象埴輪実測図

12は胸繫から剝離した鈴である。ヘラ状工具により横方向に深い刻みを入れて鈴口を表現している。胎土にはチャートを含み、色調は橙色を呈する。

器種不明 [13]

横方向へ緩やかに湾曲する破片で、下側の端面はわずかに弧を描く。裏面上端は剝離面となっている。調整はハケ後ナデ、内面調整が粗いナデで、胎土にはチャートを含み、色調は明赤褐色を呈する。

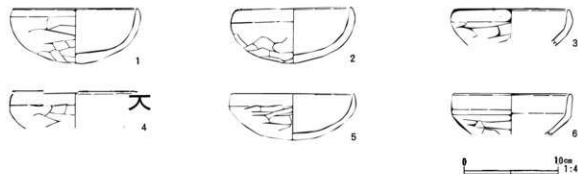


図11 御嶽塚古墳出土土器実測図

御嶽塚古墳出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 環	口径 (12.8) 底径 — 器高 5.8	体部は丸みを持って立ち上がり内湾する口縁部に至る。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。	黒色粒・チャート 内外一にぶい赤褐色	1/4。
2	土師器 環	口径 (12.0) 底径 — 器高 5.7	体部は丸みを持って立ち上がり内湾する口縁部に至る。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。	黒色粒・チャート 内外一にぶい赤褐色	1/2。
3	土師器 環	口径 (11.9) 底径 — 器高 —	体部は丸みを持って立ち上がり内湾する口縁部に至る。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ。	黒色粒・チャート 内外一にぶい赤褐色	口縁～体部片。
4	土師器 環	口径 (12.9) 底径 — 器高 —	体部は丸みを持って立ち上がり内湾する口縁部に至る。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ。	石英・黒色粒 内外一にぶい赤褐色	口縁～体部片。
5	土師器 環	口径 (12.8) 底径 — 器高 4.9	体部は丸みを持って立ち上がり内湾する口縁部に至る。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。	石英・チャート 内外一にぶい赤褐色	1/3。
6	土師器 環	口径 (12.2) 底径 — 器高 —	口縁部は体部との境に横を持ち、直立気味に立ち上がる。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ。	微砂粒・黒色粒 内外一褐色	1/5。

b. 土器

土師器 (図11、写真6)

環 [1～6]

1～5は口縁部が内湾気味に立ち上がる半球状の環である。3・5は口縁部を内屈気味に成形し、体部との境界が明瞭である。6は須恵器環蓋模倣環である。口唇部は丸く成形され、端面をもたない。

(3) 小 結

御嶽塚古墳は径15～16m程度の規模を有する円墳と推測され、築造年代は出土した円筒埴輪の型式から6世紀代と考えられる。埋葬施設の型式は不明である。

2 林9号墳

[A地点]

調査期間 平成5年4月21日～平成5年5月19日
調査面積 190㎡
調査原因 区画整理に伴う宅地造成
調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

[B地点]

調査期間 平成5年10月12日～平成5年10月26日
調査面積 85㎡
調査原因 区画整理に伴う市道建設
調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

[C地点]

調査期間 平成6年4月25日～平成6年6月8日
調査面積 300㎡
調査原因 区画整理に伴う市道建設
調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司
備考 同一調査区内で万年寺つつじ山古墳の周堀を検出 [万年寺つつじ山古墳A地点]

[D地点]

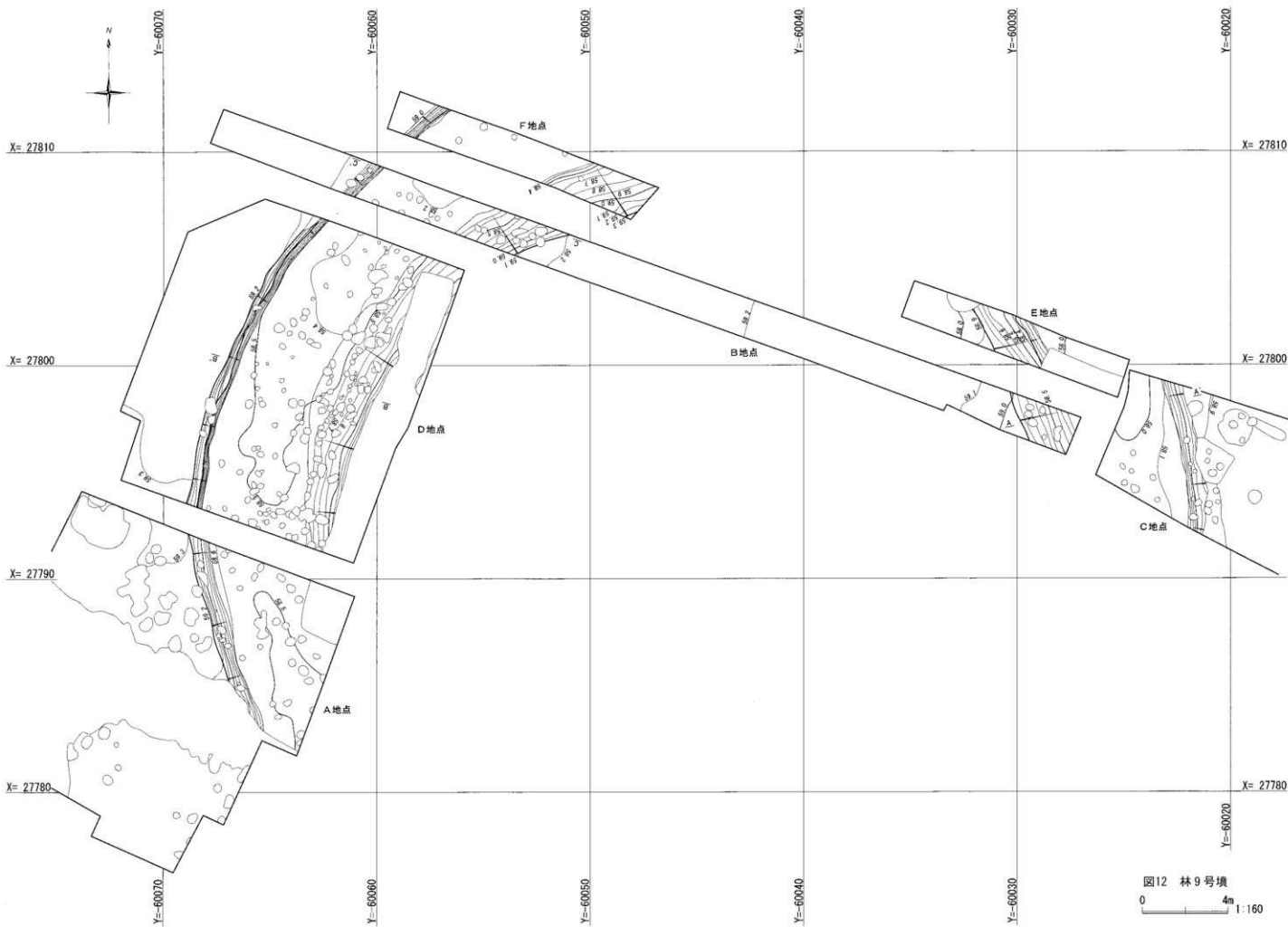
調査期間 平成6年12月1日～平成6年12月22日
調査面積 180㎡
調査原因 区画整理に伴う宅地造成
調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

[E地点]

調査期間 平成10年8月24日～平成10年9月5日
調査面積 20㎡
調査原因 区画整理に伴う市道建設
調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 増田一裕

[F地点]

調査期間 平成10年9月1日～平成10年9月10日
調査面積 60㎡
調査原因 区画整理に伴う市道建設
調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 増田一裕



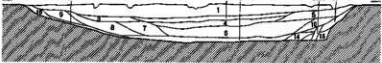
A59.2



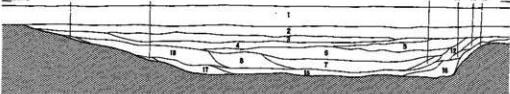
A'



B59.3



C59.8



 0 2 m
1:80

林9号墳C地点土層説明【A-A'】

- 1 灰褐色土 起源不詳のバミスを含む。
- 2 黒灰褐色土 暗褐色土ブロックを少量含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 6 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 7 褐色土 ロームブロックを多量に含む。

林9号墳D地点土層説明【B-B'】

- 1 黒灰褐色土 A a-Bを多量に含む。
- 2 黒灰褐色土 暗褐色土ブロックを多量に含む。
- 3 暗灰褐色土 暗褐色土ブロックを多量に含む。
- 4 黒灰褐色土 暗褐色土ブロックを多量に含む。2層より明るい。
- 5 暗灰褐色土 暗褐色土ブロックを多量に含む。
- 6 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。粘性欠。
- 7 暗褐色土 暗褐色土ブロックを斑状に含む。
- 8 暗褐色土 ロームブロック、暗褐色土ブロックを多量に含む。
- 9 暗灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 10 暗褐色土 ロームブロックを少量含む、暗褐色土ブロックを多量に含む。
- 11 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 12 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 13 暗褐色土 ローム粒子、小~中型ロームブロックを斑状に含む。
- 14 暗黄褐色土 ロームブロックを斑状に含む。
- 15 黄褐色土 ロームブロックを主体とする。
- 16 褐色土 ロームブロックを多量に含む。

林9号墳B地点土層説明【C-C'】

- 1 灰褐色土 起源不詳のバミスを含む。
- 2 暗灰褐色土 起源不詳のバミスを含む。
- 3 黒灰褐色土 起源不詳のバミスを含む。
- 4 黒灰褐色土 起源不詳のバミスを含む。3層より明るい。
- 5 黒灰褐色土 暗褐色土ブロックを多量に含む。
- 6 黒灰褐色土 ロームブロック、暗褐色土ブロックを少量含む。
- 7 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 8 黒灰褐色土 ロームブロックを多量に含む、暗褐色土ブロックを少量含む。
- 9 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 10 暗灰褐色土 ロームブロックを少量含む、暗褐色土ブロックを多量に含む。
- 11 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む、暗褐色土ブロックを少量含む。
- 12 暗褐色土 ロームブロック、暗褐色土ブロックを多量に含む。
- 13 褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 14 暗黄褐色土 ロームブロック、暗褐色土ブロックを多量に含む。
- 15 暗黄褐色土 ロームブロック、暗褐色土ブロック、黒色土ブロックを多量に含む。
- 16 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 17 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 18 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 19 黄褐色土

図13 林9号墳土層断面図

(1) 遺構

本庄市小島地内において、中心をX=27,795、Y=-60,043付近におく。周囲には北側に万年寺八幡山古墳、東側に万年寺つつじ山古墳が所在する。直径38m前後を測る大型の円墳で、平面設計はやや歪んだ円形を呈する。墳丘盛土は旧表土とともに失われ、表土が直接ローム層を被覆する状態である。埋葬施設の痕跡も認められない。周堀は墳丘に沿ってほぼ整円にめぐっている。堀幅は東側で4.8mを測り、北側ではやや広くなっているようである。周堀底面はほぼ平坦で、周堀底面からの立ち上がりは、外側が急傾斜であるのに対し、墳丘側は緩やかである。確認面から深さ80～100cmを測る。周堀覆土は全体にロームブロックを含む褐色系の土層が堆積している。Hr-FAの堆積は確認できないが、最上層にAs-Bの混入が認められる箇所がある。

(2) 遺物

遺物は周堀覆土から少量の土師器片を検出している。埴輪の出土は皆無であることから、林9号墳には埴輪は樹立されていなかったと考えられる。

(3) 小結

旭・小島古墳群では、埋葬施設に横穴式石室を備える古墳の場合、周堀は整円形を呈さないことが多い。整円形の周堀をもつ林9号墳の埋葬施設は竪穴系であった可能性が考えられる。詳細な時期の特定が難しいが、古墳時代中期後半から後期前半にかけての築造と推測される。

3 林10号墳

[A地点]

調査期間 平成2年7月23日～平成2年7月27日
調査面積 40㎡
調査原因 区画整理に伴う宅地造成
調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 長谷川勇

[B地点]

調査期間 平成5年10月17日～平成5年10月31日
調査面積 50㎡
調査原因 区画整理に伴う宅地造成
調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

[C地点]

調査期間 平成8年9月3日～平成8年9月18日
調査面積 317㎡
調査原因 区画整理に伴う宅地造成
調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

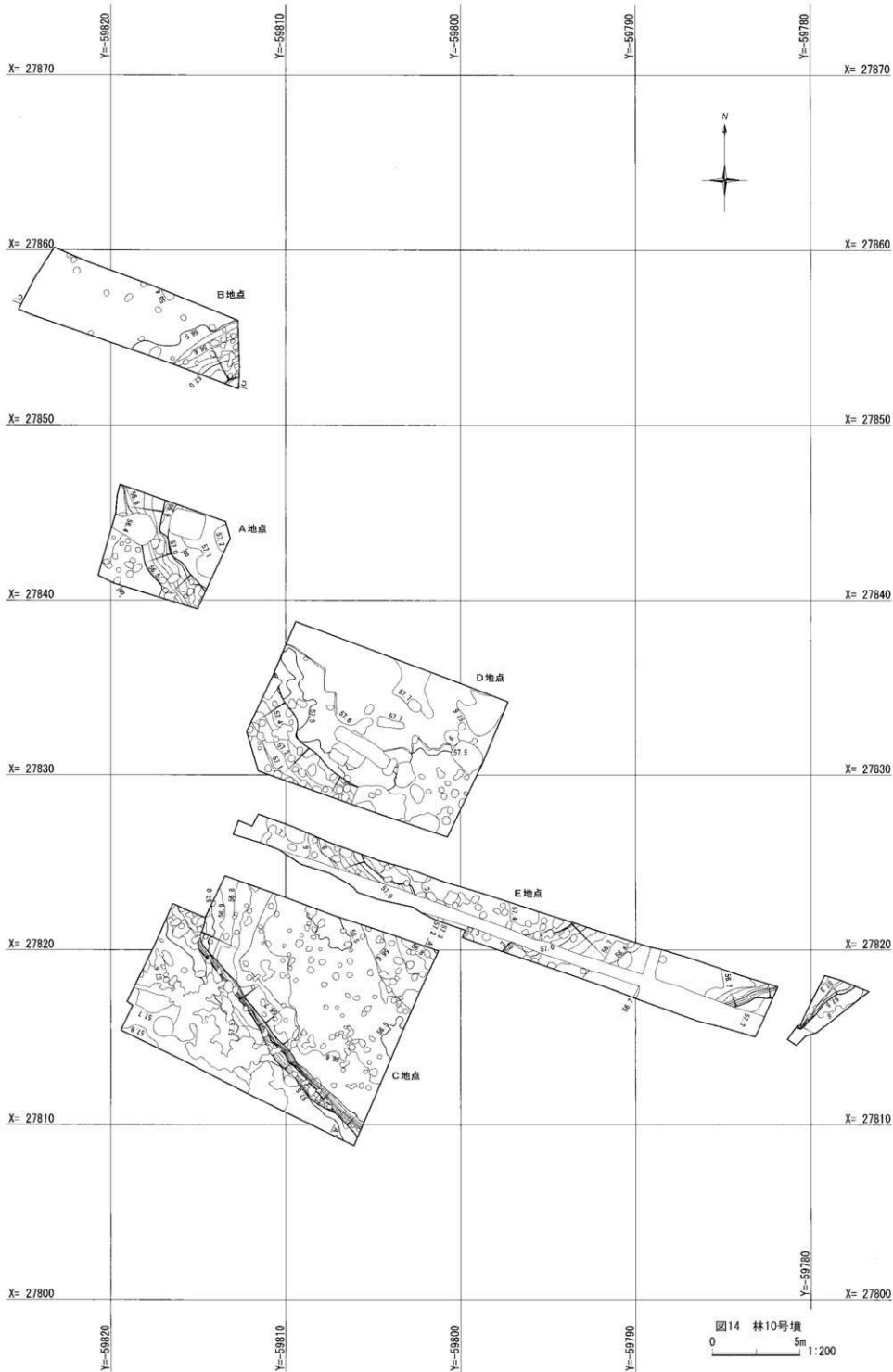
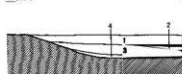


图14 林10号块
0 5m 1:200

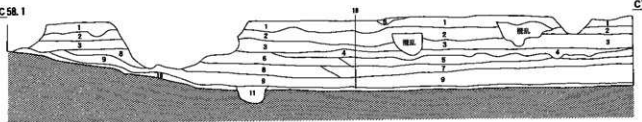
A57.7



B57.7



C58.1

0 2 m
1:80

林10号墳C地点土層説明【A-A】

- 1 暗灰褐色土 As-Aを多量に含み、ロームブロックを少量含む。
- 2 暗灰褐色土 As-Aを多量に含む。
- 3 黒灰褐色土 As-Bを多量に含む。
- 4 黒褐色土 暗褐色土ブロックを少量含む。粘性欠。
- 5 黒灰褐色土 ロームブロックを少量含み、灰褐色土ブロックを多量に含む。
- 6 暗灰褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 7 暗灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 8 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 9 褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 10 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含み、黒色土ブロックを少量含む。
- 11 黒褐色土

林10号墳A地点土層説明【B-B】

- 1 黒灰褐色土 As-Aを多量に含む。
- 2 暗灰褐色土 粘性強。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。粘性強。
- 4 暗黄褐色土 ロームブロックの堆積層。

林10号墳B地点土層説明【C-C】

- 1 表土
- 2 灰褐色土 As-Aを多量に含み、黄土ブロックを少量含む。
- 3 暗灰褐色土 ロームブロック、細砂粒を少量含む。
- 4 灰褐色土 As-Aを多量に含み、しまり強。
- 5 暗灰褐色土 暗褐色土ブロックを多量に含む。
- 6 黒灰褐色土 As-Bを多量に含む。
- 7 黒灰褐色土 ロームブロック少量含み、暗褐色土ブロック、As-Bを多量に含む。
- 8 暗灰褐色土 As-Bを多量に含む。
- 9 暗灰褐色土 ロームブロックを少量含む。粘質強。
- 10 黄褐色土 黒色土ブロックを少量含む。

図15 林10号墳土層断面図

[D地点]

調査期間 平成10年1月13日～平成10年1月21日
調査面積 130㎡
調査原因 区画整理に伴う宅地造成
調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

[E地点]

調査期間 平成11年11月4日～平成11年11月12日
調査面積 90㎡
調査原因 区画整理に伴う市道建設
調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

(1) 遺構

本庄市小島地内において、中心をX=27,840、Y=-59,800付近におく。周囲には南側に林2号墳、南西側に林4号墳が隣接する。平面設計は正方形ないし長方形を呈する方墳で、墳丘規模は南東一北西方向で約43mを測る。墳丘盛土は旧表土とともに失われ、表土が直接ローム層を被覆する状態である。埋葬施設の痕跡も認められない。周堀は墳丘に沿って相似形にめぐり、堀幅は12～13mを測る。周堀底面には緩やかな起伏が存在する。周堀底面からの立ち上がりは、外側が急傾斜であるのに対し、墳丘側は緩やかである。確認面から深さ90～100cmを測る。周堀覆土は全体にロームブロックを含む褐色系の土層が堆積している。Hr-FAの堆積は確認できないが、中層にはAs-Bの混入が認められる。

(2) 遺物

遺物は表土から少量の円筒埴輪および形象埴輪片を検出しているが、いずれも周辺の古墳からの流れ込みと判断される。周堀覆土からの埴輪・土器の出土は皆無であり、林10号墳に伴う遺物は確認できていない。

a. 埴輪

円筒埴輪 [1～10] (図16、写真11)

いずれも破片資料で、全体の段構成、各段の幅も不明である。外面調整は一次タテハケのみで、二次調整を伴う個体は存在しない。8には板押圧による底部調整が観察される。内面調整は縦位および斜位のハケもしくはナデによる。9は丁寧な基部成形を行っている。また底面には木目圧痕が残る。突帯は断面形が崩れた「M」字形を呈するものと三角形のものが見られる。3・5にはいずれも円形透孔が存在する。刻線を有する個体は存在しない。胎土は片岩・チャートを含むものと、角閃石安山岩粒を含むものがあり、両者の占有率は相半ばする。白色針状粒の混入する個体は認められない。焼成はすべて窯窯焼成で、色調は橙色・明赤褐色・にぶい赤褐色などを呈する。

形象埴輪 [1] (図17、写真11)

家 [1]

屋根妻部の破片である。平板な造りで、側面から妻部へはほぼ直角に折れ曲がっている。妻部には

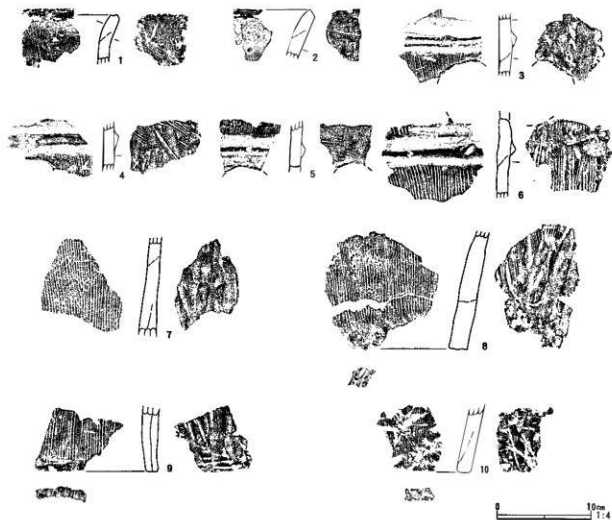


図16 林10号墳出土土円筒埴輪実測図

刻線により鋸歯文を表している。調整は外面がハケおよびナデ、内面がハケで、胎土には片岩・チャートを含み、色調は橙色を呈する。

(3) 小 結

林10号墳では埴輪片が出土しているが、これらの資料は出土状況から本古墳に伴う遺物とは認定できない。旭・小島古墳群における方墳の築造時期は、いずれも古墳時代前期末葉から中期初頭までの時期に限定され、古墳時代中期前半段階まで降下する例は存在しないことから、林10号墳の築造時期も古墳時代中期初頭以前に遡ると考えられる。

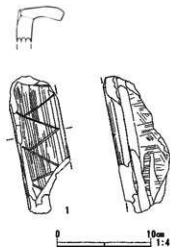


図17 林10号墳出土土形象埴輪実測図

4 林11号墳

[A地点]

調査期間 平成4年11月4日～平成4年11月7日
調査面積 144㎡
調査原因 区画整理に伴う宅地造成
調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

[B地点]

調査期間 平成6年2月4日～平成6年2月25日
調査面積 200㎡
調査原因 区画整理に伴う市道建設
調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

[C地点]

調査期間 平成16年2月6日～平成16年2月14日
調査面積 41㎡
調査原因 個人住宅
調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 太田博之・松本 完・町田奈緒子

(1) 遺 構

本庄市小島地内にあって、中心をX=27,880、Y=-59,915付近におく。墳形は円墳である。平面设计は不整な円形をなす。墳丘規模は28～29mを測る。墳丘盛土は旧表土とともに失われ、表土が直接ローム層を被覆する状態である。埋葬施設の痕跡も認められない。堀幅は地点により大きく異なり2～4mを測る。周堀底面には各所に段差や土坑状の落ち込みが存在する。確認面から深さ40～90cmを測る。周堀覆土は全体にロームブロックを含む褐色系の土層が堆積している。火山噴出物の層状堆積は確認できない。

(2) 遺 物

遺物は周堀覆土から少量の円筒・朝顔形および形象埴輪片を検出している。出土量は少ないが、林11号墳に伴う埴輪と考えられる。

a. 埴輪

円筒埴輪 [1～9] (図20、写真11)

いずれも破片資料で、全体の段構成、各段の幅も不明である。外面調整は一次タテハケのみで、二次調整を伴う個体は存在しない。内面調整は横位および斜位のハケもしくはナデである。1・2は口縁部の破片で、1の端部には指ナデにより凹面を形成している。3の突帯は台形を呈する。透孔・刻線を確認できる個体は存在しない。胎土にはほとんどの個体に角閃石安山岩粒を含む。6のみは角閃石安山岩粒を含まず、片岩・チャートが混入する。白色針状粒の混入する個体は認められない。焼成はすべて窯窯焼成で、色調は橙色・明赤褐色・にぶい赤褐色などを呈する。

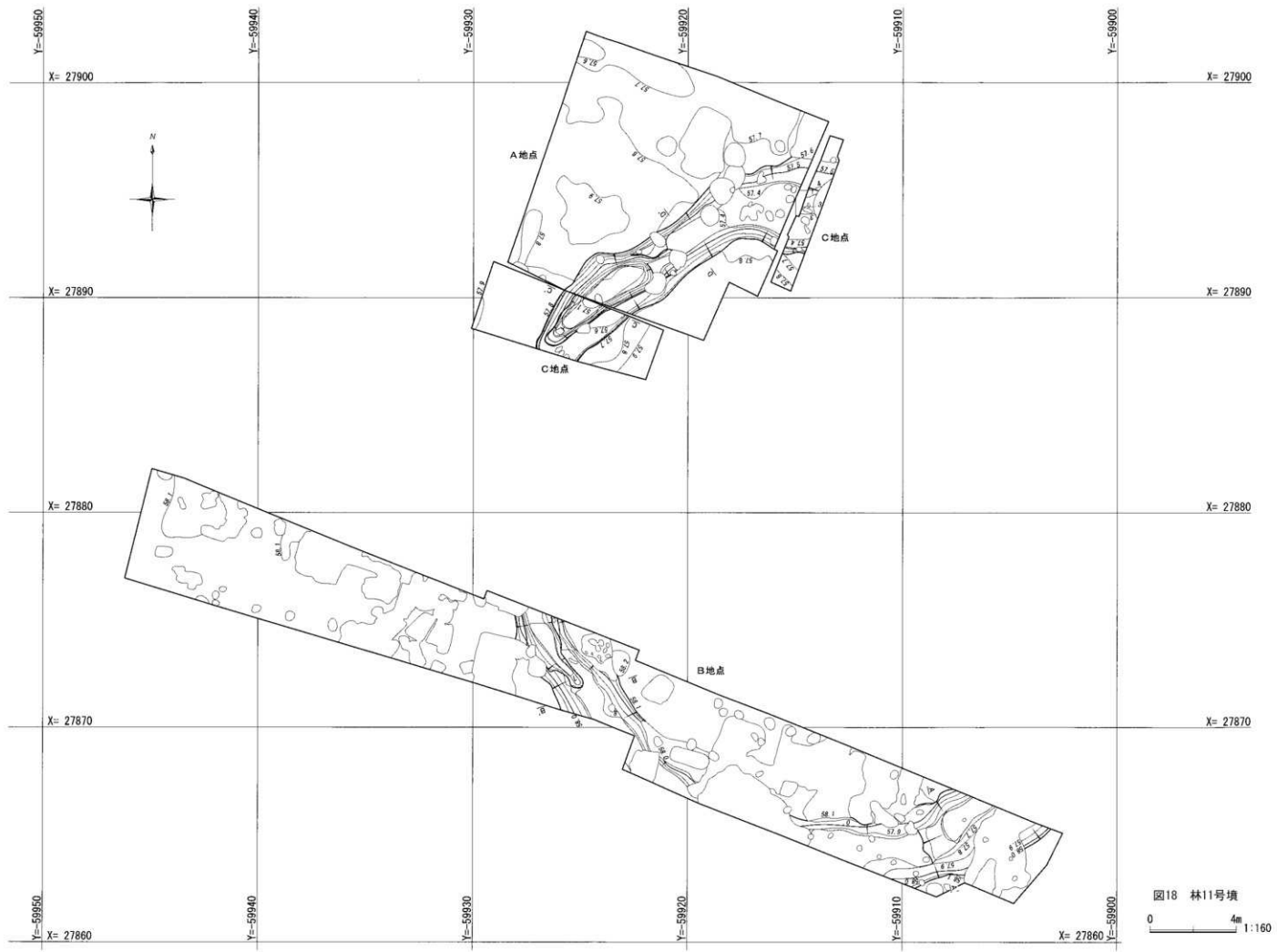
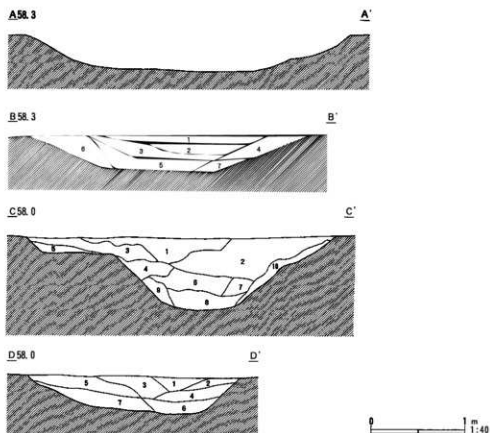


图18 林11号境





林11号墳B地点土層説明 [B-B']

- 1 黒灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 4 暗灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 5 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 6 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含み、黒色土ブロックを少量含む。
- 7 褐色土 ロームブロックを多量に含む。

- 7 暗褐色土 ロームブロック、黒色土ブロックを多量に含む。
- 8 黄褐色土 ロームブロック、黒色土ブロックを多量に含む。しまり強。
- 9 褐色土 ロームブロック、黒色土ブロックを多量に含む。
- 10 褐色土 ロームブロック、黒褐色土ブロックを多量に含む。

林11号墳C地点土層説明 [C-C']

- 1 黒灰褐色土
- 2 黒褐色土
- 3 暗褐色土 ロームブロック、黒色土ブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒子、多く混じる。黒色土少し混じる。
- 5 褐色土 ロームブロックを多量に含み、黒色土ブロックを少量含む。
- 6 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。

林11号墳A地点土層説明 [D-D']

- 1 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 2 暗灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 3 黒灰褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 4 黒灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 5 暗灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 6 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 7 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。

図19 林11号墳土層断面図

朝顔形埴輪 [10] (図20、写真11)

肩部から頸部にかけての破片1点を検出した。頸部には断面三角形の突帯がめぐり、肩部の外面調整には横位のハケが認められる。内面調整は斜位のハケの後にナデを加えている。胎土には角閃石安山岩粒を含み、窯窯焼成で、色調はにぶい赤褐色を呈する。

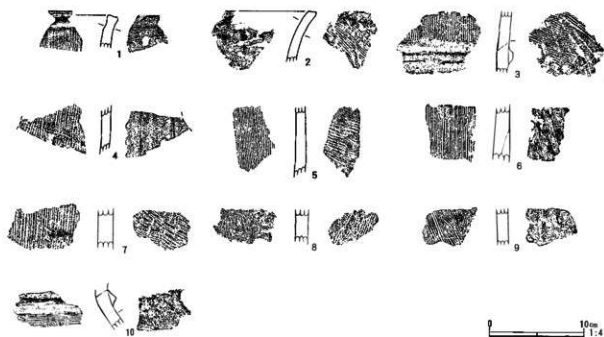


図20 林11号墳出土円筒・朝顔形埴輪実測図

形象埴輪 [1・2] (図21、写真12)

器種不明 [1・2]

1は横方向へ緩やかに湾曲する破片で、外面に「×」形の刻線があり、円形粘土粒を貼付している。調整は外面がハケおよびナデ、内面がナデで、胎土には片岩・チャートを含み、窯窯焼成で、色調は明赤褐色を呈する。2は板状の破片で、緩やかに湾曲している。調整は外面がハケおよびナデ、内面がハケのちナデで、胎土には角閃石安山岩粒を含み、窯窯焼成で、色調は明赤褐色を呈する。

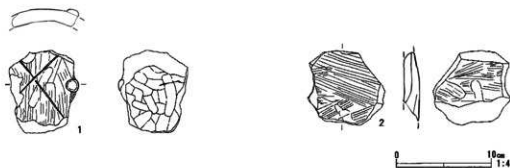


図21 林11号墳出土形象埴輪実測図

(3) 小 結

林11号墳は埴輪の小片をわずかに出土するのみで、築造時期を特定する根拠に乏しい。円筒埴輪には外面二次調整を欠くことから、中期末葉から後期までの時期が考えられる。

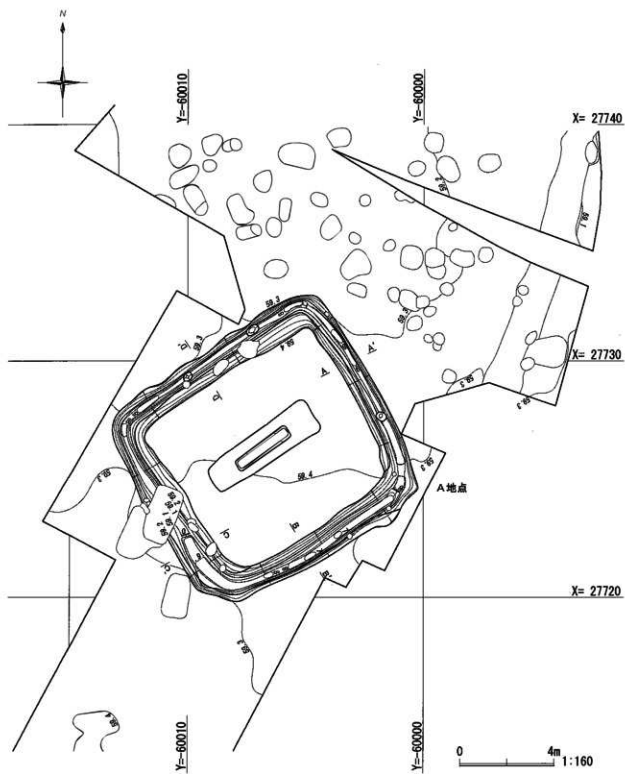


图22 林13号墳

5 林13号墳

[A地点]

調査期間 平成6年6月11日～平成6年8月31日

調査面積 1000㎡

調査原因 区画整理に伴う市道建設

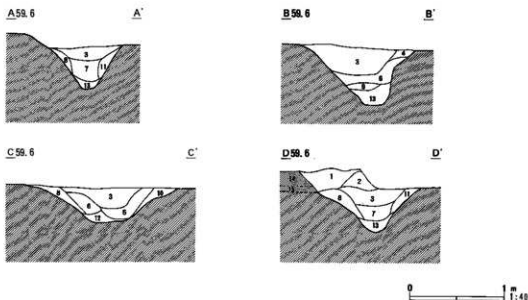
調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

備考 同一調査区内で林14号墳の周堀を検出 [林14号墳A地点]

(1) 遺構

本庄市小島地内にあって、中心をX=27,726、Y=-60,007付近におく。周囲には北東側に林8号墳、南西側に林14・15号墳が隣接する。墳形は方墳で、平面設計は北東-南西方向にやや長い方形を呈する。墳丘規模は北東-南西方向で約10m、北東-南西方向で約9mを測る。墳丘盛土はすでに失われているが、現在の表土の下には、旧表土層が残し、墳丘部の中央には、この旧表土層を掘り込んで、埋葬施設の一部が遺存している。埋葬施設は墳丘長軸に平行して長方形の墓坑とその内側に木棺の痕跡と思われる別の落ち込みみかなる。

墓坑の平面形は長軸5.10m、北東側の短辺1.60m、南西側の短辺1.30m、確認面からの深さ54～58cmを測る。上面から斜め方向に掘り込まれ、内部には木棺との空間にロームブロックを含む暗褐色土



林13号墳A地点土層説明 [A-A'・B-B'・C-C'・D-D']

1 暗褐色土 暗褐色土ブロックを多量に含む。

2 黒褐色土 細砂粒を少量含む。

3 黒灰褐色土 ロームブロックを少量含む。

4 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。

5 暗灰褐色土 ロームブロックを少量含む。

6 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む、黒色土ブロックを少量含む。

7 黒灰褐色土 ロームブロックを少量含む。

8 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。

9 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。

10 暗灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。

11 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。

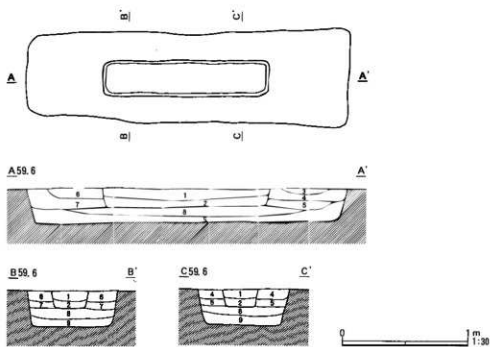
12 褐色土 ロームブロックを多量に含む。

13 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。

14 黒色土 旧表土層。

15 暗褐色土 旧表土層。

図23 林13号墳土層断面図



林13号埋葬施設土層説明

- 1 灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 2 灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。1層より暗い。
- 3 灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。白色粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 6 暗灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 7 黒灰色土 ロームブロックを多量に含む。
- 8 暗灰色土 ロームブロックを少量含む。
- 9 褐色土 ロームブロックを主体とする。

図24 林13号埋葬施設平面図・土層断面図

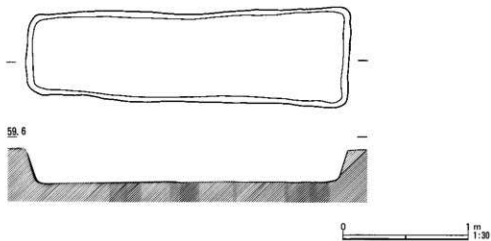


図25 林13号埋葬施設墓坑平面図・断面図

または黒褐色土を充填し、硬くしまっている。粘土による被覆など、とくに顕著な造作の痕跡は見出しえない。このことから、埋葬施設の型式は木棺直葬と推定され、木棺はすでに完全に腐食し、墓坑内に長方形の落ち込みとなった痕跡を検出している。内部には微細なロームブロックを含む黒色土が堆積していた。この長方形の落ち込みは長さ2.60m、幅0.58mを測り、確認面からの深さ25cmを測る。棺材は遺存していないが、痕跡の形態から判断して、木棺の型式は組立式箱形木棺と推測される。高さは不明ながら、推定される木棺の法量も、この長方形の落ち込みに近い数値が考えられる。

周堀は墳丘に沿って相似形にめぐる。堀幅は1.0～1.6m、確認面から深さ40～60cmを測り、堀幅の割に深さがある。このため周堀の立ち上がりは、比較的急角度である。周堀底面は幅が狭く、各所に段差が存在する。周堀覆土は全体にロームブロックを含む褐色系の土層が堆積している。火山噴出物の層状堆積は確認できない。

(2) 遺物

木棺の内部には、まったく副葬品は存在していない。墓坑内部においても副葬品・供献土器などの遺物は出土していない。周堀覆土から土師器埴1点を検出している。

a. 土器

土師器 (図26、写真12)

埴 [1]

小さな平底の底部をもち、体部は膨らんで立ち上がり、上位に最大径がある。頸部は「く」字状に屈曲し、口縁部は外反して直線的に立ち上がる。調整は体部下位外面がヘラケズリ、体部中位以上がナデで、体部内面と口縁部内外面には横位のナデを施している。胎土には片岩・チャートを含み、色調は明赤褐色を呈する。

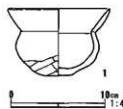


図26 林13号墳出土土器実測図

林13号墳出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 埴	口径 10.8 底径 2.9 器高 7.2	上位が膨らむ体部。口縁部は内湾して大きく開く。底部は小さな平底。	外面—口縁部ココナデ、体部上・中位ナデ、下位ヘラケズリ、底部ナデ。 内面—口縁部ココナデ、体部～底部ナデ。	粗粒片岩・チャート 内外—明赤褐色	ほぼ完形。

(3) 小 結

林13号墳は旭・小島古墳群において堅穴系埋葬施設の所在を確認できる数少ない事例である。一辺10m程度の規模であるにもかかわらず、埋葬施設が遺存していたのは、小型古墳であるために墳丘が低く、棺を埋納するための墓坑底のレベルが盛土内にとどまらず、地山層にまで達していたためと推測される。築造時期は、周堀覆土で出土した土師器埴から、古墳時代前期期末葉ないし中期初頭と考えられる。

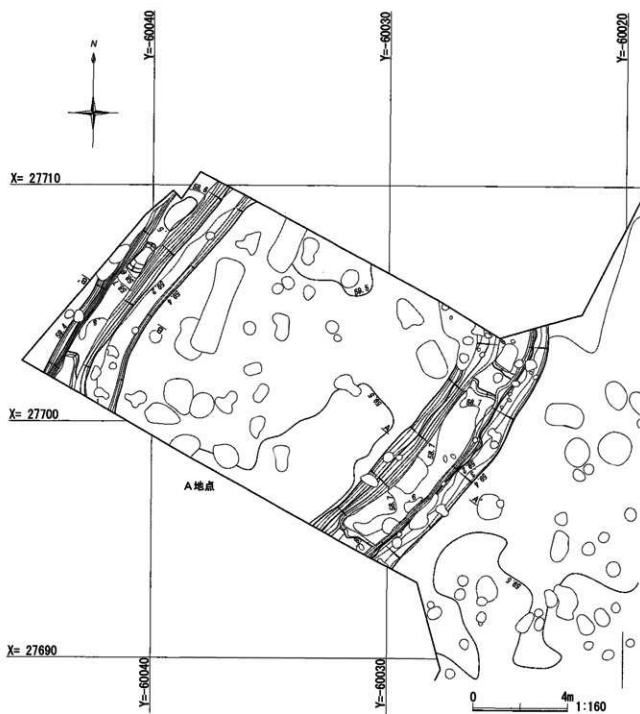


图27 林14号填

6 林14号墳

[A地点]

調査期間 平成6年6月11日～平成6年8月31日

調査面積 1000㎡

調査原因 区画整理に伴う市道建設

調査担当 本市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

備考 同一調査区内で林13号墳の周堀を検出 [13号墳A地点]

(1) 遺構

本市市小島地内にあつて、中心をX=27,702、Y=-60,034付近におく。周囲には北東側に林13号墳、西側に林15号墳が隣接する。平面設計は北東-南西方向にやや長い方墳で、墳丘規模は北東-南西方向で推定16m前後、北東-南西方向で約14mを測る。墳丘盛土は旧表土とともに失われ、表土が直接ローム層を被覆する状態である。埋葬施設の痕跡も認められない。周堀は墳丘に沿って相似形にめぐり、堀幅は2.8～3.6m、確認面から深さ80cm前後を測る。周堀底面には各所に段差や土坑状の落ち込みが存在する。周堀覆土は全体にロームブロックを含む黒色ないし褐色系の土層が堆積している。火山噴出物の層状堆積は確認できない。

(2) 遺物

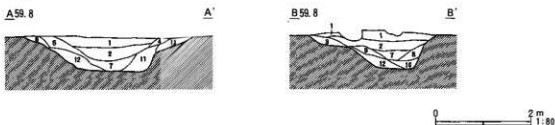
周堀覆土から土師器埴1点のほか器種不詳の土師器1点を検出している。

a. 土器

土師器 (図29、写真12)

埴 [1]

小さな平底の底部をもち、体部は長胴気味に立ち上がり、肩部に最大径がある。頸部は「く」字状に屈曲し、口縁部は外反して直線的に立ち上がる。調整は体部外面の中位下位がヘラケズリ、体部上位がナデで、口縁部外面にはヘラナデを施している。内面は体部がナデ、口縁部がヘラナデで、口唇部には内外面とも横位のナデを施している。胎土には片岩・チャートを含み、色調はにぶい黄橙色を呈する。



林14号墳A地点土層説明 [A-A'・B-B']

- | | | | |
|---------|----------------|----------|----------------|
| 1 黒色土 | ロームブロックを多量に含む。 | 8 暗黄褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |
| 2 黒灰褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 | 9 黄褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |
| 3 黒褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 | 10 黄灰褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |
| 4 暗褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 | 11 純黄褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |
| 5 暗灰褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 | 12 純灰黄色土 | ロームブロックを多量に含む。 |
| 6 褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 | 13 褐色土 | ロームブロックの堆積層。 |
| 7 灰褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 | | |

図28 林14号墳土層断面図

器種不詳 [2]

小型甕に似た胴部のみ破片である。肩部に最大径があり、底部および頸部以上を欠損している。調整は外面がヘラナデ、内面がナデで、外面には粘土積上痕が残る。胎土には片岩・チャートを含み、色調はにぶい赤褐色を呈する。

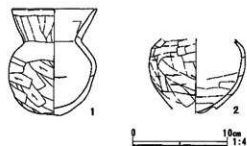


図29 林14号墳出土土器実測図

林14号墳出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 甕	口径 9.0 底径 2.0 器高 11.4	上位に膨らみを持つ体部。口縁部は直線的に開く。底部は小さな平底。	外面—口縁部ヘラナデ、体部上位ナデ、中位以下ヘラケズリ、底部ナデ。内面—口縁部ヘラナデ、体部～底部ナデ。	片岩・チャート内外—にぶい黄褐色	ほぼ完形。
2	土師器 (有孔器)	口径 — 底径 — 器高 —	上位に膨らみを持つ体部。底部は軽薄するが小孔がある。	外面—胴部ヘラナデで輪積痕が残る。内面—胴部～底部ナデ。	片岩・チャート内外—にぶい赤褐色	口縁部・底部欠損。あるいは高台が軽薄か。

(3) 小 結

林14号墳は北東—南西方向に長い長方形を呈する方墳で、長径16mの墳丘規模は、古墳群内の方墳の中では小型の部類に属する。築造時期は、周堀覆土で出土した土師器甕から、古墳時代前期末葉ないし中期初頭と考えられる。

7 林15号墳

[A地点]

調査期間 平成9年10月14日～平成9年11月14日

調査面積 816m²

調査原因 区画整理に伴う市道建設

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

備考 同一調査区内で林16号墳の周堀を検出 [林16号墳C地点]

(1) 遺 構

本庄市小島地内において、中心をX=27,702、Y=-60,054付近におく。周囲には東側に林14号墳、北西側に林16号墳が隣接する。平面設計は北東—南西方向に主軸をもつ方墳で、墳丘規模は北東—南西方向で14m前後になると推測される。墳丘盛土は旧表土とともに失われ、表土が直接ローム層を被覆する状態である。埋葬施設の痕跡も認められない。周堀は墳丘に沿って相似形にめぐり、堀幅は2m前後、確認面から深さ25～40cmを測る。周堀底面はほぼ平坦で、段差や土坑状の落ち込みは存在しない。周堀覆土は全体にロームブロックを含む褐色系の土層が堆積している。火山噴出物の層状堆積は確認できない。

(2) 遺 物

周堀覆土から土師器甕1点を検出している。

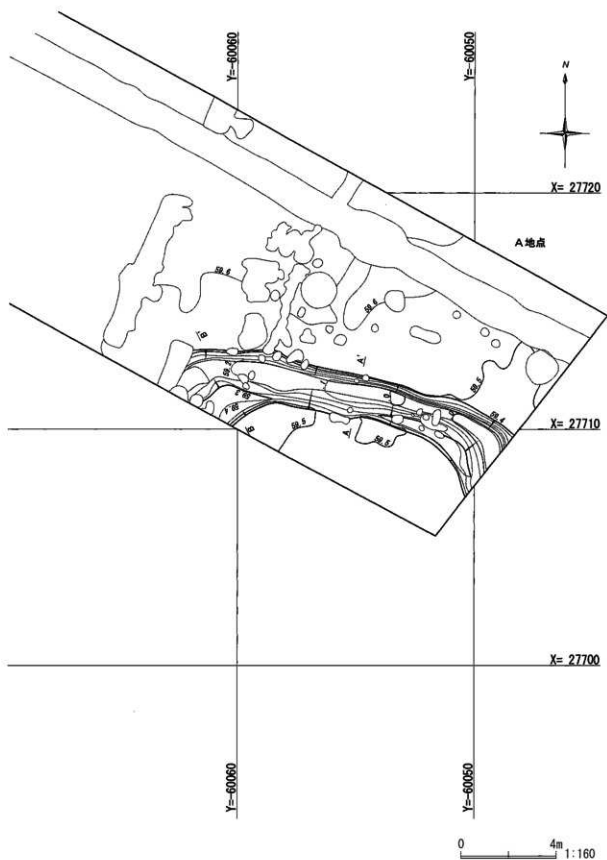
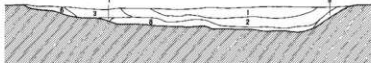


图30 林15号墳

A59.7



A' B59.7



0 1m 1:40

林15号墳A地点土層説明【A-A'・B-B'】

- 1 黒灰褐色土 ロームブロックを少量含む。
 2 黒灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
 3 暗灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
 4 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
 5 灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。

- 6 鈍黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
 7 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
 8 褐色土 ロームブロックを多量に含む。
 9 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。

図31 林15号墳土層断面図

a. 土器

土師器 (図32、写真12)

甕 [1]

胴部は大きく張って立ち上がり、頸部は「く」字状に屈曲し、口縁部は短く、緩やかに外湾している。調整は体部外面の中位下位がナデ、体部上位がヘラケズリで、口縁部外面にはナデを施している。内面は体部がヘラナデ、口唇部には内外面および口縁部内面には横位のナデを施している。胎土には石英を含み、色調はにぶい褐色を呈する。

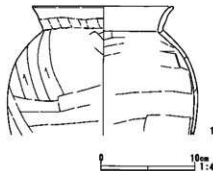


図32 林15号墳出土土器実測図

林15号墳出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師甕	口径 (15.0) 底径 — 器高 —	膨らみを持つ胴部。口縁部は湾曲気味に外反して開く。	外面—口縁部上位ヨコナデ、下位ナデ、胴部上位ヘラケズリ、中位以下ナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—にぶい褐色	口縁から胴部 中位1/4。

(3) 小 結

検出の範囲は一部分にとどまったが、林15号墳は、隣接する林14号墳とほぼ同規模の方墳になると推測される。築造時期は、周堀覆土で出土した土師器甕から、古墳時代前期末葉ないし中期初頭と考えられる。

8 林16号墳

[A地点]

調査期間 平成2年11月21日～平成2年12月13日
調査面積 220㎡
調査原因 区画整理に伴う宅地造成
調査担当 本市教育委員会社会教育課文化財保護係 長谷川勇

[B地点]

調査期間 平成3年6月11日～平成3年6月29日
調査面積 770㎡
調査原因 区画整理に伴う宅地造成
調査担当 本市教育委員会社会教育課文化財保護係 長谷川勇

[C地点]

調査期間 平成9年10月14日～平成9年11月14日
調査面積 816㎡
調査原因 区画整理に伴う市道建設
調査担当 本市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司
備考 同一調査区内で林15号墳の周堀を検出 [林15号墳A地点]

(1) 遺 構

本市小島地内において、中心をX=27,740、Y=-60,085付近におく。周囲には北東側に林9号墳、南東側に林15号墳が隣接する。平面設計は北東-南西方向に長い長方形を呈する方墳で、墳丘規模は長軸約29m、短軸26mを測る。墳丘盛土は旧表土とともに失われ、表土が直接ローム層を被覆する状態である。埋葬施設の痕跡も認められない。周堀は墳丘に沿って相似形にめぐり、堀幅は6.4～9.0m、確認面から深さ70～90cmを測る。周堀底面はほぼ平坦で、段差や土坑状の落ち込みは存在しない。周堀覆土は全体にロームブロックを含む褐色系の土層が堆積している。中層から上層にかけてAs-Bの堆積を認める。

(2) 遺 物

表土から土師器・須恵器破片および土錘を検出している。土師器・須恵器はすべて小片で、年代も様々であり、いずれも林16号墳に伴う確証はない。

a. 土器

土師器 (図35、写真12)

坏 [1]

体部から口縁部にかけての小片で、丸みのある体部から内湾する口縁部が立ち上がる。調整は体部外面にヘラケズリ、口縁部に横位のナデを施し、内面には体部から口縁部にかけて横位のナデを施している。胎土に石英を含み、色調はぶい黄褐色を呈する。

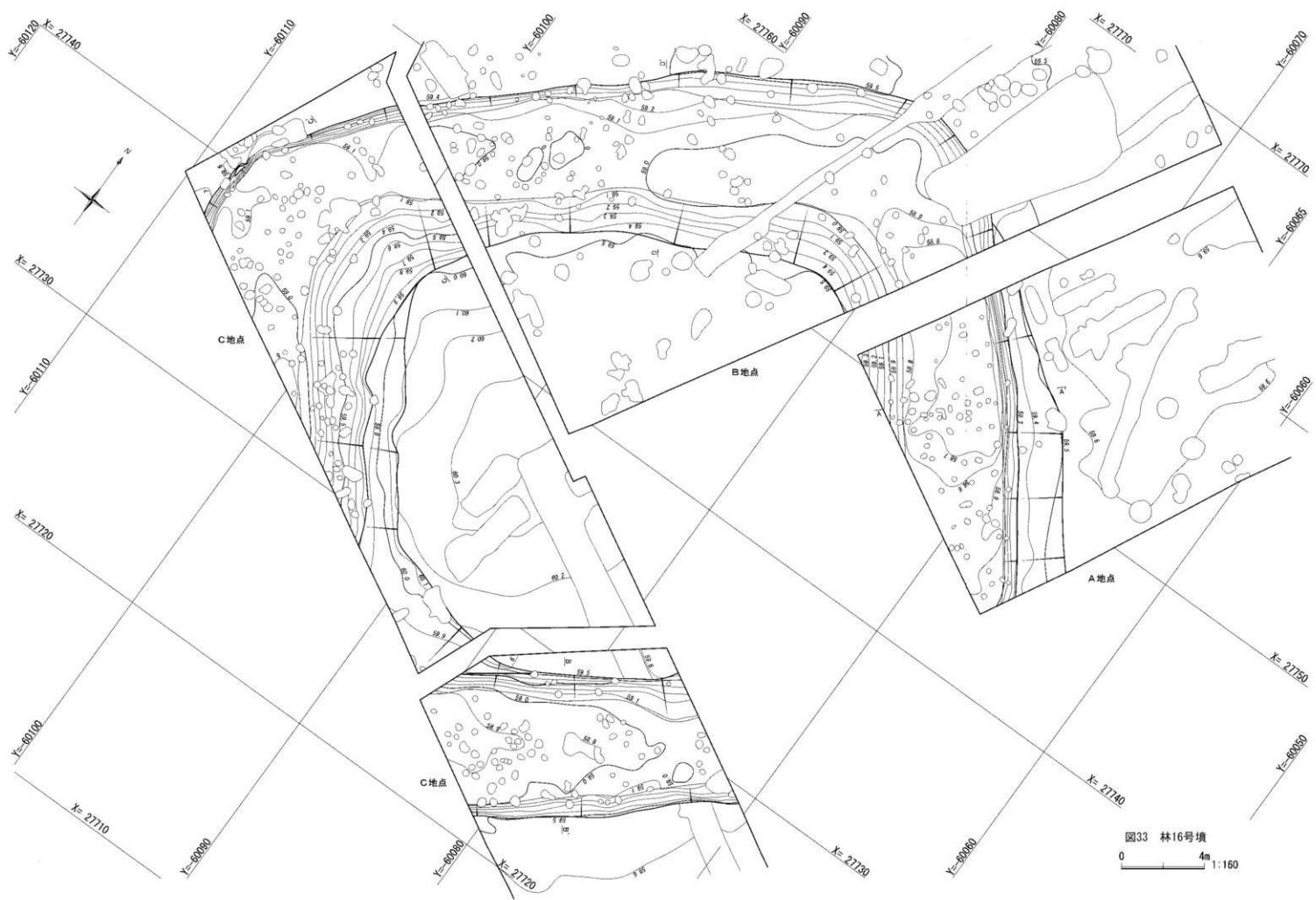
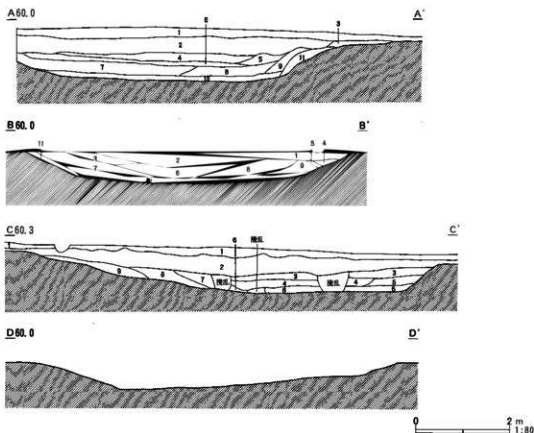


图33 林16号地





林16号墳A地点土層説明 [A-A']

- 1 灰褐色土
- 2 暗灰褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 4 黒褐色土 暗褐色土ブロックを多量に含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロックを少量含む、暗褐色土ブロック、As-Bを多量に含む。
- 6 黒褐色土 As-Bを多量に含む。
- 7 黒褐色土 暗褐色土ブロックを多量に含む。
- 8 黒褐色土 細砂粒を少量含む。
- 9 暗褐色土 ロームブロック、暗褐色土ブロックを多量に含む。
- 10 暗黄褐色土
- 11 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。

林16号墳C地点土層説明 [B-B']

- 1 暗灰褐色土 ロームブロック、As-Bを多量に含む。
- 2 黒灰褐色土 暗褐色土ブロックを多量に含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック、暗褐色土ブロックを多量に含む。

- 4 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 6 褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 7 黒灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 8 暗灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 9 暗灰黄色土 ロームブロックを多量に含む。
- 10 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 11 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。

林16号墳C地点土層説明 [C-C']

- 1 灰褐色土
- 2 暗灰褐色土 As-Bを多量に含む。
- 3 黒灰褐色土 暗褐色土ブロックを多量に含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 5 黒灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 6 暗灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 7 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 8 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 9 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。

図34 林16号墳土層断面図

埴 [2・3]

2はわずかに内湾して立ち上がる口縁部の破片で、調整は口縁部外面から口唇部内外面にかけて横位のナデ、口縁部内面は横位のヘラナデを施している。胎土に石英・角閃石を含み、色調はにぶい褐色を呈する。3は体部から口縁部にかけての破片で、体部は球状を呈し、頸部は「く」字状に屈曲している。調整は外面には体部にヘラケズリののち上位にナデ、口縁部に横位のナデで、内面には体部

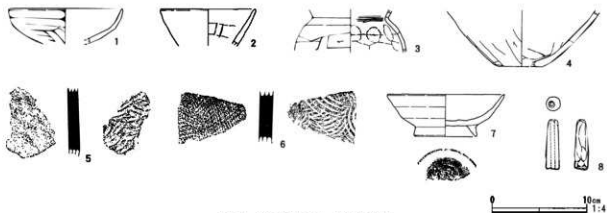


図35 林16号墳出土土器実測図

林16号墳出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 杯	口径 (12.0) 底径 — 器高 —	体部は丸みを持ち、口縁部はやや内湾する。	外面—口縁部ヨコナデ、体部—底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	石英・黒色粒・白色粒内外—にぶい黄褐色	1/6。
2	土師器 埴	口径 (10.0) 底径 — 器高 —	わずかに内湾して聞く口縁部。	外面—口縁部ヨコナデ。内面—口縁部ヘラナデ。	石英・角閃石・白色粒内外—にぶい黄褐色	口縁部片。
3	土師器 埴	口径 — 底径 — 器高 —	丸みを持つ体部。口縁部は外傾して立ち上がる。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～ヘラケズリ後上位をナデ。内面—口縁部ヨコナデ、拵れ部ミガキ、体部ナデ、指頭圧痕。	片岩・チャート内外—にぶい赤褐色	体部上位片。
4	土師器 甕	口径 — 底径 (5.0) 器高 —	小さな底部からわずかに丸みを持って立ち上がる胴部。	外面—胴部～底部ヘラケズリ。内面—胴部～底部ヘラナデ。	石英・黒色粒内外—褐色内外—にぶい黄褐色	胴部下位～底部。
5	須恵器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	巻き上げ成形。	外面—胴部平行タキ後ナデ。内面—同心円状当具痕。	石英・黒色粒内外—浅黄色内外—黄灰色	胴部片。
6	須恵器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	巻き上げ成形。	外面—縦格子目状タキ。内面—同心円状当具痕。	石英・黒色粒内外—灰白色内外—灰色	胴部片。
7	須恵器 高台付 碗	口径 (12.4) 底径 (6.6) 器高 4.5	体部中位から直線的に口縁部に至る。高台部は外傾する。	体部～高台部クロク整形。	石英・角閃石・赤褐色粒内外—にぶい黄褐色	酸化焙焼成。1/3。
8	土 埴	長さ:5.1 厚さ:1.5 孔径:0.4 重さ:10.69g		片岩・チャートにぶい黄褐色		ほぼ完形。

に横位のナデ、頸部にヘラミガキ、口縁部に横位のナデを施している。胎土に片岩・チャートを含み、色調はにぶい赤褐色を呈する。

甕 [4]

底部は小さく、胴部はわずかに内湾しながら立ち上がる。調整は外面がヘラケズリ、内面がヘラナデで、胎土に石英を含み、色調はにぶい黄褐色を呈する。

須恵器 (図35、写真12)

甕 [5・6]

胴部の小片である。外面調整は5が平行タキ、6が格子タキで、内面にはともに同心円状の当て具痕が残る。胎土に石英を含み、5は外面が黄灰色、内面が浅黄色、6は外面が灰色、内面が灰白色を呈する。



图36 林17号填



高台付椀〔7〕

「ハ」字状に開く高台をもち、底部は平底で、体部は内湾気味に立ち上がる。高台部から体部までロクロ成形による。胎土に石英・角閃石を含み、酸化煇焼成で、色調はにぶい黄褐色を呈する。

土製品（図35、写真12）

土鍾〔8〕

中間に膨らみをもたない円筒形の土鍾である。管玉を模した土製首飾りの可能性も考えられる。胎土に片岩・チャートを含み、色調はにぶい黄褐色を呈する。

(3) 小 結

林16号墳は長軸約29mを測る大型の方墳で、古墳群内最大規模の方墳のひとつである。築造年代を積極的に示す遺物はないが、旭・小島古墳群における方墳の築造時期は、いずれも古墳時代前期末葉から中期初頭までの時期に限定され、古墳時代中期前半段階まで降下する例は存在しないことから、林18号墳の築造時期も古墳時代中期初頭以前に遡ると考えられる。

9 林17号墳

〔A地点〕

調査期間 平成6年11月13日～平成7年1月22日

調査面積 480m²

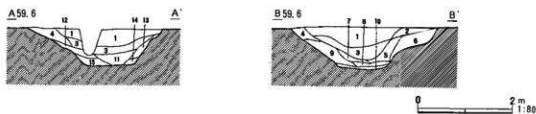
調査原因 区画整理に伴う宅地造成

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

備考 同一調査区内で林18号墳の周堀を検出〔林18号墳C地点〕

(1) 遺 構

本庄市小島地内にあって、中心をX=27,885、Y=-60,075付近におく。周囲には北東側に林18号



林17号墳A地点土層説明〔A-A'・B-B'〕

- 1 黒灰褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 2 黒灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 3 暗灰色土 ロームブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロック、黒色土ブロックを多量に含む。
- 6 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 7 褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 8 暗黄褐色土 ロームブロック、黒色土ブロックを多量に含む。

- 9 黄褐色土 ロームブロックの堆積層。
- 10 褐色土 ロームブロックの堆積層。
- 11 鈍灰黄色土 ロームブロックを多量に含む。
- 12 暗灰黄色土 ロームブロックを多量に含む。
- 13 灰黄色土 ロームブロックを多量に含む。
- 14 鈍黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 15 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。

図37 林17号墳土層断面図

墳が隣接する。平面設計は北東—南西方向に主軸をとる方墳と推定され、墳丘規模は一辺15～20mを測ると考えられる。墳丘盛土は旧表土とともに失われ、表土が直接ローム層を被覆する状態である。埋葬施設の痕跡も認められない。周堀は墳丘に沿って相似形にめぐり、堀幅は2.8～3.2m、確認面から深さ70～90cmを測る。周堀底面は東隅が周囲より一段高くなっている以外はほぼ平坦で、段差や土坑状の落ち込みは存在しない。周堀覆土は全体にロームブロックを含む褐色系の土層が堆積している。火山噴出物の層状堆積は確認できない。

(2) 遺物

遺物は表土から少量の土師器片を検出しているが、いずれも周辺の古墳からの流れ込みと判断される。周堀覆土からの埴輪・土器の出土は皆無であり、林17号墳に伴う遺物は確認できていない。

(3) 小結

旭・小島古墳群における方墳の築造時期は、いずれも古墳時代前期末葉から中期初頭までの時期に限定され、古墳時代中期前半段階まで降下する例は存在しないことから、林18号墳の築造時期も古墳時代中期初頭以前に遡ると考えられる。

10 林18号墳

[A地点]

調査期間 平成5年4月2日～平成5年5月14日

調査面積 425㎡

調査原因 区画整理に伴う市道建設

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

備考 同一調査区内で林19・20号墳の周堀を検出 [林19号墳A地点・林20号墳B地点]

[B地点]

調査期間 平成5年6月4日～平成5年6月25日

調査面積 540㎡

調査原因 区画整理に伴う市道建設

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

備考 同一調査区内で林20号墳の周堀を検出 [林20号墳C地点]

[C地点]

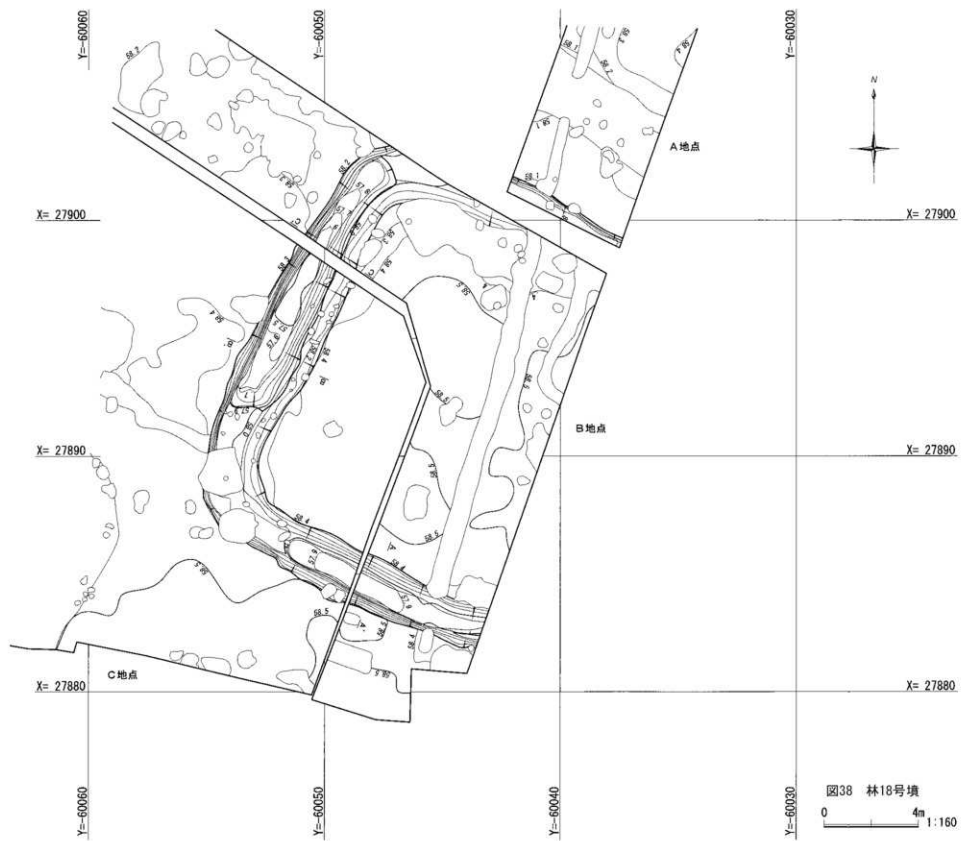
調査期間 平成6年11月13日～平成7年1月22日

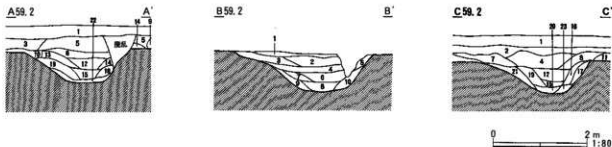
調査面積 480㎡

調査原因 区画整理に伴う市道建設

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

備考 同一調査区内で林17号墳の周堀を検出 [林17号墳A地点]





林18号古墳B地点土層説明【A-A'・C-C'】

- 1 黒灰褐色土 As-Aを多量に含む。
- 2 暗灰褐色土 As-Aを多量に含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 5 灰褐色土 As-Aを多量に含む。
- 6 黒灰褐色土
- 7 黒灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 8 黒灰褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 9 黒灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 10 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む、黒色土ブロックを少量含む。
- 11 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む、黒色土ブロックを少量含む。
- 12 暗灰褐色土 ロームブロックを多量に含む、炭化物ブロック、焼土ブロックを少量含む。
- 13 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む、炭化物ブロック、焼土ブロックを少量含む。
- 14 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む、炭化物ブロック、焼土ブロックを少量含む。
- 15 褐色土 ロームブロックを多量に含む、炭化物ブロック、焼土ブロックを少量含む。
- 16 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む、細砂粒を少量含む。

- 17 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む、黒色土ブロックを少量含む。
- 18 褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 19 暗灰黄色土 ロームブロックを多量に含む。
- 20 鈍黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 21 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 22 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む、黒色土ブロックを少量含む。
- 23 黄褐色土

林18号墳C地点土層説明【B-B'】

- 1 灰褐色土 ロームブロックを少量含む、As-Aを多量に含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 3 黒灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 5 褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 6 暗灰黄色土 ロームブロックを多量に含む。
- 7 鈍黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 8 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 9 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 10 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。

図39 林18号墳土層断面図

(1) 遺構

本庄市小島地内において、中心をX=27,892、Y=-60,042付近におく。周囲には北東側に林17号墳、北東側に林19号墳が隣接する。墳形は方墳で、平面設計は北東-南西方向に主軸をとり、墳丘規模は北東-南西方向で16.5mを測る。墳丘盛土は旧表土とともに失われ、表土が直接ローム層を被覆する状態である。埋葬施設の痕跡も認められない。周堀は墳丘に沿って相似形にめぐり、堀幅は2.4~3.0m、確認面から深さ70~80cmを測る。周堀底面は北隅および西隅が周囲より一段高く、南西・北西の各辺には土坑状の落ち込みは存在せず、平坦面となっている。周堀覆土は全体にロームブロックを含む褐色系の土層が堆積している。表土中にAs-Aの混入を認めるが、周堀覆土には火山噴出物の層状堆積は確認できない。

(2) 遺物

遺物は表土から少量の土師器・須恵器片を検出しているが、いずれも周辺の古墳からの流れ込みと判断される。周堀覆土からの埴輪・土器の出土は皆無であり、林18号墳に伴う遺物は確認できていない。

(3) 小 結

旭・小島古墳群における方墳の築造時期は、いずれも古墳時代前期末葉から中期初頭までの時期に限定され、古墳時代中期前半段階まで降下する例は存在しないことから、林18号墳の築造時期も古墳時代中期初頭以前に遡ると考えられる。

11 林19号墳

[A地点]

調査期間 平成5年4月2日～平成5年5月14日

調査面積 425m²

調査原因 区画整理に伴う市道建設

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

備 考 同一調査区内で林18・20号墳の周堀を検出 [林18号墳A地点・林20号墳B地点]

(1) 遺 構

本庄市小島地内にあって、中心をX=27,910、Y=-60,030付近におく。周囲には南西側に林18号墳が隣接する。墳形は方墳で、平面設計は北東-南西方向に主軸をとり、墳丘規模は北東-南西方向で約20mを測る。墳丘盛土は旧表土とともに失われ、表土が直接ローム層を被覆する状態である。北西側の墳丘・周堀も攪乱により部分的に変形・消滅している。埋葬施設の痕跡も認められない。周堀は墳丘に沿って相似形にめぐり、堀幅は2.8～3.2m、確認面から深さ40～70cmを測る。確認の範囲は狭いが、周堀底面には段差や落ち込みはみられない。周堀覆土は全体にロームブロックを含む褐色系の土層が堆積している。覆土には火山噴出物の層状堆積は確認できない。



図40 林19号墳断面図

(2) 遺 物

周堀覆土から土師器埴1点を検出している。

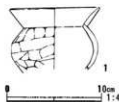
a. 土 器

土師器 (図41、写真12)

埴 [1]

底部を欠失している。体部は球状を呈し、中位に最大径がある。

頸部は「く」字状に屈曲し、口縁部は外反して直線的に立ち上がる。 図41 林19号墳出土土器実測図



林19号墳出土土器観察表

No	器 種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備 考
1	土師器 埴	口径 (9.6) 底径 - 器高 -	中位が大きく膨らむ体部。口縁部は直線的に開く。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後、上へ中位ナデ。内面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	片岩・チャート 内外へよい赤褐色	2/3。

調整は体部外面がヘラケズリののち中位以上にナデを加え、口縁部内外面とも横位のナデ、体部内面にはナデを施している。胎土には片岩・チャートを含み、色調はにぶい赤褐色を呈する。

(3) 小 結

林19号墳の築造時期は、周堀覆土で出土した土師器埴から、古墳時代前期末葉ないし中期初頭と考えられる。

12 林20号墳

[A地点]

調査期間 平成2年4月25日～平成2年5月15日

調査面積 628㎡

調査原因 区画整理に伴う宅地造成

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 長谷川勇

[B地点]

調査期間 平成5年4月2日～平成5年5月14日

調査面積 425㎡

調査原因 区画整理に伴う市道建設

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

備考 同一調査区内で林18・19号墳の周堀を検出 [林18号墳A地点・林19号墳A地点]

[C地点]

調査期間 平成5年6月4日～平成5年6月25日

調査面積 540㎡

調査原因 区画整理に伴う市道建設

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

備考 同一調査区内で林18号墳の周堀を検出 [林18号墳B地点]

[D地点]

調査期間 平成7年7月24日～平成7年8月23日

調査面積 460㎡

調査原因 区画整理に伴う市道建設

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

備考 同一調査区内で林21・25号墳の周堀を検出 [林21号墳B地点・25号墳C地点]

[E地点]

調査期間 平成7年8月28日～平成7年9月20日
調査面積 320㎡
調査原因 区画整理に伴う宅地造成
調査担当 本市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

[F地点]

調査期間 平成10年5月28日～平成10年6月30日
調査面積 384㎡
調査原因 区画整理に伴う宅地造成
調査担当 本市教育委員会社会教育課文化財保護係 増田一裕
備考 同一調査区内で林21号墳の周堀を検出 [林21号墳D地点]

(1) 遺 構

本市市小島地内にあって、中心をX=27,940、Y=-60,065付近におく。北西側の周堀が林21号墳周堀に切られている。墳形は方墳で、平面設計は北東-南西方向に長い長方形を呈する。墳丘規模は北東-南西方向で31.2m、南東-北西方向で28.8mを測る。墳丘盛土は旧表土とともに失われ、表土が直接ローム層を被覆する状態である。埋葬施設の痕跡も認められない。周堀は墳丘に沿って相似形にめぐり、堀幅は5.2～8.4mを測る。周堀底面には緩やかな起伏が存在する。周堀底面からの立ち上がりは、外側が急傾斜であるのに対し、墳丘側は緩やかである。確認面から深さ90～100cmを測る。周堀覆土は全体にロームブロックを含む褐色系の土層が堆積している。Hr-FAの堆積は確認できないが、中層にはAs-Bの混入が認められる箇所がある。

(2) 遺 物

表土から土師器・土製品のほか中世土器・磁石を検出している。土師器の年代は様々で、いずれも林20号墳に伴う確証はない。

a. 土器

土師器 (図45、写真12)

坏 [1]

丸底の底部をもち、体部は膨らんで立ち上がり、半球状を呈する。口縁部を意図的に打ち欠いているように観察される。内面には7本の暗文が放射状に配される。調整は底部外面がヘラケズリ、体部外面はナデ、口縁部内外面から体部内面にかけては横位のナデで底部内面は不定方向のナデとなっている。胎土には石英を含み、色調は明赤褐色を呈する。

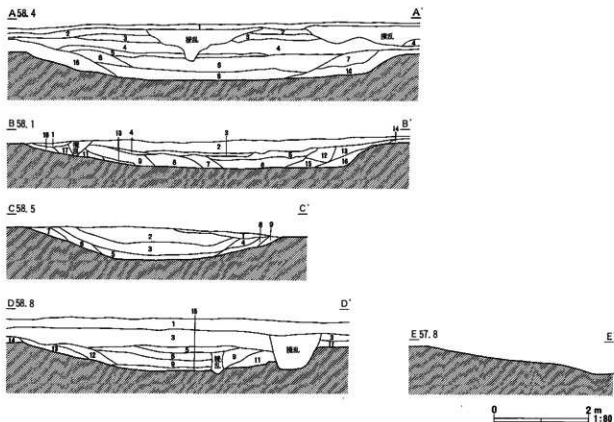
壺 [2]

有段口縁部の口縁部の破片である。下段は緩やかに外湾して立ち上がり、上段は直線的に外反する。調整は内外面とも横位のナデののち、ヘラ状工具によるミガキが加えられている。内面のミガキは外面に比べ粗い。胎土には石英を含み、色調はにぶい黄橙色を呈する。



图43 林20号填

0 4m 1:160



林20号墳C地点土層説明 [A-A'・D-D']

- 1 黒灰褐色土 As-Aを多量に含む。しまり強。
- 2 暗灰褐色土 As-Aを多量に含む。
- 3 灰褐色土 As-Aを多量に含む。
- 4 黒灰褐色土 ロームブロックを少量含み、As-Aを多量に含む。
- 5 黒灰褐色土 ロームブロックを少量含み、As-Aを多量に含む。
- 6 黒灰褐色土 暗褐色土ブロックを多量に含む。
- 7 黒灰褐色土 ロームブロックを少量含み、暗褐色土ブロックを多量に含む。
- 8 黒灰褐色土
- 9 暗灰褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 10 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 11 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 12 暗灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 13 褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 14 灰褐色土 ロームブロック、As-Aを多量に含む。
- 15 黒灰褐色土 ロームブロック、As-Aを多量に含む。
- 16 暗黄褐色土 ロームブロック多量に含み、黒色土ブロックを少量含む。

- 5 黒褐色土
- 6 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。粘質強。
- 7 明灰褐色土 暗褐色土ブロックを多量に含む。
- 8 褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 9 暗褐色土 黒褐色土ブロックを多量に含む。
- 10 暗灰褐色土 黒褐色土ブロックを多量に含む。
- 11 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 12 暗灰褐色土 褐色土ブロックを多量に含む。
- 13 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 14 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 15 黒色土 ロームブロックを少量含む。
- 16 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 17 褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 18 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。

林20号墳E地点土層説明 [C-C']

- 1 暗灰褐色土 As-Aを多量に含む。
- 2 暗灰褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 3 灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 6 褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 7 暗灰色土 ロームブロック多量に含み、黒色土ブロックを少量含む。
- 8 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 9 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。

林20号墳A地点土層説明 [B-B']

- 1 暗褐色土 As-Aを多量に含む。
- 2 黒灰褐色土
- 3 暗灰褐色土 As-Bを多量に含む。
- 4 黒灰褐色土 ロームブロック、暗褐色土ブロックを少量含む。

図44 林20号墳土層断面図

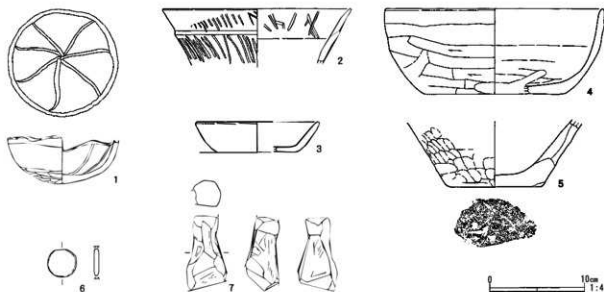


図45 林20号出土土器実測図

林20号出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 （坏）	口径 — 底径 — 器高 —	丸みを持つ体部。底部は丸底。口縁部を打ち欠いている。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面—体部ヨコナデ、底部ナデ、放射状のミガキ?本。	石英・白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	口縁部を打ち欠く。
2	土師器 甃	口径 (19.9) 底径 — 器高 —	外反して開く有段の口縁部。	外面—口縁部ヨコナデ後、斜位のミガキ。内面—口縁部ヨコナデ後、粗雑なミガキ。	石英・黒色粒・赤褐色粒 内外—にぶい黄褐色	口縁部片。
3	土師器 坏	口径 (13.0) 底径 (8.2) 器高 3.2	体部はわずかに丸みを持って立ち上がる。底部は平底。	外面—口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。内面—口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—褐色	1/5。
4	土師器 鉢	口径 (23.1) 底径 (14.4) 器高 9.0	平底の底部から体部は丸みを持って立ち上がる。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、上位ナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	1/4。
5	教育陶 甃 壺	口径 — 底径 (10.0) 器高 —	平底の底部から直線的に開き始める胴部。	外面—胴部ナデ・指頭圧痕、底部ナデ。内面—胴部～底部ナデ。	石英・チャート 内外—灰黄色	胴部下位～底部片。
6	土製品 円板状 土製品	径：2.9×3.1 厚さ：0.5 重さ：4.99g	明赤褐色 片岩・赤褐色粒			土師器再利用。
7	石製品 砥石	長さ：7.9 幅：4.0 厚さ：3.4 重さ：99.1g	流紋岩			一部欠損。

坏 [3]

平底の底部からわずかに内湾して体部が立ち上がる。調整は底部内外面が不定方向のナデ、体部・口縁部内外面には横位のナデを施している。胎土には石英を含み、色調はにぶい橙色を呈する。

鉢 [4]

大型の平底鉢で、緩やかに内湾して体部が立ち上がり、器壁が厚い。調整は底部外面がヘラケズリ、体部外面は下位がヘラケズリ、上位がナデで、口縁部は内外面とも横位のナデを施している。底部内面はヘラナデ、体部内面には横位のナデを加えている。胎土には石英を含み、色調は明赤褐色を呈する。

中世土器 (図45、写真12)

甕 [5]

平底の底部から体部が直線的に外反して立ち上がる。調整は内外面とも粗いナデを加えている。軟質の焼成で、胎土には石英・チャートを含み、色調は灰黄色を呈する。

土製品 (図45、写真12)

円板状土製品 [6]

土師器片を加工した円板状の土製品である。湾曲のない平板な造りで、孔は存在しない。胎土には片岩を含み、色調は明赤褐色を呈する。

石製品 (図45、写真12)

砥石 [7]

各所が欠損している。流紋岩製で、石基の粒子が細かい。

(3) 小 結

林20号墳は長径31.2mを測る旭・小島古墳群内では最大の方墳のひとつである。出土遺物には恵まれていないが、旭・小島古墳群における方墳の築造時期は、いずれも古墳時代前期末葉から中期初頭までの時期に限定され、古墳時代中期前半段階まで降下する例は存在しないことから、林20号墳の築造時期も古墳時代中期初頭以前に遡ると考えられる。

13 林21号墳

[A地点]

調査期間 平成3年3月17日～平成3年4月16日

調査面積 200㎡

調査原因 区画整理に伴う宅地造成

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

備考 同一調査区内で林25号墳の周堀を検出 [林25号墳A地点]

[B地点]

調査期間 平成7年7月24日～平成7年8月23日

調査面積 460㎡

調査原因 区画整理に伴う市道建設

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

備考 同一調査区内で林20・25号墳の周堀を検出 [林20号墳D地点・林25号墳C地点]

[C地点]

調査期間 平成10年4月22日～平成10年6月2日

調査面積 400㎡

調査原因 区画整理に伴う宅地造成

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 増田一裕

ナデ、口縁部は内外面とも横位のナデを施している加えている。胎土に粗砂粒・チャートを含み、色調は橙色を呈する。

7・8は球状の胴部をもち、7の口縁部は外湾しながら立ち上がる。調整は外面がヘラケズリののち胴部中位以上にナデを加え、内面は胴部がヘラナデで、口縁部には横位のナデを施している。胎土は7が粗砂粒・チャート、8が片岩・チャートを含み、色調はともに橙色を呈する。

甕 [9・10]

9は平底の底部から、下張れの胴部が立ち上がり、口縁部は直線的に外反して外面に稜をもつ。調整は胴部外面がヘラケズリののちナデ、口縁部外面が横位のナデで、内面は胴部から口縁部にかけてヘラナデが観察される。胎土に粗砂粒・チャートを含み、色調は明黄褐色を呈する。

10は肩部から口縁部にかけての破片である。頸部は「く」字状の外反する。調整は胴部外面がケズリののちナデ、胴部内面がヘラナデ、口縁部は内外面とも横位のナデを加えている。胎土に石英・角閃石を含み、色調は橙色を呈する。

台付甕 [11]

台部と肩部以上を欠損する。胴部中位に最大径をもつ。調整は胴部外面が粗いヘラケズリ、胴部外面がヘラナデである。胎土にチャート・角閃石を含み、色調は橙色を呈する。

須恵器 (図49、写真13)

甕 [12~15]

12・14は口縁部の破片で、12は緩やかに外湾している。調整は内外面とも横位のナデで、外面にはともに櫛描波状文と沈線がめぐる。色調は12が灰白色、14が灰色を呈する。

13は頸部から口縁部にかけての破片で、頸部外面には断面三角形の補強帯がつき、外面には櫛描波状文と沈線がめぐる。色調は灰白色を呈する。

15は胴部の破片で、外面調整に平行タタキを用い、内面には同心円状の当て具痕が観察される。色調は灰色を呈する。

(3) 小 結

埋葬施設はすでに消滅しているものの、林21号墳は横穴式石室を備える古墳時代後期後葉から終末期にかけての円墳と推測される。調査区からは古墳時代前・中期の土師器が出土しているが、多くは擾乱などに伴う混入と考えられ、一部は周廻同士が切り合い関係にある林20号墳から流入している可能性も考えられる。

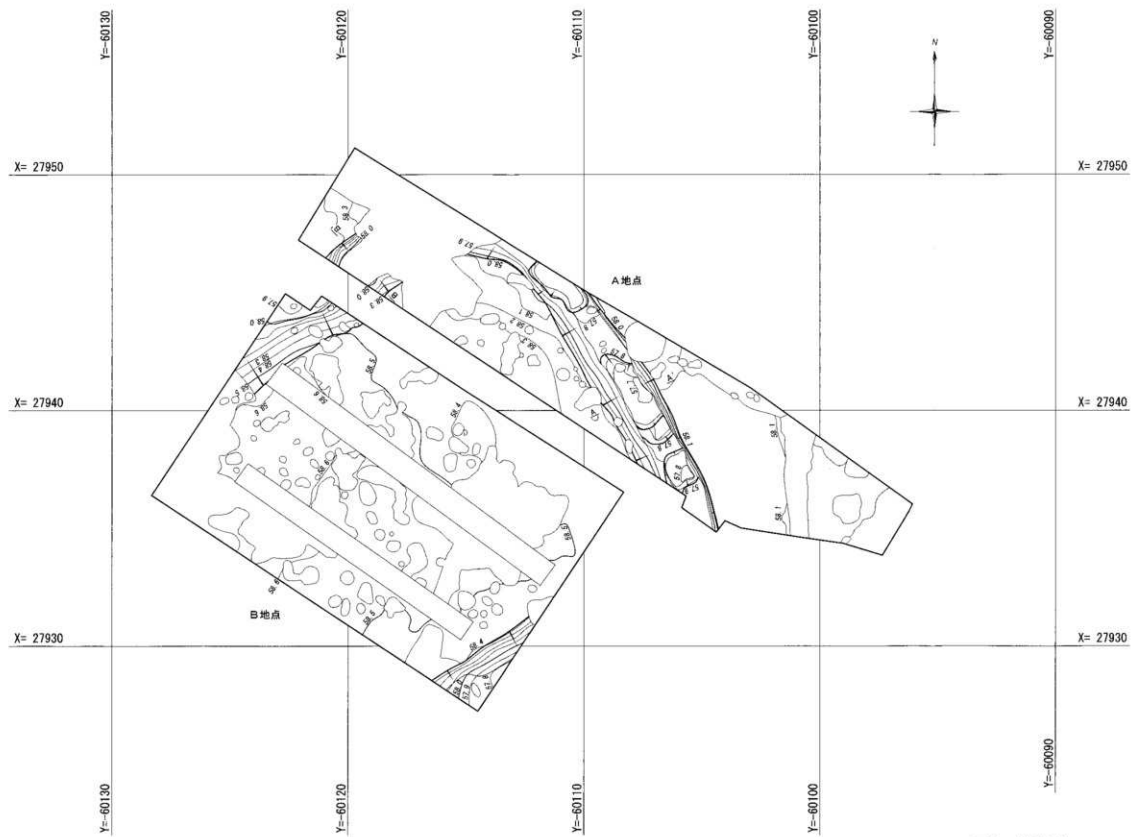


图50 林22号坝



14 林22号墳

[A地点]

調査期間 平成10年7月13日～平成10年8月7日

調査面積 480㎡

調査原因 区画整理に伴う市道建設

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 増田一裕

備考 同一調査区内で林27号墳の周堀を検出 [林27号墳C地点]

[B地点]

調査期間 平成11年6月21日～平成11年7月21日

調査面積 210㎡

調査原因 区画整理に伴う宅地造成

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 増田一裕

(1) 遺構

本庄市小島地内にあって、中心をX=27,936、Y=-60,116付近におく。周囲には北東側に林21号墳、西側に林28号墳が隣接する。平面設計は北東-南西方向に主軸をとる方墳と推定され、墳丘規模は一辺17m前後を測ると考えられる。墳丘盛土は旧表土とともに失われ、表土が直接ローム層を被覆する状態である。埋葬施設の痕跡も認められない。周堀は墳丘に沿って相似形にめぐり、堀幅は2.2～2.8m、確認面から深さ40～50cmを測る。周堀底面には不整形をなす土坑状の落ち込みが目立つ。周堀覆土は全体にロームブロックを含む褐色系の土層が堆積している。火山噴出物の層状堆積は確認できない。

(2) 遺物

遺物は表土から少量の土師器片を検出しているが、いずれも周辺の古墳からの流れ込みと判断される。周堀覆土からの埴輪・土器の出土は皆無である。

(3) 小結

旭・小島古墳群における方墳の築造時期は、いずれも古墳時代前期末葉から中期初頭までの時期に限定され、古墳時代中期前半段階まで降下する例は存在しないことから、林22号墳の築造時期も古墳時代中期初頭以前に遡ると考えられる。



図51 林22号墳断面図

15 林23号墳

[A地点]

調査期間 平成3年3月5日～平成3年3月30日

調査面積 260㎡

調査原因 区画整理に伴う宅地造成

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

備考 同一調査区内で林24号墳の周堀を検出 [林24号墳A地点]

[B地点]

調査期間 平成8年7月3日～平成8年7月24日

調査面積 330㎡

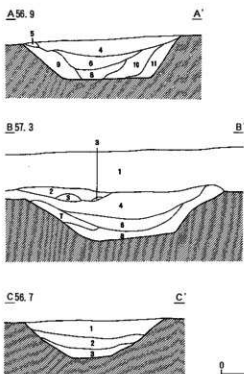
調査原因 区画整理に伴う宅地造成

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

備考 同一調査区内で林24号墳の周堀を検出 [林24号墳B地点]

(1) 遺構

本庄市小島地内において、中心をX=27,996、Y=-60,048付近におく。周囲には南西側に林24号墳が隣接する。墳形は円墳で、墳丘規模は推定径14m前後を測る。調査範囲は墳丘南西側の一部に限られるが、確認の限りでは墳丘盛土は存在せず、表土が直接ローム層を被覆している。墳丘中心部分に当たる調査区東側の畑地（調査当時）も平坦で、墳丘や埋葬施設の痕跡は認められない。周堀は墳



林23号墳B地点土層説明【A-A'・B-B'】

- 1 表土
- 2 黒褐色土 Hr-FAを含む。
- 3 明黄白色土 Hr-FAのほぼ純層。
- 4 黒褐色土 ロームブロック、Hr-FAブロックを多量に含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 6 黒灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 7 暗灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 8 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 9 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 10 灰黄色土 ロームブロックを多量に含む。
- 11 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。

林23号墳A地点土層説明【C-C'】

- 1 黒灰褐色土 ロームブロックを少量に含み、Hr-FAブロックを少量含む。
- 2 暗灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 3 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。

0 1 m
1:40

図52 林23号墳土層断面図

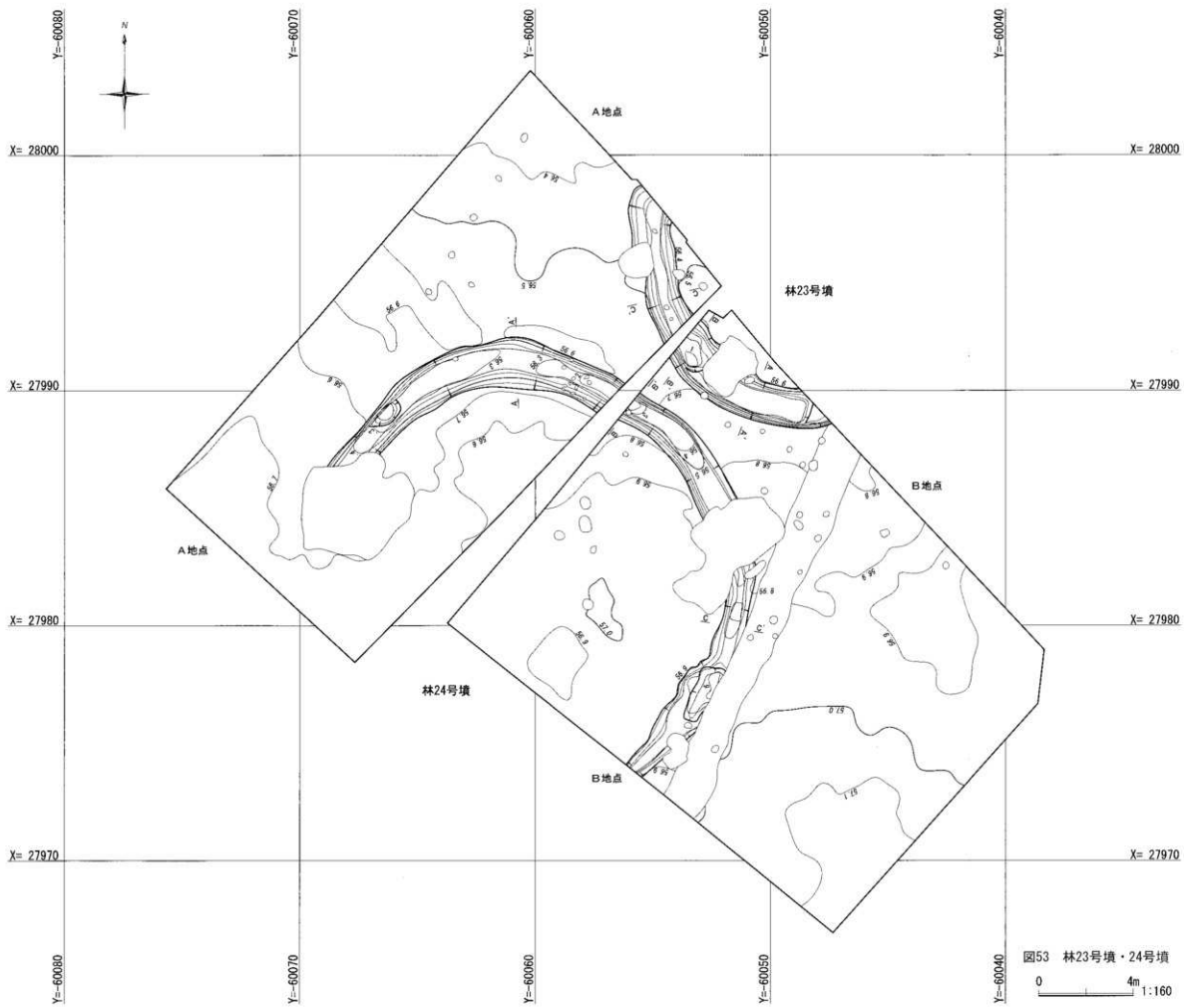


图53 林23号填·24号填

0 4m 1:160

丘に沿って相似形にめぐり、掘幅は1.6～1.8m、確認面から深さ70～80cmを測る。周堀底面には南側と南西側の2箇所に段差が存在する。周堀覆土は全体にロームブロックを含む褐色系の土層が堆積している。土層断面のA-A'・B-B'の第4層およびC-C'の第1層にはHr-FAブロックの混入を認め、B-B'にはHr-FAのみの層状堆積（第3層）が観察される。

(2) 遺物

遺物は表土から少量の土師器片を検出しているが、いずれも周辺古墳からの流れ込みと判断される。周堀覆土からの埴輪・土器の出土は皆無である。

(3) 小結

林23号墳からは遺物を検出していないが、周堀覆土中にHr-FAの堆積を認めることから古墳時代中期末葉の築造と考えられる。

16 林24号墳

[A地点]

調査期間 平成4年3月5日～平成4年3月30日

調査面積 260㎡

調査原因 区画整理に伴う宅地造成

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

備考 同一調査区内で林23号墳の周堀を検出 [林23号墳A地点]

[B地点]

調査期間 平成8年7月3日～平成8年7月24日

調査面積 330㎡

調査原因 区画整理に伴う宅地造成

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

備考 同一調査区内で林23号墳の周堀を検出 [林23号墳B地点]

(1) 遺構

本庄市小島地内において、中心をX=27,982、Y=-60,060付近におく。周囲には北東側に林23号墳が隣接する。平面設計は南北方向にやや長い円墳と推定され、南西側では周堀が途切れ、この部分に陸橋をもつ。墳丘規模は推定径12～13mを測ると考えられる。墳丘盛土は旧表土とともに失われ、表土が直接ローム層を被覆する状態である。埋葬施設の痕跡も認められない。周堀は墳丘に沿って相似形にめぐり、幅は1.9～2.4m、確認面から深さ25～45cmを測る。周堀覆土は全体にロームブロックを含む褐色系の土層が堆積している。土層断面のA-A'の第1層にはHr-FAブロックの混入を認める。

(2) 遺物

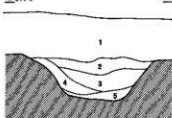
遺物は表土から少量の土師器片を検出しているが、いずれも周辺古墳からの流れ込みと判断される。周堀覆土からの埴輪・土器の出土は皆無である。

A57.3



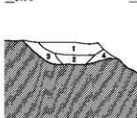
A'

B57.3



B'

C57.3



C'

0 1 m 1:40

林24号墳A地点土層説明【A-A'】

- 1 黒灰褐色土 ロームブロックを多量に含み、Hr-FAブロックを少量含む。
- 2 暗灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 4 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 5 黒色土 ロームブロックを多量に含む。

- 4 暗灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 5 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含み、黒色土ブロックを少量含む。

林24号墳B地点土層説明【B-B'】

- 1 表土
- 2 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。

林24号墳B地点土層説明【C-C'】

- 1 黒褐色土 ロームブロックを多量に含み、Hr-FAブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを多量に含み、黒色土ブロックを少量含む。
- 4 褐色土 ロームブロックを多量に含む。

図54 林24号墳土層断面図

(3) 小 結

林24号墳からは遺物を検出していないが、周堀覆土中に Hr-FA の堆積を認めることから古墳時代中期末葉の築造と考えられる。隣接する林23号墳とともに、旭・小島古墳群において、古式群集墳の一角を形成する古墳である。

17 林25号墳

【A地点】

調査期間 平成3年3月17日～平成3年4月16日

調査面積 200㎡

調査原因 区画整理に伴う宅地造成

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

備考 同一調査区内で林21号墳の周堀を検出 [林21号墳A地点]

【B地点】

調査期間 平成5年8月3日～平成5年8月24日

調査面積 200㎡

調査原因 区画整理に伴う宅地造成

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

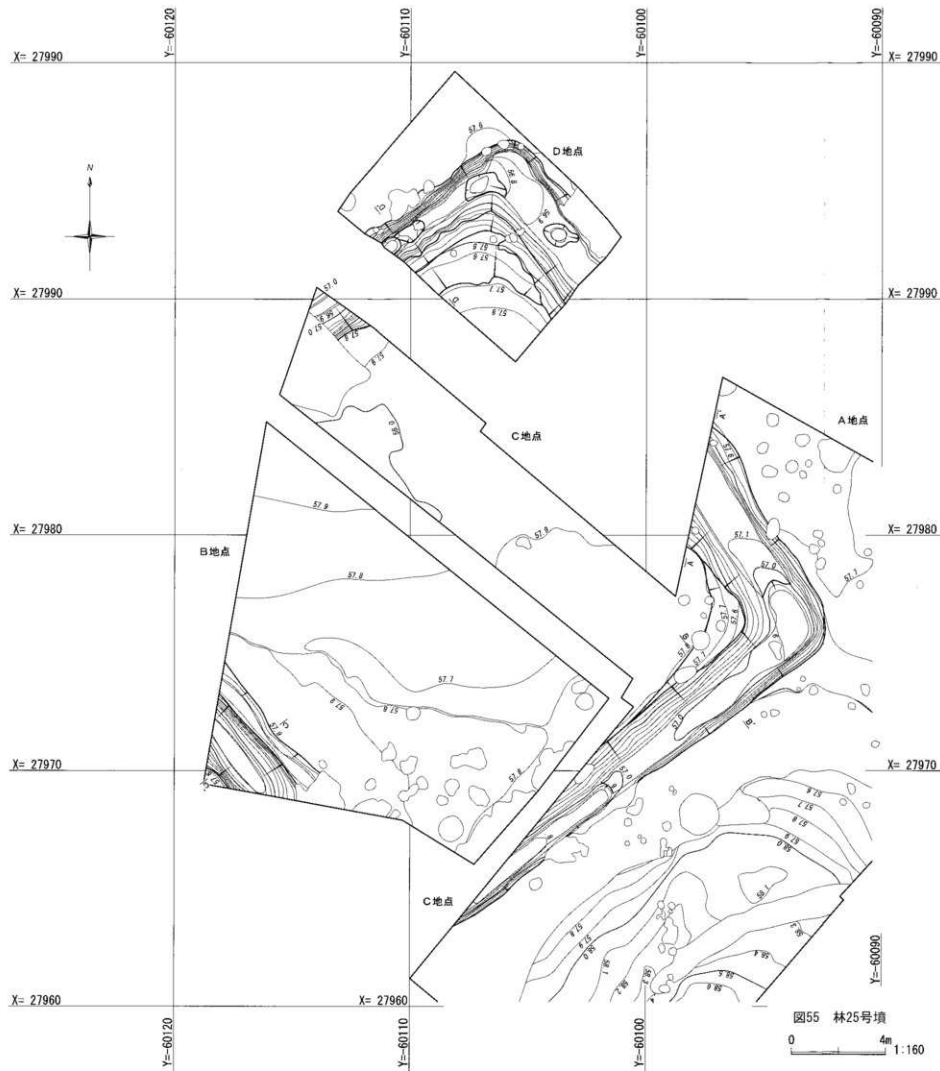
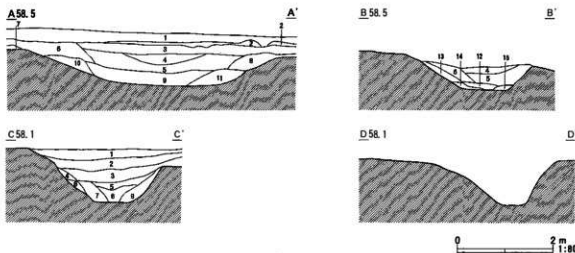


图55 林25号填

0 4m 1:160



林25号墳A地点土層説明 [A-A'・B-B']

- 1 暗灰褐色土 As-Aを多量に含む。
- 2 暗褐色土 黒褐色土ブロックを多量に含む。
- 3 黒灰褐色土 黒褐色土ブロックを少量含み、As-Aを多量に含む。
- 4 黒褐色土 黒褐色土ブロックを量含む。
- 5 黒灰褐色土 黒褐色土ブロックを量含む。
- 6 暗灰褐色土 黒褐色土ブロックを多量に含む。
- 7 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 8 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 9 黒灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 10 暗灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 11 黄灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 12 褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 13 黒色土 ロームブロックを多量に含む。

- 14 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 15 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。

林25号墳B地点土層説明 [C-C']

- 1 黒褐色土 黒褐色土ブロックを多量に含む。
- 2 灰褐色土 黒褐色土ブロックを多量に含む。
- 3 黒灰褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 5 黒灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 6 暗灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 7 黄灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 8 褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 9 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含み、黒色土ブロックを少量含む。

図56 林25号墳土層断面図

[C地点]

調査期間 平成7年7月24日～平成7年8月23日

調査面積 460m²

調査原因 区画整理に伴う宅地造成

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

備考 同一調査区内で林20・21号墳の周堀を検出 [林20号墳D地点・林21号墳B地点]

[D地点]

調査期間 平成10年7月2日～平成10年7月16日

調査面積 80m²

調査原因 区画整理に伴う宅地造成

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 増田一裕

(1) 遺構

本庄市小島地内において、中心をX=27,980、Y=-60,110付近におく。南東側の周堀が林21号墳の周堀によって切られている。北東側には林27号墳が隣接する。墳形は方墳で、平面設計はほぼ正方

18 林26号墳

[A地点]

調査期間 平成4年9月9日～平成4年9月16日

調査面積 240㎡

調査原因 区画整理に伴う宅地造成

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

備考 同一調査区内で林27号墳の周堀を検出 [林27号墳B地点]

(1) 遺 構

本庄市小島地内にあって、中心をX=28,100、Y=-60,150付近におく。周囲には南東側に林27号墳、北東側に御嶽塚古墳が隣接する。南東側の周堀の一部をわずかに検出したのみで、墳形・平面設計・墳丘規模などの詳細は不明である。東側で周堀が途切れ、この部分に陸橋をもつようである。堀幅9m前後、確認面から深さ50cmを前後を測る。周堀底面はほぼ平坦で、わずかな起伏がみられる。周堀覆土は全体にロームブロックを含む褐色系の土層が堆積している。火山噴出物の層状堆積は確認できない。



図58 林26号墳断面図

(2) 遺 物

遺物はまったく出土していない。

(3) 小 結

検出の範囲は一部に限られるが、不整形の周堀が断続的にめぐる平面設計が推測される。

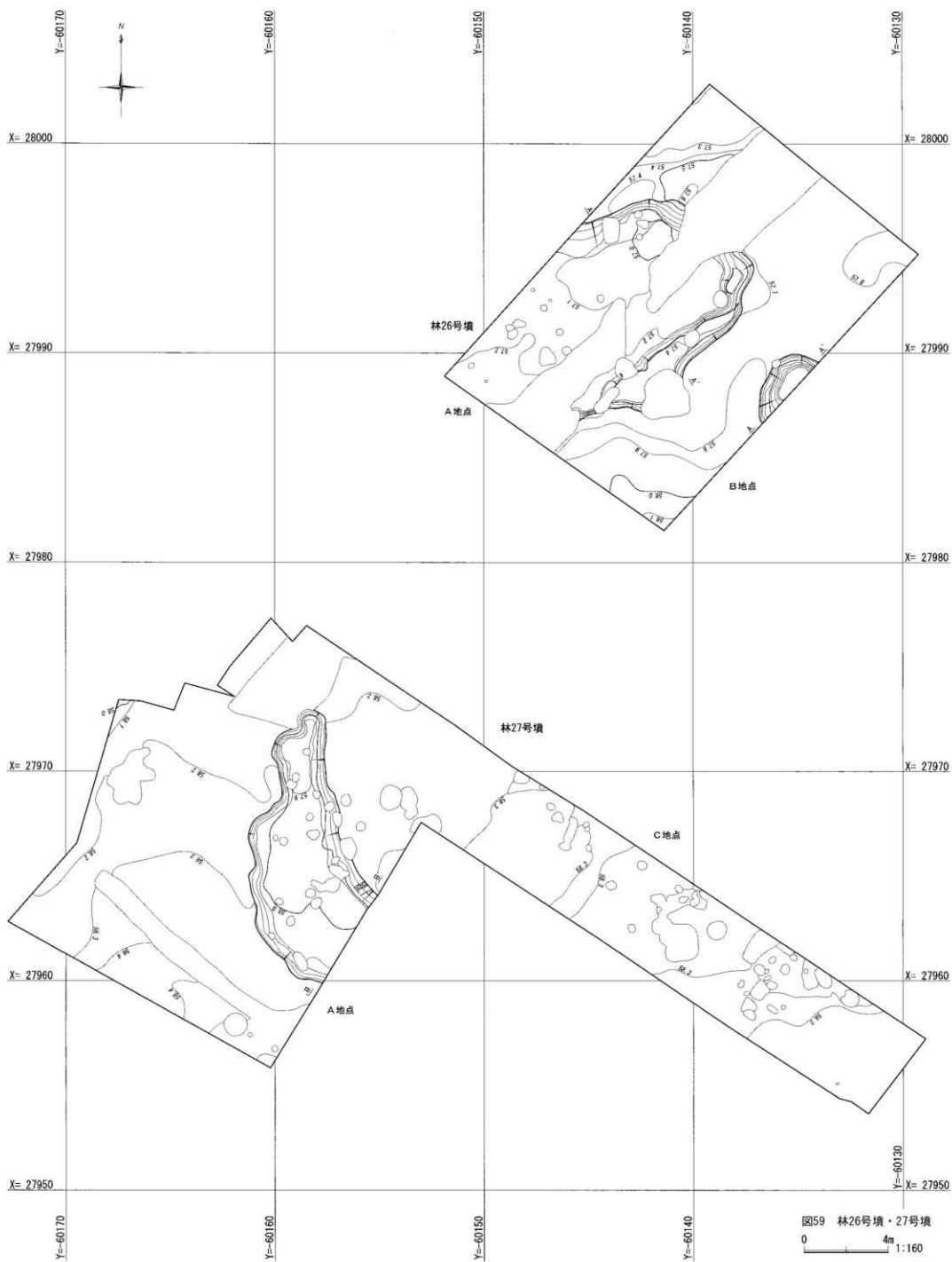


图59 林26号墳・27号墳
0 4m 1:160

19 林27号墳

[A地点]

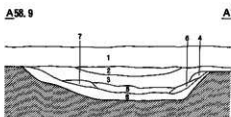
調査期間 平成4年6月29日～平成4年7月4日
 調査面積 170㎡
 調査原因 区画整理に伴う宅地造成
 調査担当 本市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

[B地点]

調査期間 平成4年9月9日～平成4年9月16日
 調査面積 240㎡
 調査原因 区画整理に伴う宅地造成
 調査担当 本市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司
 備考 同一調査区内で林26号墳の周堀を検出 [林26号墳A地点]

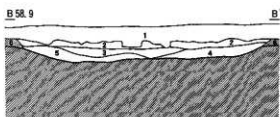
[C地点]

調査期間 平成10年7月13日～平成10年8月7日
 調査面積 480㎡
 調査原因 区画整理に伴う市道建設
 調査担当 本市教育委員会社会教育課文化財保護係 増田一裕
 備考 同一調査区内で林22号墳の周堀を検出 [林22号墳A地点]



林27号墳B地点土層説明 [A-A']

- 1 灰褐色土 As-Aを多量に含む。
- 2 黒灰褐色土 黒褐色土ブロックを多量に含む。
- 3 暗灰褐色土 黒褐色土ブロックを多量に含む。
- 4 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 6 黒灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 7 黒灰褐色土 暗褐色ブロックを斑状に含む。3層より暗い、4層より明るい。
- 8 暗黄褐色土 ロームブロック、黒褐色土ブロックを多量に含む。



林27号墳A地点土層説明 [B-B']

- 1 灰褐色土 As-Aを多量に含む。
- 2 黒灰褐色土 黒褐色土ブロックを少量含む。
- 3 暗灰褐色土 ロームブロックを少量含む、黒褐色土ブロックを多量に含む。
- 4 暗灰褐色土 ロームブロック、黒褐色土ブロックを多量に含む。
- 5 暗黄褐色土 ロームブロック、黒褐色土ブロックを多量に含む。
- 6 黒色土 旧表土。

図60 林27号墳土層断面図

(1) 遺 構

本庄市小島地内にあって、中心をX=27,970、Y=-60,140付近におく。周囲には北西側に林26号墳、北東側に林25号墳、東側に林21号墳、南側に林28号墳が近接し、これらの古墳に取り囲まれるような位置に占地している。周堀の一部をわずかに検出したのみで、墳形・平面设计・墳丘規模などの詳細は不明である。B地点では林27号墳の周堀が、明らかに林26号墳の周堀を避けているような配置を示している。西側にも周堀が途切れる箇所があり、部分に陸橋をもつようである。堀幅5.6m前後、確認面から深さ40～70cmを測る。周堀底面はほぼ平坦で、わずかな起伏がみられる。周堀覆土は全体にロームブロックを含む褐色系の土層が堆積している。火山噴出物の層状堆積は確認できない。

(2) 遺 物

遺物は埴輪・土師器を検出している。いずれも少量の破片が表土や周堀覆土上層から出土しているのみで、他からの流入の可能性が高い。

(3) 小 結

林27号墳は周囲を林25・26・28号墳に囲まれた位置に占地し、周堀はこれらの古墳を避けるように外形を歪めている。築造時期の詳細は不明であるが、古墳時代後期以降に下る可能性が高い。

20 林28号墳

[A地点]

調査期間 平成3年6月24日～平成3年8月1日
調査面積 700㎡
調査原因 区画整理に伴う宅地造成
調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

[B地点]

調査期間 平成5年11月2日～平成5年11月26日
調査面積 200㎡
調査原因 区画整理に伴う市道建設
調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

[C地点]

調査期間 平成7年10月2日～平成7年11月8日
調査面積 360㎡
調査原因 区画整理に伴う宅地造成
調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

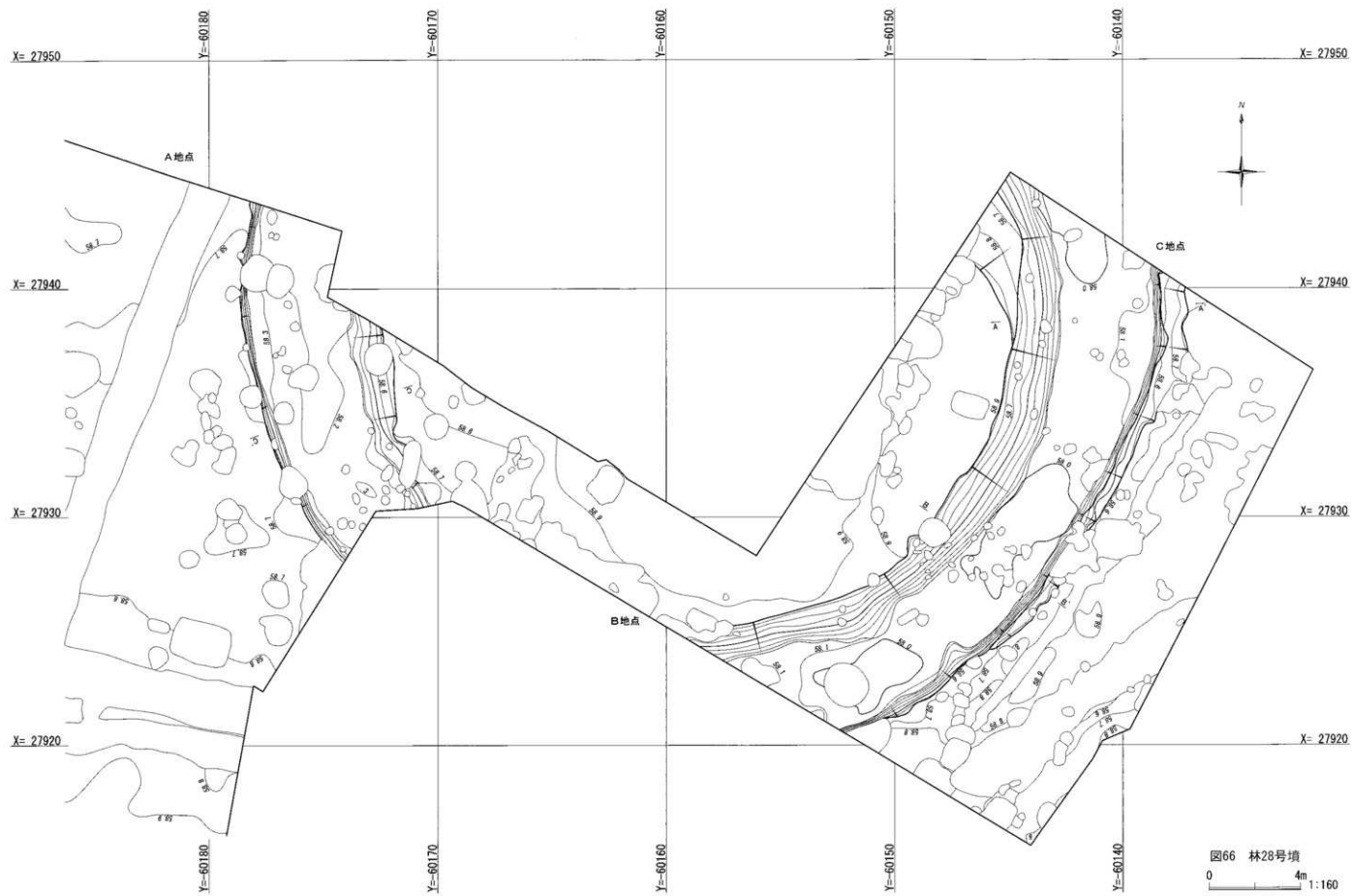


图66 林28号坝

0 4m 1:160

A59.3

A'



B59.3

B'



C59.3

C'



0 2 m 1:80

林28号墳C地点土層説明 [A-A'・B-B']

- 1 暗褐色土 As-B含を多量に含む。
- 2 暗褐色土 As-B含を多量に含む。
- 3 黒灰褐色土 黒褐色土ブロックを多量に含む。
- 4 黒灰褐色土 ロームブロック、黒褐色土ブロックを少量含む。
- 5 暗灰褐色土 ロームブロック、黒褐色土ブロックを少量含む。
- 6 暗灰褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 7 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 8 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む、黒色土ブロックを少量含む。
- 9 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 10 褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 11 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。

- 12 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む、黒色土ブロックを少量含む。

林28号墳B地点土層説明 [C-C']

- 1 黒灰褐色土 黒褐色土ブロックを少量含む、As-Bを多量に含む。
- 2 暗灰褐色土 黒褐色土ブロックを少量含む、As-Bを多量に含む。
- 3 黒灰褐色土 ロームブロック、細砂粒を少量含む。
- 4 黒灰褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 5 暗灰褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 6 暗灰褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 7 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。

図62 林28号墳土層断面図

(1) 遺構

本庄市小高地内において、中心をX=27,940、Y=-60,160付近におく。周囲には北側に林27号墳、北東側に林22号墳が隣接する。墳形は円墳で、平面設計は整円形をなし、墳丘規模は、直径32m前後を測る。墳丘盛土は旧表土とともに失われ、表土が直接ローム層を被覆する状態である。埋葬施設の痕跡も認められない。周堀は墳丘に沿って相似形にめぐり、堀幅は5.6~6.4m、確認面から深さ60~90cmを測る。周堀底面はほぼ平坦でわずかな起伏がみられる。周堀底面からの立ち上がりは、外側が急傾斜であるのに対し、墳丘側は緩やかである。周堀覆土は全体にロームブロックを含む褐色系の土層が堆積している。上層にAs-Bの混入する箇所が認められるが、火山噴出物の層状堆積は確認できない。

(2) 遺物

遺物は埴輪・土師器を検出している。いずれも少量の破片が表土や周堀覆土上層から出土しているのみで他からの流入の可能性が高い。



図63 林28号墳出土円筒・朝顔形埴輪実測図

a. 埴輪

円筒埴輪 (図63、写真14)

1の円筒埴輪は、中間段の破片で、断面台形の突帯がめぐり、半円形透孔を穿っている。調整は外面が一次タテハケ、内面が斜位のハケおよびナデで、胎土に角閃石・チャートを含み、色調は明赤褐色を呈する。

朝顔形埴輪 (図63、写真14)

2の朝顔形埴輪は、口縁部中位の破片で、断面三角形の突帯がめぐる。調整は外面が一次タテハケ、内面が斜位のハケおよびナデで、胎土に角閃石・チャートを含み、色調はにぶい赤褐色を呈する。

形象埴輪 (図63、写真14)

人物 [1・2]

ともに大型人物埴輪の本体から脱落した上衣裾部の破片である。調整は内外面ともハケののちナデを施している。胎土に角閃石を含み、色調は1がにぶい橙色、2が赤褐色を呈する。

b. 土器

土師器 (図63、写真14)

坏 [1]

1は底部に丸みをもち、体部は屈曲して立ち上がり、わずかに内湾しながら口縁部にいたる。調整は底部外面から体部にかけてヘラケズリ、口縁部内外面から体部内面には横位のナデを施している。胎土に石英を含み、色調は橙色を呈する。

2は内屈口縁坏である。調整は底部外面から体部にかけてヘラケズリ、口縁部内外面から体部内面には横位のナデを施している。胎土に微砂粒を多く含み、色調は橙色を呈する。

鉢 [2]

体部は強く湾曲して立ち上がり口縁部は内湾する。調整は体部下半がヘラケズリ、体部上半がナデで、内外面から体部内面にかけては横位のナデを施している。

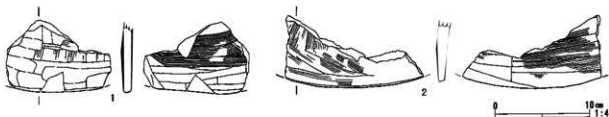


図64 林28号墳出土土形象埴輪実測図

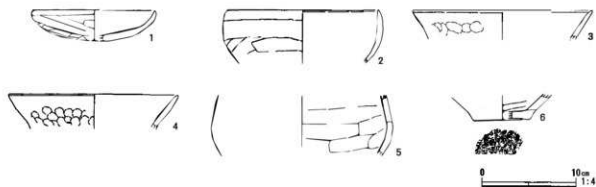


図65 林28号墳出土土器実測図

林28号墳出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 罎	口径 (13.0) 底径 — 器高 (3.3)	体部は丸みを持ち、口縁部は内湾気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面—口縁部ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	石英・チャート 内外—ぶい黄褐色	1/3。
2	土師器 鉢	口径 (16.0) 底径 — 器高 —	体部は丸みを持ち、口縁部は内湾する。	外面—口縁部ヨコナデ、体部上位ナデ、中位以下ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。	石英・角閃石・白色粒 内外—黄褐色	口縁～体部片。
3	土師器 甕	口径 (19.0) 底径 — 器高 —	外反気味に開く口縁部。	外面—口縁部ナデ・指頭旺盛。内面—口縁部ナデ。	石英・角閃石・チャート 内外—明赤褐色	口縁部片。
4	土師器 甕	口径 (18.0) 底径 — 器高 —	口縁部は外反気味開き始め、上位はやや内湾する。	外面—口縁部ナデ・指頭旺盛。内面—口縁部ナデ。	石英・角閃石・チャート 内外—明赤褐色	口縁部片。
5	土師器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	膨らみを持つ胴部。	外面—胴部ナデ。内面—胴部ヘラナデ。	石英・角閃石・チャート 内外—ぶい赤褐色	胴部片。
6	土師器 甕	口径 — 底径 (6.0) 器高 —	上げ底気味の底部。	外面—胴部下位ナデ、底部ヘラケズリ。内面—胴部下位～底部ナデ。	石英・角閃石・チャート 内外—ぶい赤褐色	胴部下位～底部片。

甕 [3～6]

3・4はともに口縁部の破片で、直線的に外反し、4は上位でわずかに内湾する。胎土に石英・角閃石・チャートを含み、色調は明赤褐色を呈する。

5は下張れの胴部の破片で、調整は外面がナデ、内面がヘラナデで、胎土に石英・角閃石・チャートを含み、色調はぶい赤褐色を呈する。

6は底部から胴部下位の破片で、調整は底部外面がヘラケズリ、胴部は内外面ともナデを施している。胎土に石英・角閃石・チャートを含み、色調はぶい赤褐色を呈する。

(3) 小 結

旭・小島古墳群では横穴式石室をもつ古墳の周堀は整円形を呈さない。平面設計が整円形をなす林28号墳の埋葬施設は竈穴系であったと推測される。詳細な時期の特定が難しいが、古墳時代中期後半から後期前半にかけての築造と推測される。

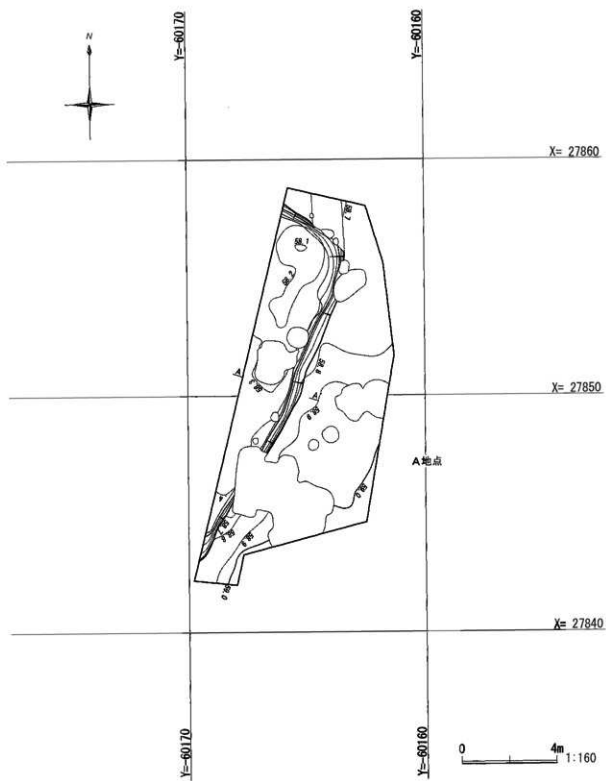


图66 林29号墳

21 林29号墳

[A地点]

調査期間 平成4年11月16日～平成4年12月3日

調査面積 150㎡

調査原因 区画整理に伴う宅地造成

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

(1) 遺構

本庄市小島地内において、中心をX=27,845、Y=-60,185付近におくと思われる。昭和49年度に埼玉県遺跡調査会が調査を実施した下野堂16号墓と同一の遺構で、当該遺構の北東側の隅にあたる。墳形は方墳で、北東-南西方向に主軸をとる。平面設計・墳丘規模などの詳細は不明である。周堀覆土は全体にロームブロックを含む褐色系の土層が堆積している。火山噴出物の層状堆積は確認できない。

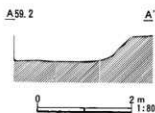


図67 林29号墳断面図

(2) 遺物

遺物はまったく出土していない。

(3) 小結

旭・小島古墳群における方墳の築造時期は、いずれも古墳時代前期末葉から中期初頭までの時期に限定され、古墳時代中期前半段階まで降下する例は存在しないことから、林29号墳の築造時期も古墳時代中期初頭以前に遡ると考えられる。

22 林30号墳

[A地点]

調査期間 平成4年9月29日～平成4年10月9日

調査面積 164㎡

調査原因 区画整理に伴う宅地造成

調査担当 本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係 佐藤好司

(1) 遺構

南東から北西方向へ直線的に走行する周堀の一部を検出したのみで、墳形・平面設計・墳丘規模などの詳細は不明である。堀幅は10.8m、確認面から深さ50cm前後を測る。他の方墳に比べ、堀幅が広いのに対し、確認面からの深さが浅い。周堀覆土は全体にロームブロックを含む褐色系の土層が堆積している。覆土上層にAs-Bの混入が認められるが、Hr-FAの堆積は確認できない。

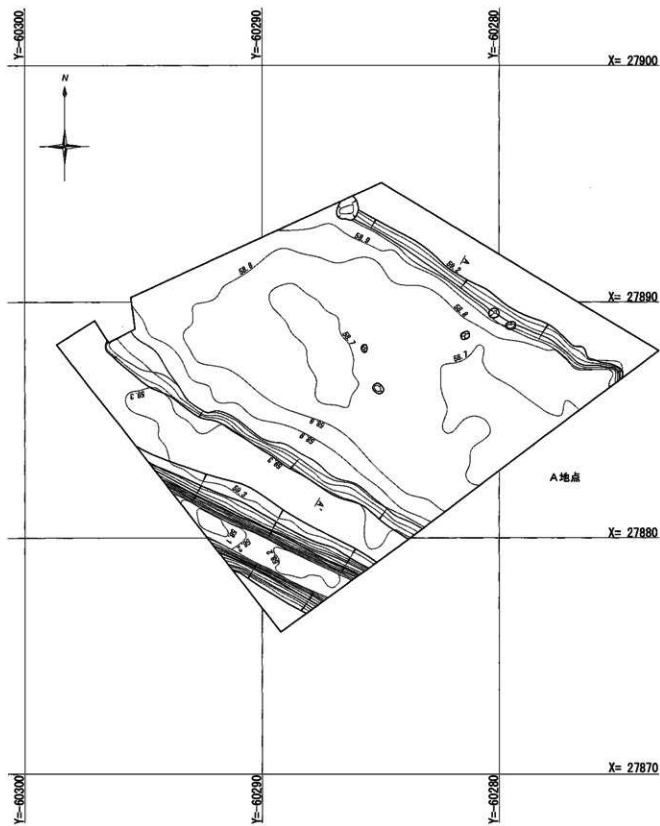
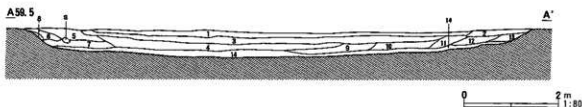


图68 林30号墳



林30号墳A地点土層説明 [A-A']

- | | | | |
|---------|----------------------------|---------|------------------------|
| 1 暗灰褐色土 | As-Bを多量に含む。 | 8 暗褐色土 | ロームブロックを少量含む。 |
| 2 暗褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 | 9 暗灰褐色土 | 暗褐色土ブロックを多量に含む。 |
| 3 黒灰褐色土 | As-Bを多量に含む。 | 10 褐色土 | ロームブロックを少量含む。 |
| 4 黒灰褐色土 | ロームブロック、暗褐色土ブロックを少量含む。粘質強。 | 11 灰褐色土 | ロームブロックを少量含む。 |
| 5 暗灰褐色土 | ロームブロック、暗褐色土ブロックを少量含む。 | 12 暗褐色土 | 暗褐色土ブロックを多量に含む。 |
| 6 暗灰褐色土 | ロームブロックを少量含む。 | 13 暗褐色土 | ロームブロック、暗褐色土ブロックを少量含む。 |
| 7 暗灰褐色土 | 暗褐色土ブロックを少量含む。 | 14 暗褐色土 | ロームブロックを多量に含む。粘質強。 |

図69 林30号墳土層断面図

(2) 遺物

遺物はまったく出土していない。

(3) 小結

林30号墳は、他の方墳に比べ、堀幅が広いのに対し、確認面からの深さが浅いという特徴がある。出土遺物も皆無で、周堀覆土中の Hr-FA の堆積も確認できないことから、築造年代推定の根拠を欠いている。

なお、調査区内の南端に検出した溝は、昭和49年度の埼玉県遺跡調査会による「下野堂古墳群」の調査時に検出された「方墳」と同一の遺構である。

IV 結 語

林地区は旭・小島古墳群のなかでも方墳が集中する地域である。方墳は上原地区や堂場地区など埋没谷以東の東群には存在せず、西群のなかでも台地北縁の平坦面に位置する林地区とその南側の杉ノ根地区に限定される。ほとんどが北東-南西方向に主軸とり、平面設計は長方形を呈する古墳が多い。規模は長径30m台の林7・20号墳から、10mの林13号墳まで四段階程度の格差が存在するようである。林13号墳では木棺直葬と推測される埋葬施設が確認されている。これらの方墳の築造時期は遺物を伴わない事例も多いため確言はできないが、万年寺つつじ山の石製模造品、下野堂10号墓の碧玉製石銅、林13号墳の土師器埴などわずかに知られる遺物から推測すると、いずれも古墳時代中期初頭までのうちにおさまり、中期前半までは続かないらしい。

方墳に後続する古墳時代中期前半の段階には、林8号墳など直径30m台の円墳が築造されている。市内の長沖157号墳や美里町志渡川古墳などでは、この時期すでに埴輪の導入が認められるが、旭・小島古墳群では埴輪の採用が遅れるようで、林8号墳も埴輪をもたず、和泉式期の土師器が伴っている。林9・28号墳なども同じ時期の円墳となる可能性がある。

林23・24号墳では周堀覆土中に Hr-FA の堆積を認めた。本庄市内ではこれまでも、周堀覆土中に Hr-FA の堆積する古墳が、旭・小島古墳群を含め、各所で検出されている。これらの古墳は、公卿塚古墳など一部の大型古墳を除き、多くが古墳時代中期後半～末葉に該当し、古式群集墳を主体的に構成するような墳丘規模20m以下の小型円墳や帆立貝式古墳がほとんどである。林23・24号墳も北浦1・2号墳や三笠山1～6号墳などとともに、旭・小島古墳群における古式群集墳形成期の古墳として評価されよう。旭・小島古墳群において埴輪が導入されるのは古墳時代中期後半の段階で、上原5号墳・三笠山2号墳などでは、外面二次調整にB種ヨコハケを採用し、窯焼成による円筒埴輪が出土している。古墳時代中期末葉の段階では、円筒埴輪の外面二次調整が消滅し、家・人物などの形象埴輪が加わるようになる。

林21号墳などのように不整形の周堀が断続的にめぐる類の古墳は、埋葬施設に横穴式石室を伴う可能性が高く、築造時期は古墳時代後期後半段階以降まで下る可能性が高い。

林30号墳調査区の南端に検出した溝は、昭和49年度埼玉県遺跡調査会による「下野堂古墳群」の調査の際に検出された「方墳」と同一の遺構である。報告者によれば、この「方墳」は一辺60を測り、幅1～2mの「周溝」が台形状にめぐるとともに、南側中央部に陸橋をもち、調査前には上面が平坦な高さ2mほどの墳丘状の高まりが存在したことから、墳丘状部分の30×30mの範囲にグリッドを設定し、調査を行ったものの、主体部とおぼしき遺構は検出されなかったという（並木1976）。

今回の調査区において検出した「方墳」の「周溝」は、確認面での幅1.6mを測り、昭和49年度調査のデータと一致する。一方、確認面からの深さは、110cm前後と、堀幅に比べてかなり深い。また、断面形をみると、堀底の幅が狭く立ち上がりがきわめて急傾斜で、中位に傾斜変換点を設けて、いったん角度を緩めてから上端へと立ち上がっており、通常の古墳周堀の断面形とは異なる。遺物を検出できていないため所屬時期は明確ではないが、この「方墳」には古墳とは異なる性格を考えるべきであろう。

御塚古墳 円筒埴輪観察表

番号	法 量 (cm)							突 等		通 孔		口縁部 調 整	外 面 調 整		内 面 調 整		底 部		焼成	色 調	残存率	備 考	
	口径	口径	口径	口径	口径	口径	口径	幅	高さ	形	径		調整	調整	調整	調整	調整	調整					調整
1	(27.2)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	6本	—	ナナメハケ・ナゲ	—	—	—	良好	褐色	10%	片岩・チャートを含む。	
2	—	13.2	—	14.2	11	—	—	2.4	0.4	円	(7.2×7.6)	—	1次タテハケ	6本	—	ナナメナゲ・ヨコナゲ・指原圧痕	—	右	棒状	良好	褐色	35%	粗粒の片岩・チャートを含む。
3	—	12.6	—	15.1	9.4	—	—	2	0.5	円	6.7×(6.1)	—	1次タテハケ	7本	—	タテハケ・ナナメハケ後ナゲ	—	右	棒状	良好	褐色	50%	粗粒の片岩・チャートを含む。
4	—	—	—	—	—	—	—	2.1	0.5	円	—×(7.3)	—	1次タテハケ	7本	—	タテハケ・ナナメハケ後ナゲ	—	—	—	良好	褐色	10%	片岩・チャートを含む。
5	—	11.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	6本	—	ナナメナゲ・ヨコナゲ	—	右	棒状	良好	灰黄褐色	40%	片岩・チャートを含む。
6	—	(13.1)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	7本	—	ナナメハケ・ナゲ	—	—	棒状	良好	によい黄褐色	5%	片岩・チャートを含む。
7	—	13.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	6本	—	ヨコナゲ・ナナメナゲ	—	右	棒状	良好	明赤褐色	10%	粗粒の片岩・チャートを含む。
8	—	(16.2)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	9本	—	ヨコナゲ・ナナメナゲ	—	—	棒状	良好	によい赤褐色	5%	片岩・チャートを含む。
9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテ・ナナメハケ	8本	—	ナナメハケ	—	—	—	良好	明褐色	破片	片岩・チャートを含む。	
10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテ・ナナメハケ	6本	—	ナナメハケ	—	—	—	良好	褐色	破片	片岩・チャートを含む。	
11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	6本	—	ナナメハケ後ナゲ	—	—	—	良好	褐色	破片	粗粒の片岩・チャートを含む。	
12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	5本	—	ナナメハケ	—	—	—	良好	褐色	破片	片岩・チャートを含む。	
13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテ・ナナメハケ	11本	—	タテハケ・ナナメハケ	—	—	—	良好	褐色	破片	片岩・チャートを含む。	
14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	8本	—	ナナメハケ後ナゲ	—	—	—	良好	褐色	破片	片岩・チャートを含む。	
15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテ・ナナメハケ	6本	—	ナナメハケ後ナゲ	—	—	—	良好	によい褐色	破片	片岩・チャートを含む。	
16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	6本	—	ナナメハケ	—	—	—	良好	灰黄褐色	破片	粗粒の片岩・チャートを含む。	
17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	6本	—	ヨコハケ・ナナメハケ	—	—	—	良好	赤褐色	破片	片岩・チャートを含む。	
18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	5本	—	タテハケ・ナナメハケ後ナゲ	—	—	—	良好	明赤褐色	15%	粗粒の片岩・チャートを含む。	
19	—	—	—	—	(9.3)	—	—	1.8	0.4	—	—	—	1次タテハケ	6本	—	タテハケ・ナナメハケ後ナゲ	—	—	—	良好	明赤褐色	10%	片岩・チャートを含む。
20	—	—	—	—	—	—	—	2	0.5	(円)	—	—	1次タテハケ	5本	—	ナナメハケ後ナゲ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	片岩・チャートを含む。
21	—	—	—	—	—	—	—	1.7	0.3	円	—	—	1次タテハケ	6本	—	ナナメハケ後ナゲ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	粗粒の片岩・チャートを含む。
22	—	—	—	—	—	—	—	1.7	0.3	円	—	—	1次タテハケ	5本	—	ナナメハケ	—	—	—	良好	によい赤褐色	破片	片岩・チャートを含む。

番号	法						突帯	透孔			口縁部調整	外面調整			内面調整			底面	構成	色調	残存率	備考	
	口徑	底徑	幅高	量 (cm)				幅高	形	徑		調整	ハク本数 ($\frac{1}{2}$ cm)	基部	調整	基部	巻き						圧痕
				第1段	第2段	第3段																	
23	—	—	—	—	—	—	2.2	0.6	円	—	—	1次タテハケ	6本	—	タテハケ後ナデ	—	—	—	良好	によい橙色	破片	片岩・チャートを含む。	
24	—	—	—	—	—	—	2.2	0.6	円	—	—	1次タテハケ	5本	—	ナメハケ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	片岩・チャートを含む。	
25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	6本	—	ナメナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	粗粒の片岩・チャートを含む。	
26	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	7本	—	ヨコナデ・ナメナデ	—	—	—	良好	によい赤褐色	破片	粗粒の片岩・チャートを含む。	
27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	5本	—	ナメナデ	—	—	—	良好	によい赤褐色	破片	粗粒の片岩・チャートを含む。	
28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	6本	—	ヨコナデ・ナメナデ	—	右	—	良好	によい赤褐色	破片	片岩・チャートを含む。	
29	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	6本	—	ヨコナデ・ナメナデ	—	—	—	良好	によい赤褐色	破片	片岩・チャートを含む。	
30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	6本	—	ヨコナデ・ナメナデ	—	—	—	良好	によい橙色	破片	片岩・チャートを含む。内面大半が剥離。	
31	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	10本	—	ナメナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	片岩・チャートを含む。	
32	—	(12.3)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	11本	—	タテハケ後タテナデ	ハナコ	—	—	良好	明赤褐色	10%	片岩・チャートを含む。	
33	—	—	—	①—②—③—④—⑤—⑥—	—	—	2.7	1.2	—	—	—	1次タテハケ	7本	—	ナメハケ	—	—	—	良好	によい褐色	破片	朝顔形円筒磨輪。粗粒の片岩・チャートを含む。	
34	—	—	—	①—②—③—④—⑤—⑥—	—	—	2.1	0.8	—	—	—	1次タテハケ	9本	—	ナメハケ後ナデ	—	—	—	良好	褐色	破片	朝顔形円筒磨輪。角閃石・白色粒を含む。	

林10号墳 円筒輪観表

番号	法						突帯	透孔			口縁部調整	外面調整			内面調整			底面	構成	色調	残存率	備考	
	口徑	底徑	幅高	量 (cm)				幅高	形	徑		調整	ハク本数 ($\frac{1}{2}$ cm)	基部	調整	基部	巻き						圧痕
				第1段	第2段	第3段																	
1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	10本	—	タテハケ・ナメハケ後ナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	片岩・チャートを含む。	
2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	10~12本	—	タテハケ後ナデ	—	—	—	良好	褐色	破片	片岩・チャートを含む。	
3	—	—	—	—	—	—	1.9	0.5	円	—	—	1次タテハケ	9本	—	タテナデ	—	—	—	良好	褐色	破片	片岩・チャートを含む。	
4	—	—	—	—	—	—	2.5	0.5	—	—	—	1次タテハケ	11本	—	ナメハケ後ナデ	—	—	—	良好	褐色	破片	角閃石安山岩粒を含む。	
5	—	—	—	—	—	—	1.9	0.4	円	—	—	1次タテハケ	12本	—	ナメハケ後ナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	角閃石安山岩粒を含む。	
6	—	—	—	—	—	—	1.8	0.6	—	—	—	1次タテハケ	8本	—	タテハケ後ナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	片岩・チャートを含む。	
7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	8本	—	タテナデ・ナメナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	角閃石安山岩粒を含む。	
8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	8~11本	板押正	ナメハケ・ナメナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	角閃石安山岩粒を含む。	
9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	7~12本	—	タテナデ	水磨紙	—	—	良好	によい赤褐色	破片	片岩・チャートを含む。	
10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	12本	—	ナメナデ	—	—	—	良好	褐色	破片	角閃石安山岩粒を含む。内外面にキズあり。	

林11号墳 円筒埴輪観察表

番号	法 量 (cm)						突起			透孔			口縁部 調整	外面調整			内面調整			底 部		焼成	色 調	残存率	備 考
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	幅	高さ	形態	径	調整	調整		ハク本数 ($\sqrt{2}$ cm)	基部	調整	基部	巻き	圧痕	調成	色 調				
1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	8本	—	ヨコハケ・ナデ	—	—	—	良好	よい赤褐色	破片	角閃石安山岩粒を含む。	
2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	(12本)	—	ナメハケ	—	—	—	良好	褐色	破片	角閃石安山岩粒を含む。内外面にキズあり。	
3	—	—	—	—	—	—	2.2	0.5	—	—	—	—	1次タテハケ	10本	—	ヨコハケ・ナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	褐色	破片	角閃石安山岩粒を含む。		
4	—	—	—	—	—	—	—	—	(円)	—	—	—	1次タテハケ	9本	—	タテナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	角閃石安山岩粒を含む。		
5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	13本	—	ナメハケ・ヨコハケ	—	—	—	良好	よい赤褐色	破片	角閃石・白色粒を含む。		
6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	12本	—	ナメナデ	—	—	—	良好	よい赤褐色	破片	片岩・チャートを含む。		
7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	12本	—	ナメハケ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	角閃石安山岩粒を含む。		
8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	14本	—	ナメハケ後ナデ	—	—	—	良好	よい赤褐色	破片	角閃石安山岩粒を含む。		
9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ・ナメハケ	10本	—	ナデ	—	—	—	良好	褐色	破片	角閃石安山岩粒を含む。		
10	—	—	—	①-②-③-④-⑤-⑥-	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコハケ・タテハケ	12本	—	ナメハケ後ナデ	—	—	—	良好	よい赤褐色	破片	明顔形円筒埴輪。角閃石安山岩粒を含む。		

林28号墳 円筒埴輪観察表

番号	法 量 (cm)						突起			透孔			口縁部 調整	外面調整			内面調整			底 部		焼成	色 調	残存率	備 考
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	幅	高さ	形態	径	調整	調整		ハク本数 ($\sqrt{2}$ cm)	基部	調整	基部	巻き	圧痕	調成	色 調				
1	—	—	—	—	—	—	2.0	0.7	(半円)	—	—	—	1次タテハケ	8本	—	ナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	角閃石・チャートを含む。		
2	—	—	—	①-②-③-④-⑤-⑥-	—	—	2.2	0.7	—	—	—	—	1次タテハケ	13本	—	ナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	よい赤褐色	破片	明顔形円筒埴輪。角閃石・チャートを含む。		

【文 献】

- 江原昌俊・大谷 徹 2005 「北武蔵における古墳時時代中期群集墓の形成」『考古学ジャーナル』4月号 (№528) ニューサイエンス社 東京 pp.16~18.
- 広瀬和雄 1992 「前方後円墳の畿内編年」『前方後円墳集成畿内編』山川出版社 東京 pp.24-26.
- 橋本博文・佐々木幹雄ほか 1980 『宍勝寺北裏遺跡』宍勝寺北裏遺跡調査会 東京.
- 恋河内昭彦 1996 「第V章まとめ」『辻堂遺跡I—県営水田農業確立排水対策特別事業（やほり川地区）に伴う辻堂遺跡B地点発掘調査報告書—』児玉町文化財調査報告書第19集 児玉町教育委員会 児玉郡児玉町 pp.63-90.
- 松本 完 2002 「大久保山遺跡浅見山I地区（第2次）・北堀前山古墳群（第2・3次）発掘調査報告書—新幹線本庄新駅（仮称）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査I—」本庄市遺跡調査会報告第6集 本庄市遺跡調査会 本庄.
- 中村倉司 1999 「埼玉県における5世紀代の土器—和泉式土器の行方—」『東国土器研究』第5号 東国土器研究会 藤沢 pp.91-118.
- 並木 隆 1976 「7 本庄市旭古墳群の調査」『第9回遺跡発掘報告会発表要旨』埼玉考古学会・埼玉県遺跡調査会・埼玉県教育委員会 浦和 pp.8-9.
- 南毛古墳文化研究会 2001 「本庄市域における古式古墳調査の成果と課題」第5回群馬県古墳時代研究会・南毛古墳文化研究会合同検討会資料 本庄.
- 太田博之 1991 「本庄遺跡群発掘調査報告書V—公卿塚古墳—」本庄市埋蔵文化財調査報告第19集 本庄市教育委員会 本庄.
- 太田博之 2001 「旭・小島古墳群—前の山古墳—」本庄市埋蔵文化財調査報告第23集 本庄市教育委員会 本庄.
- 太田博之 2004 「旭・小島古墳群—上前原1~3・5~11号墳—」本庄市埋蔵文化財調査報告第27集 本庄市教育委員会 本庄.
- 太田博之・松本 完・的野善行 2005 「旭・小島古墳群—林地区I—」本庄市埋蔵文化財調査報告書第3集 本庄市教育委員会 本庄.
- 大谷 徹 1998 「新屋敷遺跡D区」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第194集 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 大里郡大里.
- 坂本和俊 1985 「埼玉県における円筒埴輪編年の諸問題」『埴輪の変遷—その普遍性と地域性—』北武蔵古代文化研究会 pp.63-69.
- 1986 「埼玉における前期古墳の形成」『埼玉県古式古墳調査報告書』埼玉県史編さん室 浦和 pp.204-207.
- 埼玉県教育委員会 1994 「埼玉県古墳詳細分布調査報告書」浦和.
- 菅谷浩之 1984 「北武蔵における古式古墳の成立—児玉地方からみた北武蔵の古式古墳—」児玉町史資料調査報告 古代第1集 児玉町教育委員会・児玉町史編纂委員会 児玉郡児玉町.
- 杉山晋作・太田博之 2005 「関東における古墳時時代中期群集墓の墓制変容」『考古学ジャーナル』4月号 (№528) ニューサイエンス社 東京 pp.3・4.
- 和田晴吾 1992 「群集墳と終末期古墳」『新版古代の日本』第五巻近畿I pp.325-350. 角川書店 東京.

写 真



御嶽塚古墳A地点 周堀検出状況 [南西から]



御嶽塚古墳B地点 調査区全景 [南東から]



御嶽塚古墳C地点 周堀検出状況 [東から]



林9号墳A地点 周堀検出状況 [北から]



林9号墳B地点 周堀検出状況 [北西から]



林9号墳D地点 調査区全景 [北東から]



林10号墳A地点 調査区全景 [南東から]



林10号墳B地点 調査区全景 [南東から]

写真2



林10号墳C地点 周堀検出状況 [北西から]



林11号墳A地点 周堀検出状況 [北東から]



林11号墳B地点 周堀検出状況 [南東から]



林13号墳A地点 周堀検出状況 [南西から]



林13号墳A地点 周堀検出状況 [南西から]



林14号墳A地点 周堀検出状況 [南東から]



林15号墳A地点 周堀検出状況 [北西から]



林16号墳A地点 周堀検出状況 [南東から]



林16号墳C地点 周堀検出状況 [南東から]



林17号墳A地点・18号墳C地点周堀検出状況
[北東から]



林18号墳B地点 周堀検出状況 [南から]



林19号墳A地点 周堀検出状況 [南東から]



林19号墳A地点 周堀検出状況 [南から]



林20号墳A地点 周堀検出状況 [南から]



林20号墳B地点 周堀検出状況 [南東から]



林20号墳C地点 周堀検出状況 [南西から]

写真4



林20号墳C地点 周堀検出状況 [北東から]



林20号墳C地点 周堀検出状況 [北西から]



林20号墳E地点 周堀検出状況 [北東から]



林21号墳A地点 周堀検出状況 [北東から]



林21号墳B地点 周堀検出状況 [南から]



林22号墳A地点 周堀検出状況 [北西から]



林23号墳A地点 周堀検出状況 [北西から]



林24号墳A地点 周堀検出状況 [北西から]



林23号墳B地点・24号墳B地点 周堀検出状況
[北西から]



林25号墳A地点 周堀検出状況 [北東から]



林26号墳A地点・27号墳B地点 周堀検出状況
[南東から]



林27号墳A地点 周堀検出状況 [西から]



林28号墳A地点 周堀検出状況 [北西から]



林28号墳B地点 周堀検出状況 [北から]



林28号墳C地点 周堀検出状況 [南西から]



林30号墳A地点 調査区全景 [西から]

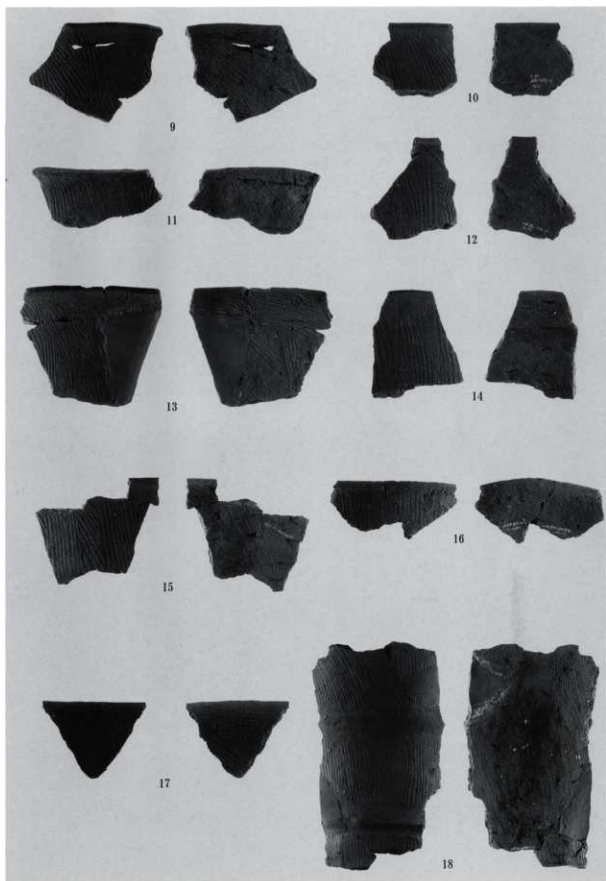
写真6



御嶽塚古墳出土土器

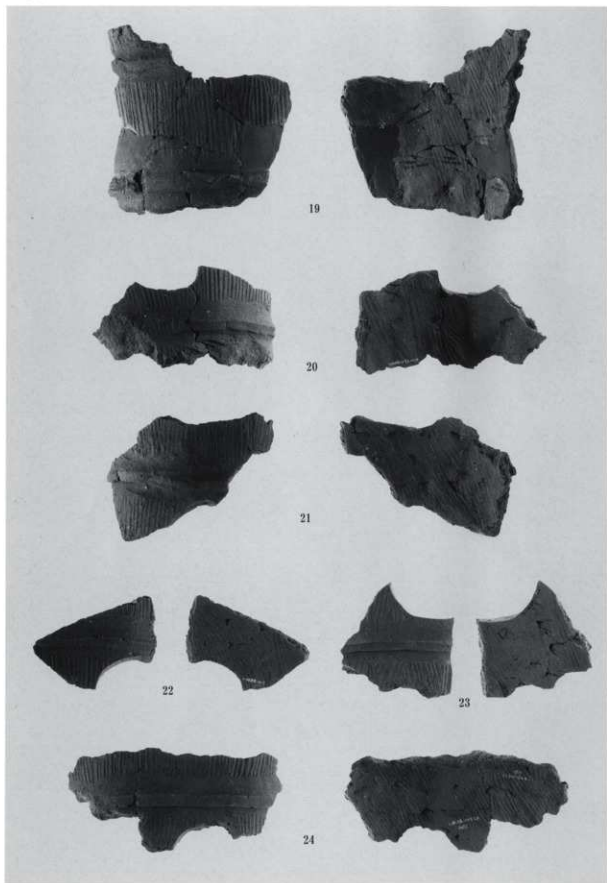


御嶽塚古墳出土土円筒・朝顔形埴輪(1)

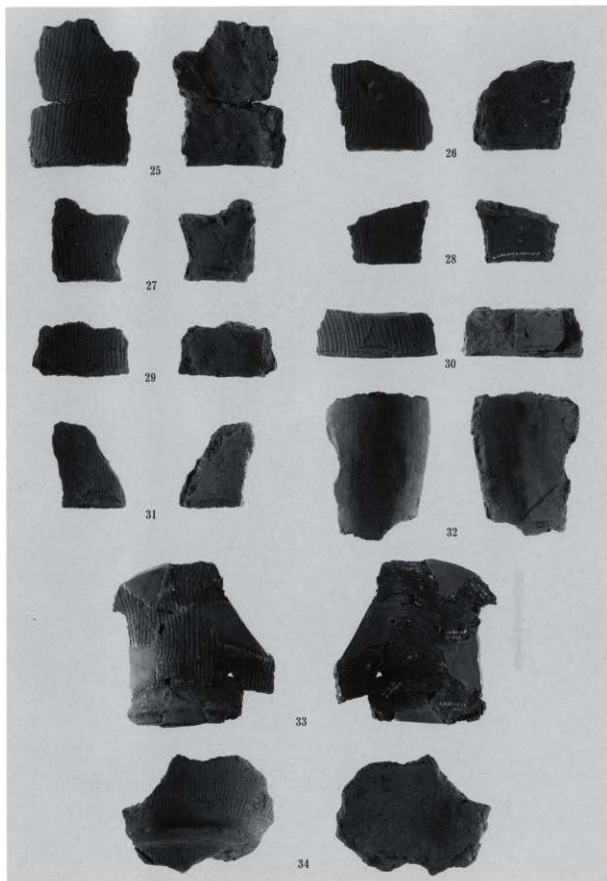


御嶽塚古墳出土円筒・朝顔形埴輪(2)

写真8

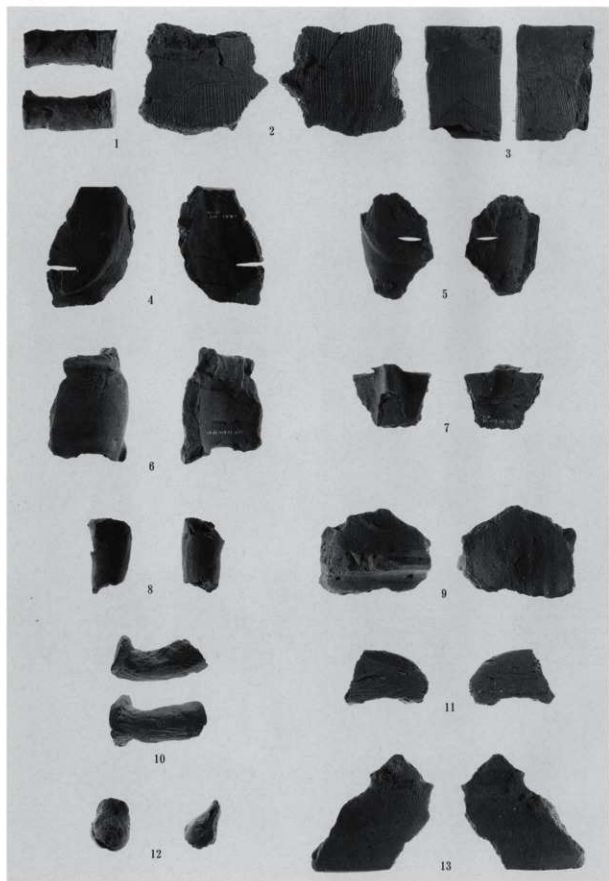


御藏塚古墳出土土円筒・朝顔形埴輪(3)

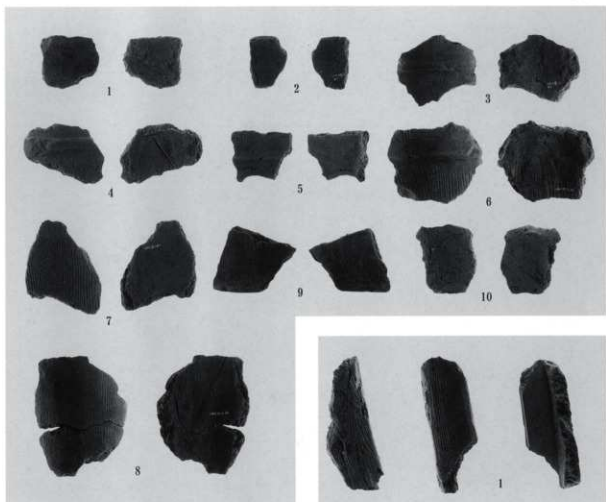


御嶽塚古墳出土円筒・朝顔形埴輪(4)

写真10

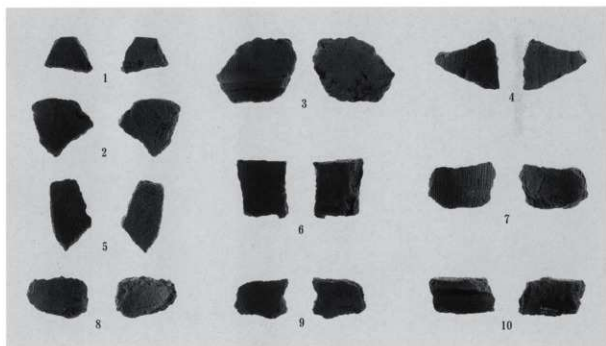


御嶽塚古墳出土土形象埴輪



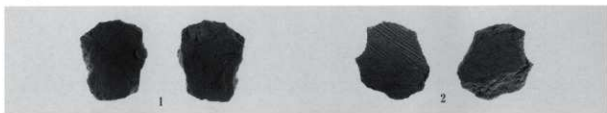
林10号墳出土円筒・朝顔形埴輪

林10号墳出土土形象埴輪



林11号墳出土円筒・朝顔形埴輪

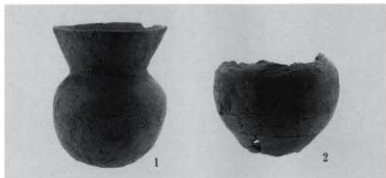
写真12



林11号墳出土形象埴輪



林13号墳出土土器



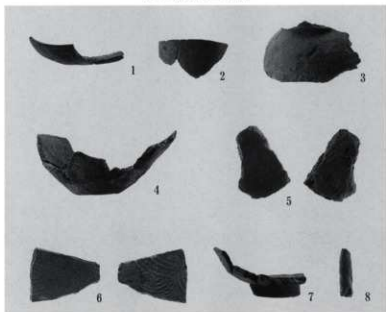
林14号墳出土土器



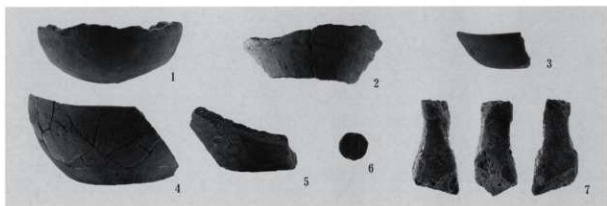
林15号墳出土土器



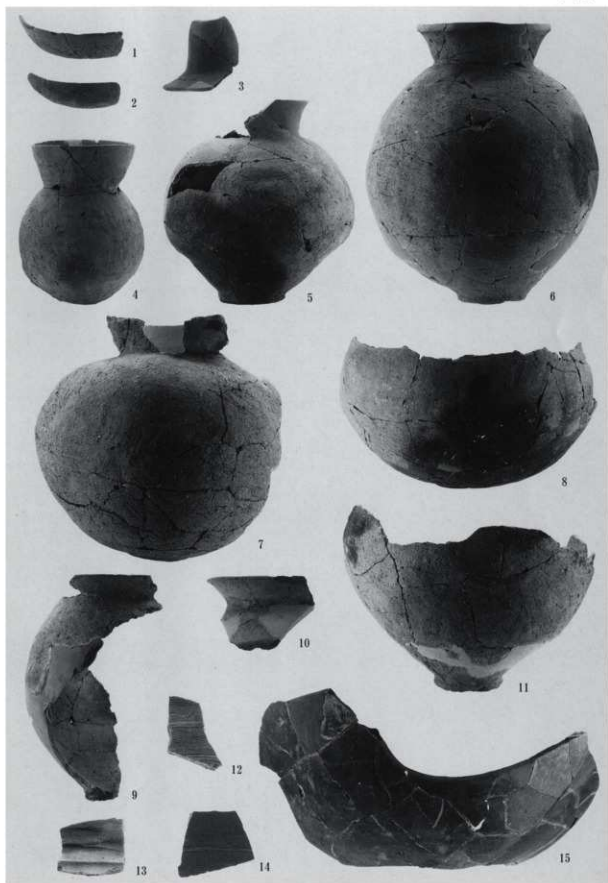
林19号墳出土土器



林16号墳出土土器

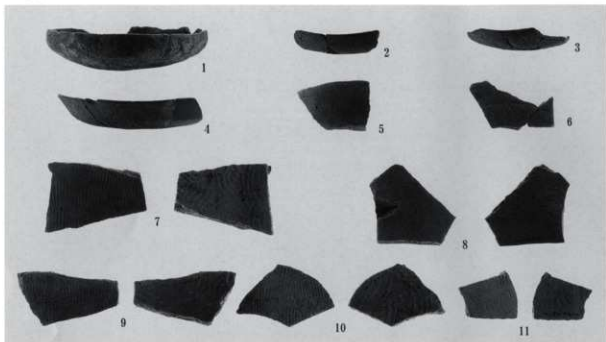


林20号墳出土土器

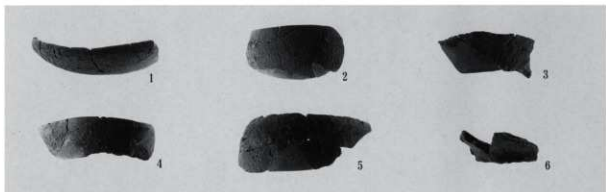


林21号墳出土土器

写真14



林25号墳出土土器



林28号墳出土土器



林28号墳出土土円筒・朝顔形埴輪



林28号墳出土土形象埴輪

報告書抄録

ふりがな	あさひ・おじまこふんぐん はやしちくくに							
書名	旭・小島古墳群 林地区II							
副書名	小島西土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書V							
巻次								
シリーズ名	本庄市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第6集							
編著者名	太田博之							
編集機関	本庄市教育委員会							
所在地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号 本庄市教育委員会 電話0495-25-1186							
発行年月日	西暦2007(平成19)年3月30日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間 (m)	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
旭・小島古墳群	埼玉県本庄市 小島2丁目・小島 3丁目・小島 及び下野堂地内	112119	171	36°14'48"	139°10'19"	19801107～ 20040325	11,009m ²	区画整理
所収遺跡	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
旭・小島古墳群	古墳	古墳時代前期～終末期		古墳		埴輪、土師器		

本庄市埋蔵文化財調査報告書 第6集

旭・小島古墳群

—林地区 II—

小島西土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書V

平成19年3月26日 印刷

平成19年3月30日 発行

発行／本庄市教育委員会

〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号

電話 0495-25-1186

印刷 朝日印刷工業株式会社